項目		記入欄
本籍 現住所 氏名 生年月日		年 月 日生
卒業シタル學校及學科		(學校名) (學科名)
國民職業能力申告令ニ依ル申告ノ有無		
現在又ハ從前ノ就業場ニ於ケル事項	名稱	
	所在地	
	事業ノ種類	
	雇入レラレタル年月日	
	解雇又ハ退職ノ年月日	
	退職ノ理由	
	職業名	
	賃金又ハ給料	
備考		

昭和 年 月 日

〔北海勞〕

〔北海勞〕

右本人 氏 名㊞

國民職業指導所長宛

備考

一 「氏名」欄ニハ氏名ノ左側ニ生年月日ヲ記載スルコト

二 「卒業シタル學校及學科」欄ニハ工業及鑛業ニ關スル實業學校以上ノ學校ヲ卒業セザル者ハ記載スルコトヲ要セザルコト尙專門學校以上ノ學校ヲ卒業シタル者ハ最終卒業學校ニ付記載スルコト

三 「國民職業能力申告令ニ依ル申告ノ有無」欄ニハ國民職業能力申告令第二條ノ要申告者ニシテ同令第四條第一項ノ一般申告ヲ爲シタル者ハ「有リ」ト記載シ其ノ他ノ者ハ「無シ」ト記載スルコト

四 「現在又ハ從前ノ就業場ニ於ケル事項」欄ノ記載ハ左記ニ依ルコト

イ、從業者移動防止令(以下令ト稱ス)第二條第一號又ハ第三號ニ該當スル者(現職者)ハ現在使用セラルル就業場ニ付、同令第二號又ハ第四號ニ該當スル者(前歷者)ハ從前ノ就業場ニ付記載スルコト

ロ、「事業ノ種類」欄ニハ例ヘバ「石炭鑛業」「鑄物業」「パルプ製造業」等ノ如ク成ルベク具體的ニ記載スルコト

ハ、「解雇又ハ退職ノ年月日」欄ニハ令第二條第一號又ハ第三號ニ該當スル者(現職者)ハ記載スルコトヲ要セザルコト尙從前ノ就業場ノ都合ニ依リ解雇セラレタル者ハ年月日ノ下ニ「解雇」ト記載シ自己ノ都合ニ依リ退職シタル者ハ「退職」ト記載スルコト

ニ、「退職ノ理由」欄ニハ令第二條第一號又ハ第三號ニ該當スル者(現職者)ハ現在ノ就業場ヲ退職セントスル理由ヲ、令第二條第二號又ハ第四號ニ該當スル者(前歷者)ハ從前ノ就業場ヲ退職シタル理由ヲ成ルベク具體的ニ記載スルコト尙從前ノ就業場ノ都合ニ依リ解雇セラレタル者ハ本欄ノ記載ヲ要セザルコト

ホ、「職業名」欄ニハ現在又ハ從前ノ就業場ニ於ケル職業名ヲ例ヘバ「電氣技術者」「炭坑支柱夫」「旋盤工」「精密

組立工」「木型工」「雜工」等ノ如ク成ルベク具體的ニ記載スルコト尚國民職業能力申告令第二條ノ要申告者ニ在リテハ同令ニ依リ國民職業指導所ニ申告シタル職業名ニ依ルコト

ヘ、「賃金又ハ給料」欄ニハ現在又ハ從前ノ就業場ニ於テ支給サレ又ハ支給サレタル賃金又ハ給料ニ付例ヘバ時給三十錢、日給一圓八十錢、月給八十五圓等ノ如ク其ノ基本額ヲ記載スルコト但シ請負出來高拂ニ依リ支給サレ又ハ支給サレタル者ハ其ノ旨記載ノ上一日ノ平均稼得額ヲ記載スルコト(例ヘバ「請負二圓五十錢」等ノ如ク記載スルコト)尚左側ニ加給又ハ諸手當ヲ含ム一ケ月ノ平均實收額ヲ記載スルコト

五 「備考」欄ニハ現在又ハ從前ノ就業場ヲ退職後雇入レラレントスル工場、事業場其ノ他ノ就業場ノ名稱及所在地其ノ他參考トナルベキ事項ヲ記載スルコト

六 本樣式ハ必ズシモ罫線ヲ以テ各欄ヲ區別シテ記載スルヲ要セザルコト

樣式第二號

指定從業者雇入認可申請書

事業ノ種類					
主要生產品目					
雇入レントスル指定從業者ノ氏名	現在又ハ從前ノ就業場ノ名稱及所在地	從事セシメントスル職業名	支給セントスル賃金又ハ給料	備考	使用工場、事業場又ハ其ノ他ノ場所ノ名稱及所在地
年月日生					
年月日生					
計人					
申請ノ理由					

〔北海勞〕

備考

昭和　年　月　日

申請者　住所

氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名)㊞

國民職業指導所長宛

備考

一 「事業ノ種類」欄ニハ例ヘバ「石炭鑛業」「鑄物業」「パルプ製造業」等ノ如ク成ルベク具體的ニ記載スルコト

二 「主要生產品目」中軍機上記載スルコト困難ナルモノニ付テハ其ノ旨ノ當該軍係官ノ證明書ヲ添附シテ之ガ記載ヲ省略スルコトヲ得ルコト

三 「雇入レントスル從業者ノ氏名」欄ニハ氏名ノ左側ニ其ノ生年月日ヲ記載スルコト

四 「現在又ハ從前ノ就業場ノ名稱及所在地」欄ニハ令第二條第一號又ハ第三號ニ該當スル者(現職者)ニ付テハ現在ノ就業場、同條第二號又ハ第四號ニ該當スル者(前歷者)ニ付テハ從前ノ就業場ニ付記載スルコト

五 「從事セシメントスル職業名」欄ニハ雇入後使用工場、事業場等ニ於テ從事セシメントスル職業名ヲ例ヘバ「電氣技術者」「炭坑支柱夫」「旋盤工」「木型工」等ノ如ク成ルベク具體的ニ記載スルコト

六 「支給セントスル賃金又ハ給料」欄ニハ時給、日給又ハ月給ノ區別ヲ明ニシ其ノ基本額ヲ記載スルコト但シ請負出來高拂等ノ場合ハ其ノ旨記載ノ上一日平均稼得見込額ヲ記載スルコト尚左側ニ加給又ハ諸手當ヲ含ム一月ノ實收見込額ヲ括弧シテ記載スルコト

七 「申請ノ理由」欄ニハ闕員補充、增員又ハ工場若ハ事業場ノ新設ニ因ル雇入ノ區別ヲ記載シ且闕員補充ニ在リテハ其ノ闕員ノ狀況、增員ニ在リテハ事業ノ擴張又ハ交替制ノ採用等、工場又ハ事業場ノ新設ニ因ル雇入ニ在リテハ之ニ要スル職種別勞務者員數及之ガ充足狀況等ヲ詳細記載スルコト

八 「備考」欄ニハ申請セル從業者ヲ雇入レ得ザル場合ニ於ケル當該工場、事業場等ノ支障ノ程度其ノ他參考トナ

〔北海勞〕

ルベキ事項ヲ記載スルコト

九　本申請書ハ雇入レントスル指定従業者ヲ使用セントスル工場、事業場其ノ他ノ場所ノ所在地ガ其ノ者ヲ現在使用シ又ハ従前使用シタル工場、事業場其ノ他ノ場所ノ所在地ト國民職業指導所ノ管轄ヲ異ニスル場合ハ正副二通ヲ作成シ従業者ヲ使用セントスル工場、事業場其ノ他ノ場所ノ所在地ノ所轄國民職業指導所長ヲ經由シテ提出スルコト

一〇　本則施行前従業者雇入制限令ニ基ク認可申請書ヲ提出シ未ダ認可又ハ不認可ノ指令ナキモノニ付テハ改メテ本様式ニ依ル申請書ノ提出ヲ要セザルコト

様式第三號

指定従業者雇入同意書

右ノ者（昭和　年　月　日解雇致候ニ就テハ）今後何處（貴方）ニ雇入レラルルモ當方ニ異議無之候也

昭和　年　月　日

住所

氏名　（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名）　㊞

（　殿）

備考

〔北海勞〕

一　指定従業者ノ「職業名」ハ同意書ヲ交付スル者ノ工場、事業場等ニ於テ指定従事セシメタル職業名ヲ例ヘバ「機械技術者」「採鑛夫」「仕上工」「火藥工」等ノ如ク成ルベク具體的ニ記載スルコト

二　本文ノ（昭和　年　月　日解雇致候ニ就テハ）ノ事項ハ令第二條第二號及第四號ニ該當スル者（前歷者）ニ關スル同意書ニ限リ記載スルコト

三　同意書ノ宛名ハ其ノ同意ノ内容ガ何處ニ雇入レラルルモ異議ナキ旨ヲ表示セルモノナル場合ハ之ヲ記載セザルコト

四　本則施行前交付ヲ受ケタル同意書ニ付テハ本様式ニ依ルコトヲ要セザルコト

様式第四號

従業者雇入報告

事業ノ種類	使用工場、事業場又ハ其ノ他ノ場所ノ名稱及所在地	雇入年月日	雇入レタル従業者ノ氏名	従前ノ職業名	卒業學校及學科名	従前ノ就業場ノ名稱及所在地	認可又ハ其ノ他ノ雇入別	備考
		年月日生						
		年月日生						
		年月日生						
		年月日生						
計	人							

〔北海勞〕

昭和　年　月　日

國民職業指導所長宛

住所

氏名（法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名）㊞

備考

一　本報告書ハ總テ使用工場、事業場又ハ事務所等ノ所在地ノ所轄國民職業指導所長宛提出スルコト

二　「卒業學校及學科名」欄ニハ工業又ハ鑛業ニ關スル學校卒業者以外ノ者ニ付テハ記載ヲ要セザルコト

三　「認可又ハ其ノ他ノ雇入別」欄ニハ令第五條ノ規定ニ依リ國民職業指導所長ノ認可ヲ受ケテ雇入レタル場合ハ「認可」ト記載シ且雇入認可國民職業指導所名及認可年月日番號ヲ傍書シ、規則第四條第一號ノ規定ニ依リ國民職業指導所ノ紹介ニ依ツテ雇入レタル場合ハ「紹介」ト記載シ、同條第二號ノ規定ニ依リ指定從業者ノ從前ノ使用主ノ指定從業者雇入同意書ニ依ツテ雇入レタル場合ハ「同意」ト記載スルコト

四　規則第四條第二號ノ規定ニ依リ指定從業者ノ從前ノ使用主ノ指定從業者雇入同意書ニ依ツテ雇入レタル場合ノ報告ニ付テハ其ノ同意書ノ「寫」ヲ添附スルコト

一八〇

樣式第五號　本票ノ用紙ノ大サハ國定規格A7判（74mm×105mm）トシ中央點線ノ所ヨリ二ツ折トナス

【北海勞】

（表面）

第一章 工場

從業者移動防止ニ關スル臨檢票

（裏面）

第　號　昭和　年　月　日交付

厚生省、廳府縣又ハ

官職　氏名

國民職業指導所　印

國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依リ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該官吏ヲシテ從業者ノ雇入又ハ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

從業者移動防止令第十二條　厚生大臣、地方長官又ハ職業紹介所長必要アリト認ムルトキハ指定從業者ノ雇入又ハ使用ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ當該官吏ヲシテ指定從業者ヲ雇入レ若ハ雇入レンテストスル者又ハ使用シ若ハ使用セントスル者ノ工場、事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

【北海勞】

●從業者移動防止令第三條第三號ノ技術者指定

昭和十五年十一月十五日
厚生省告示第三百五十八號

從業者移動防止令第二條第三號ノ技術者ヲ左ノ通指定ス

一 鑛山技術者（採炭、選炭、採鑛、選鑛、採油又ハ採鑛ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

二 冶金技術者（金屬ノ製錬、合金、熱處理又ハ其ノ他ノ冶金ニ關ス技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

三 電氣技術者（電動機、發電機、變壓器等ノ電氣機械器具、電氣計器、電氣照明用機械器具、電線若ハ電纜ノ製作、取附、修繕若ハ取扱又ハ發變電若ハ送配電ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

四 電氣通信技術者（有線電信電話機、無線電信電話機〔放送用ヲ含ム〕、電視裝置、電寫裝置、電氣信號機等ノ電氣通信用機械器具ノ製作、取附、修繕又ハ取扱ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

五 機械技術者（陸、舶及航空機用ノ原動機、工作機械、鑛山用機械、冶金用機械、化學用機械、計器、光學機械、精密機械、兵器、車輛、自動車、起重機若ハ其ノ他ノ機械器具ノ製作、修繕若ハ取扱、鐵塔、橋梁等ノ構造物ノ製作若ハ修繕又ハ金屬ノ壓延、鑄造、鍛造等ノ加工ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

六 航空機技術者（航空機ノ機體又ハプロペラノ製作ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者〔航空機用原動機製作ニ從事スル者ヲ除ク〕）

七 造船技術者（造船ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

八 化學技術者（有機化學、無機化學、電氣化學、高壓化學等ノ化學ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

九 木工技術者（製材、木工品ノ製造又ハ機械類ノ木部ノ製造若ハ修繕ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

十 窯業技術者（セメント、ガラス、陶磁器、耐火煉瓦又ハ其ノ他ノ窯業ニ關スル技術ニ從事シ又ハ其ノ指導監督ニ從事スル者）

●從業者移動防止强化ニ關

スル件

昭和十六年二月一日
巳勞第八三四號警察部長學務部長

全道各警察署長
全道各國民職業指導所長
全道各國民職業出張所長 宛
全道國民勞働指導所長

軍需其他時局ノ要求スル生產擴充計畫遂行上最モ重要ナル從業者ノ移動防止ニ關シテハ昭和十五年十一月從來ノ從業者雇入制限令ヲ强化シテ新ニ從業者移動防止令ヲ制定シ之ガ防止對策ニ一段ノ施策ヲ講ジタル次第ナルガ政府ニ於テハ更ニ最近ノ從業者移動ノ激增ニ鑑ミ今回全道各廳府縣ニ之ガ取締ニ從事スル警察官ヲ增員シ從業者移動防止ニ關スル査察取締ヲ强化スルコト、ナリタルヲ以テ爾今各署（所）ニ於テハ一層連絡協調ヲ密ニシ本令ノ運用上萬遺憾ナキヲ期セラレ度

尙當廳トシテハ本件取締事務分掌ヲ警察部勞政課（賃金係）主管トシ各警察署ニ於ケル具體的取締計畫等ハ追テ通牒ノ豫定ナルモ不取敢別紙印刷物各壹部郵送シタルヲ以テ部下吏僚ノ指導教養ニ供セラレ度

●鑛夫就業扶助規則

大正五年八月三日
農商務省令第二十一號

改正 大正五年農商務省令第二九號、一五年內務省令第一七號、昭和二年第三〇號、三年第三〇號、四年第二五號、一一年第二二號、第五五號、一四年厚生省令第九號、一六年第一七號

鑛夫就業扶助規則左ノ通定ム

鑛夫就業扶助規則

第一條 鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル雇傭就業規則ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ鑛業著手前鑛山監督局長ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

一 業務ノ種類
二 雇入ノ手續
三 解雇ノ事由及手續
四 解雇ノ場合ニ於ケル歸鄕旅費支給ニ關スル事項
五 賃金ノ支拂方法及支拂期日
六 石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
七 鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戻ノ事由及手續
八 鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目
九 業務別就業時間及就業時ノ轉換方法
十 休日

十一　〔尋常小學校〕ノ教科ヲ終了セサル學齢兒童ヲ雇傭スルトキハ就學ニ關シ必要ナル事項

十二　賞與及制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

第二條　採掘權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休日ニ關スル事項ニ付履傭就業規則ニ依ラサルコトヲ得

第三條　鑛業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　氏名

二　生年月日

三　本籍

四　履歴ノ要領

五　鑛夫十六歳未滿ナル場合ニ於テハ〔尋常小學校〕ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル〔尋常小學校〕ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨

青年學校令ニ依リ就學セシメラルヘキ者ニシテ十六歳未滿ノモノニ在リテハ其ノ就學スル青年學校名、入學シタル學年及入學ノ年月

六　業務ノ種類

七　雇入ノ年月日

八　履傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間

前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第四條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ掲クル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

一　解雇又ハ死亡ノ年月日

二　解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條　鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ從事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第六條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ選炭作業ニ從事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二　鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ石炭鑛業ニ在リテハ十六歳未滿ノ者及女子、其ノ他ノ鑛業ニ在リテハ十六歳以上ノ女子ヲシテ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ午後十一時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

第七條ノ二　坑内ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入リタル時ヨリ坑口ヲ出デタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑及出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラズ就業時間ヲ延長シ第七條及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應ズル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條　鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間毎ニ其ノ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ

第十條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムル場合ニ於テハ少クトモ四回ノ休日ヲ設クヘシ

第十一條　鑛業權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲又ハ避クヘカラザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラズ就業時間ヲ延長シ第七條及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應ズル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ様式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第十一條ノ二　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ抗内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ主トシテ薄層ヲ掘採スル石炭坑ニ就業スル鑛夫ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第十二條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、檢査又ハ修理

二　機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危險ナル方法ニ依ル取附又ハ取外

三　汽罐ノ焚火、給水弁若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四　發電氣、電動機、發動機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コツトレル」集塵裝置ニ屬スル整流機ノ取扱

五　高壓電線ノ接續

六　機械力ニ依リ運轉スル捲揚機ノ取扱

七　運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離

八　鑛物ノ掘採及岩石ノ掘鑿

九　爆發藥ノ裝塡又ハ點火

十　支柱ノ取附又ハ取外

十一　製錬作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱

十二　有害ナル鹽塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除

十三　砒素、水銀、鉛若ハ亜鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸汽又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

十四　電解精錬ヲ爲ス場所ニ於ケル業務

十五　鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條　鑛業權者ハ十六歳未滿ノ者ヲシテ左ニ掲クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物、「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱

二　揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性又ハ引火性料品ノ取扱

三　土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條　鑛業權者ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　精神病

二　癩、肺結核、喉頭結核

三　丹毒、再歸熱、麻疹、流行性腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病

四　黴毒、疳瘡其ノ他傳染性皮膚病

五　膿漏性結膜炎、「トラホーム」（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　鑛業權者ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者ヲ休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ產後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ產後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條　生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑内作業ニ從事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑内作業ニ從事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條　鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ傭雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第十八條　鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第十九條　鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

鑛夫ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第二十條　鑛夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ鑛業權者ハ別表ニ掲ケル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルトキハ賃金百八十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チザルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲ケル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スベシ

左ニ掲ケル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上ゲ但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ズ

〔北海勞〕

一　第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　一級
二　第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　二級
三　第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　三級

別表ニ掲ケルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲ケル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スベシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スベシ

第二十條ノ二　鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チザルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

〔北海勞〕

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主
二　鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者
三　鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル指定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條　第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ每月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク之ヲ支給スベシ但シ鑛業權者ガ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間內障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スベシ

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二　鑛夫健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受ク(キトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セ

ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十三條　遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條　前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
二　男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
三　直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス
四　前二號ニ掲ケル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條　第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲ケル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲ケル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

ス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條　第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分（其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓）ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第二十七條ノ二　鑛業權者豫メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本則ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十八條　鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

一　鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ解雇前ニ又ハ解雇後一箇年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二　扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第二十九條　扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一　鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二　鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ卽死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前）三月間（雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一　業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二　產前又ハ產後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三　試ノ雇傭期間

四　鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條　鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條　鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク之ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條　鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキ又ハ第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ樣式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十四條　鑛夫就業中又ハ事業場內ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ヲシテ

診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二　採掘權者ハ樣式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸鄉旅費支給ノ狀況ヲ、樣式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十五條　鑛業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鑛夫ニ付始業及終業ノ時刻竝休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

鑛業權者ハ坑內ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出坑ノ時刻竝休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑ノ開始及終了ノ時刻トス

鑛業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル者及所定ノ出坑時刻又ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付樣式第五號ニ依リ記錄スヘシ

前項ノ記錄ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條　鑛業權者ハ雇傭就業規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條　鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、就業又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十八條　雇傭就業規則ニ違反シタル採掘權者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條　鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條　削除

第四十一條　鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　本則ハ第三十八條、第三十九條及前條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス但シ國ノ鑛業ニ於ケル鑛夫及其ノ遺族ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規定ニ依ル

附　則

第四十三條　本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔北海勞〕

第四十四條　第五條ノ規定ハ本則施行前ヨリ十歲以上ノ者ヲ引續キ就業セシムル場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テハ本則施行ノ日ヨリ一箇月以內ニ其ノ鑛夫ノ氏名及生年月日ヲ鑛務署長ニ屆出ツヘシ

第四十五條　第八條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ一年六箇月間、第十四條、第十五條、第三十三條及第三十五條ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間之ヲ適用セス

第四十六條　鑛夫ノ雇傭及勞役ニ關スル規則竝扶助規則ニシテ本則施行前ニ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ本則施行ノ日ヨリ四箇月間ハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得但シ本則ノ規定ニ違背スルモノハ本則施行ノ日ヨリ二箇月以內ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十七條　第四十四條第二項又ハ前條但書ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則　（昭和三年內務省令第三十號）

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

（別表）

身體障害等級及障害扶助料表

等級	身體障害	扶助料

〔北海勞〕

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

附　則　（昭和十一年內務省令第五十五號）

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生ジタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病ガ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同ジ

附　則　（昭和十六年厚生省令第十七號）

本令ハ昭和十五年法律第百二號（第十條ノ改正規定ヲ除ク）施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際他ノ省令ニ於テ「鑛夫勞役扶助規則」トアルハ「鑛夫就業扶助規則」トス

第一級	一	兩眼ヲ失明シタルモノ	
	二	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	
	三	精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	
	四	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	
	五	半身不隨ト爲リタルモノ	
	六	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	七	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
	八	兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	九	兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
第二級	一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	
	二	兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ	
	三	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	四	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	
第三級	一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	
	二	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	

〔北海勞〕

貨金大百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チザルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス

貨金五百三十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チザルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓トス

貨金四百七十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテ

	三	精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
	四	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ	
	五	十指ヲ失ヒタルモノ	
第四級	一	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ	
	二	咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
	三	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ	
	四	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	五	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	六	十指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	七	兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	
第五級	一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ	
	二	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	三	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	四	一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	

〔北海勞〕

八二百四十圓ニ滿チザルトキハ夫々三百三十八圓又ハ二百四十圓トス

貨金四百十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十圓、女子ニ在リテハ二百十圓ニ滿チザルトキハ夫々三百三十圓又ハ二百十圓トス

貨金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、女子ニ在リテハ二百八十圓ニ滿チザルトキハ夫々二百八十圓又ハ百八十圓トス

	五	一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ
	六	十趾ヲ失ヒタルモノ
第六級	一	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
	二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
	三	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ
	四	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ
	五	一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ
	六	一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ
	七	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ
第七級	一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ
	二	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十糎以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ
	三	精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ
	四	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ

〔北海勞〕

		貨金三百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百四十圓、女子ニ在リテハ百五十圓ニ滿チザルトキハ夫々二百四十圓又ハ百五十圓トス
		貨金二百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ百二十五圓ニ滿チザルトキハ夫々二百圓又ハ百二十五圓トス

	五	得ザルモノ
	六	一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ
	七	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ
	八	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ
	九	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ
	十	女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ
		兩側ノ睾丸ヲ失ヒタルモノ
第八級	一	一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇二以下ニ減ジタルモノ
	二	頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ
	三	神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得ザルモノ
	四	一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ
	五	一手ノ拇指及示指又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ廢シタルモノ
	六	一下肢ヲ五糎以上短縮シタルモノ

〔北海勞〕

		貨金二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百六十圓、女子ニ在リテハ百圓ニ滿チザルトキハ夫々百六十圓又ハ百圓トス

	七	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ
	八	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ廢シタルモノ
	九	一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ
	十	一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ
	十一	一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ
第九級	一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ
	二	一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減ジタルモノ
	三	兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ
	四	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ
	五	鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ
	六	咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
	七	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ
	八	一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ
	九	一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ
	十	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ

〔北海勞〕

	十一	一足ノ五趾ノ用ヲ廢シタルモノ
第十級	一	一眼ノ視力〇・一以下ニ減ジタルモノ
	二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
	三	十四歯以上ニ對シ歯科補綴ヲ加ヘタルモノ
	四	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ
	五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ
	六	一手ノ拇指ノ用ヲ廢シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ廢シタルモノ
	七	一下肢ヲ三糎以上短縮シタルモノ
	八	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ
第十一級	一	兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
	二	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ
	三	一眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ

賃金百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百二十圓、女子ニ在リテハ七十五圓ニ滿チザルトキハ夫々百二十圓又ハ七十五圓トス

賃金百二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ九十圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿チザルトキハ夫々九十圓又ハ六十圓トス

賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓、女子ニ在リテハ四十五圓ニ滿チザルトキハ夫々七十圓又ハ四十五圓トス

四		鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ確力四十糎以上ニテハ
		時常ノ話聲ヲ解シ得ザルモノ
五		脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ
六		一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ
		一手ノ示指ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用
七		ヲ廢シタルモノ
八		一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ廢シタルモノ
第十二級		
一		一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
二		一眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ
三		七歯以上ニ對シ歯科補綴ヲ加ヘタルモノ
四		一耳ノ耳殻ノ大部分ヲ缺損シタルモノ
五		鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ
六		一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
七		一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
八		長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ
九		一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ

〔北海勞〕

	賃金六十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓、女子ニ在リテハ三十圓ニ滿チザルトキハ夫々五十圓又ハ三十圓トス

十		一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ
十一		一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ
十二		局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ
十三		男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ
十四		女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ
第十三級		
一		一眼ノ視力〇・六以下ニ減ジタルモノ
二		一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ
三		兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ
四		一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ
五		一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
六		一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
七		一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
八		一下肢ヲ一糎以上短縮シタルモノ
九		一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ
十		一足ノ第二趾ノ用ヲ廢シタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢

〔北海勞〕

	賃金四十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿チザルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス

等級	號	身體障害	扶助料
		シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
第十四級	一	一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ	賃金二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ十五圓、女子ニ在リテハ十圓ニ滿チザルトキハ夫々十五圓又ハ十圓トス
	二	三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	
	三	上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
	四	下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ	
	五	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ	
	六	一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ	
	七	一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ	
	八	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
	九	局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ	
	十	男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ	

備考

一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス

二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

三 指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節(拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

五 趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ蹠趾關節若ハ第一趾關節(第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

〔北海勞〕

〔北海勞〕

(別記)

(樣式第一號甲)

扶助月報

大正　年　月分

鑛種	位置 名稱

鑛業權者又ハ代表者　住所　何　某印

鑛業代理人　住所　何　某印

登錄第　號

男女別	氏名 年齢	業務ノ種類	事故發生及終了年月日	事故ノ要領	扶助終了年月日	賃金	療養費	休業扶助料 日數	休業扶助料 金額	障害扶助料、遺族扶助料又ハ打切扶助料 種別	障害扶助料、遺族扶助料又ハ打切扶助料 金額	葬祭料	計	備考

記事

備考

一 本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ

二 本表ニハ扶助ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ記載スヘシ

(一)死者

(二)障害扶助料ヲ受ケタル者

(三)三十日以上休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受クル者ヲ除ク

(四)健康保險法ノ保險給付期間ヲ超エ療養ノ爲休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受クル者ヲ除ク

三 事故ノ要領ハ死亡ノ原因、別表ニ掲グル身體障害ノ程度、身體障害ナキトキハ負傷ノ程度、病名等ヲ記載スヘシ

四 賃金ハ第二十九條ノ規定ニ依ル扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金トス

五 療養費ハ第十八條ノ費用トス

六 障害扶助料ニ付テハ別表ニ掲グル等級ヲ記載スヘシ

七 健康保險法ノ保險給付期間ヲ超エ休業扶助料ヲ受ケタル者ニ付テハ備考欄ニ「保險給付超過」、健康保險ノ給付ヲ受ケ且休業扶助料ノ補給ヲ受クルモノニ付テハ「保險給付補給」ト記載スヘシ

八 法令ノ規定スル場合以外ニ扶助ヲ爲シタルトキハ記事欄ニ之ヲ記載スルヲ妨ケス

九 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

十 鑛夫就業扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル場合ニ於テハ障害ヲ

〔北海勞〕

(樣式第一號乙)

扶助半年報

鑛種		自昭和 年 月 至昭和 年 月分
位置 名稱	鑛業權者又ハ代表者 住所	何 某印
	鑛業代理人 住所	何 某印

登錄第 號													
種別	健康保險ノ被保險者ニ非サル者ニ對スル扶助				健康保險ノ被保險者ニ對スル補給扶助								
	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額					
負傷 男													
負傷 女													
負傷 計													
疾病 男													
疾病 女													
疾病 計													
總計													

〔北海勞〕

殘シタル時及現實ニ支給シタル時何レモ本表ニ記載シ前者ノ場合ニハ延期シタル旨ヲ、後者ノ場合ニハ障害扶助料支給延期報告屆出ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スベシ

記事

備考

一　本表ハ一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分ヲ七月三十一日迄ニ差出スヘシ

二　本表ニハ扶助月報ニテ報告シタルモノヲ除ク

三　療養中ノ者ハ治癒後ニ報告スヘシ

四　療養費ハ第十八條ノ費用トス

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（樣式第一號丙）

障害扶助料支給延期報告

（昭和　年　月　日届出）

登錄第　號	鑛種	位置名稱	鑛業權者又ハ代表者 住所 何 某印	鑛業代理人 住所 何 某印

男女別	氏名年齡	業務ノ種類	負傷疾病ノ別	事故發生及終了年月日	扶助月報ニ依ル扶助ノ年月日	治癒後ノ期間	支給延期ノ期間	障害扶助料 身體障害ノ部位	等級	金額	備考

〔北海勞〕

備考

一　本報告ハ鑛夫就業扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

二　本報告ニハ扶助ヲ受クヘキ鑛夫ノ障害扶助料支給延期承諾書ノ寫ヲ添附スヘシ

三　本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後三年間之ヲ保存スヘシ

四　本報告ハ鑛夫一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ

五　支給延期ノ期間欄ニハ例ヘハ履備期間中又ハ昭和　年　月　日迄ト記載スヘシ

六　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（樣式第二號）

鑛夫離鄕旅費年報

大正　年分

登錄第　號	鑛種	位置名稱	鑛業權者又ハ代表者 住所 何 某印	鑛業代理人 住所 何 某印

種別	件數	金額	記事
業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ解雇セラレ鄕鄕スル場合			
未成年者又ハ女子鑛業權者ノ都合ニ依リ解雇セラレ鄕鄕スル場合			
其ノ他ノ場合			

〔北海勞〕

備考

一 本表ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

二 「其ノ他ノ場合」ニ包含スル事由ノ概略ヲ記事欄ニ記載スヘシ

三 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（様式第三號）

鑛夫貯蓄金年報　大正　年分

登錄第　號					
鑛種		位置名稱		鑛業權者又ハ代表者	住所 何　某印
				鑛業代理人	住所 何　某印
種別	男	女	計		
員數					
金額					
記事					

備考

一 本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ十二月三十一日前ニ休業シタル鑛業ニ在リテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ

二 本表ニハ信認金、積立金其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スヘシ

〔北海勞〕

三 既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハサルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スヘシ

四 鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

〔北海勞〕

（様式第四號）

緊急ノ必要ニ因ル臨時就業屆　昭和　年　月分

登錄第　號											
鑛種		位置名稱		鑛業權者又ハ代表者	佐所 何　某印						
				鑛業代理人	住所 何　某印						
月日	業務ノ種類	就業場所	氏名	男女年少者別	延長時間	深夜就業時刻	其ノ他ノ臨時就業	事由			
記事											

備考

一　本届出ハ其ノ寫ヲ作成シ届出後三年間之ヲ鑛業事務所ニ保存スベシ

二　本届出ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ差出スベシ

三　就業場所欄ニハ本人ノ就業場所ヲ詳記スベシ十六歳未滿ノ者及女子ナル場合ニ其ノ場所ガ第六條ノ二第一項ニ規定スル場所ニ該當スルトキハ其ノ旨記載スベシ

四　氏名欄ニハ他ノ記載事項ノ同一ナルモノニ付テハ「何某外何名」ト記載シ各個ノ氏名ヲ省略スルコトヲ得

五　男女年少者別欄ニハ十六歳以上ノ男ハ「男」、十六歳未滿ノ男ハ「年少」、女ハ年齢ニ拘ラズ「女」ト記入スベシ

六　延長時間欄ニハ第五條第一項、第六條又ハ第六條ノ二第一項ニ定ムル時間ヲ超エテ就業セシメタル者ニ付其ノ超エタル時間ヲ記載スベシ

第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定ノ入坑時間内ニ入坑シ所定出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻トス

七　深夜就業時刻欄ニハ第七條ニ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未滿ノ者及女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スベシ

八　其ノ他ノ臨時就業欄ニハ十六歳未滿ノ者及女子ニ付第八條ノ規定ニ拘ラズ就業時ノ轉換ヲ爲サズ、第九條ノ規定ニ拘ラズ休日ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ旨記載スベシ

九　事由欄ニハ前三號ニ該當スル場合ニ其ノ事由ヲ記載スベシ

第十一條第一項本文ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ更ニ緊急ノ事由ニ依リ該許可ノ限度ヲ超エテ就業セシメタル場合ニハ其ノ旨記載スベシ

十　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スベシ

（様式第五號）

〔北海參〕

坑内鑛夫ノ所定時間外ノ出入坑ニ關スル記錄

〔北海參〕

月日	業務ノ種類	就業場所	氏名	男女年少者別	入坑時刻	出坑時刻	延長時間	深夜就業時刻	事由

備考

一　本記錄ハ各坑口別ニ之ヲ作成スベシ

二　就業場所欄ニハ本人ノ就業場所ヲ詳記スベシ十六歳未滿ノ者及女子ナル場合ニ其ノ場所ガ第六條ノ二第一項ニ該當スルトキハ其ノ旨記載スベシ

三　氏名欄ニハ他ノ記載事項ノ同一ナルモノニ付テハ「何某外何名」ト記載シ各個ノ氏名ヲ省略スルコトヲ得

四　男女年少者別欄ニハ十六歳以上ノ男ハ「男」、十六歳未滿ノ男ハ「年少」、女ハ年齢ニ拘ラズ「女」ト記載スベシ

五　入坑時刻欄及出坑時刻欄ニハ其ノ者ノ入坑時刻及出坑時刻ヲ記載スベシ但シ第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シタルモノニ付テハ入坑時刻欄ニハ所定入坑終了時刻ヲ記載スベシ

六　延長時間欄ニハ其ノ者ノ入坑ヨリ出坑迄ノ時間ガ第五條第一項又ハ第六條ノ二第一項ノ時間ヲ超エタル場合ニ於テ其ノ超エタル時間ヲ記載スベシ

第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シ所定ノ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻トス

七　深夜就業時刻欄ニハ第七條ノ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未滿ノ者若ハ女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スベシ

八　事由欄ニハ前二號ニ該當スル場合ニ其ノ事由ヲ記載スベシ

九　第七條ノ二第三項ノ許可アル場合ニハ坑内ノ點檢場所ヲ以テ坑口トス

〔北海參〕

●工場附屬寄宿舍規則

昭和二年四月六日
内務省令第二十六號

改正　昭和四年第三六號、一五年厚生省令第三八號

工場附屬寄宿舍規則左記ノ通相定ム

工場附屬寄宿舍規則

第一條　本令ハ工場法第一條ノ工場ニ附屬スル寄宿舍ニ之ヲ適用ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衞生上ノ害ヲ避クル爲寄宿舍ノ寢室ハ之ト別建物ト爲スベシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スコトヲ要セズ

一　爆發性、發火性若ハ引火性料品又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二　窯燼ヲ使用スル作業場

三　瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衞生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衞生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命ジ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命ズルコトヲ得

第三條　寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條ノ二　常時十五人以上ノ職工ガ二階以上ノ寢室ニ居住スル建物ニ在リテハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クベシ但シ二階以上ノ寢室ニ居住スル職工ガ常時五十人ニ滿チザル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル避難斜面其ノ他適當ナル避難設備アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

二階以上ノ寢室ニ居住スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ建物ノ外壁ニ附セラレタル屋外階段ニ付テハ第五號及第八號ノ規定ヲ適用セズ

一　踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

二　勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト

三　高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

四　踊場ハ長サ三尺五寸以上トナスコト

五　踏込板又ハ裏板ヲ附スルコト
六　踏段ヲ設ケザルコト
七　外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト
八　幅内法三尺五寸以上ト爲スコト
九　各段ヨリ高サ五尺七寸以内ニ障碍物ナキコト
前二項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタル建物ニシテ地方長官ニ於テ已ムコトヲ得ズト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セズ

第三條ノ三　階段竝之ト連絡スル通路及出口ニシテ常時使用セザルモノニ付テハ之ニ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難ノ用ニ供シ得ル樣有效ニ保持スベシ

第四條　寄宿舍ノ廊下ヨリ屋外ニ通ズル出入口ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スベシ
寄宿舍ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル樣ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條　寢室、食堂、病室其ノ他職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同ジ）ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セザル樣天井ヲ設クベシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ防風ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　寢室及病室ノ外窓ニハ少クトモ雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設クベシ寢室及病室ト廊下トノ間ニ戸、障子、壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窓ニ付亦同ジ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設クル場合ニ於テハ其ノ廊下ノ外窓ニ雨戸又ハ硝子戸ヲ設クベシ

第八條　食堂及炊事場ノ床ハ土間（石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マズ）ト爲スコトヲ得ズ

第九條　寢室ハ收容人員一人ニ付室面積（押入及床ノ間ヲ除ク）〇・七五坪ヲ下ルコトヲ得ズ但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條　寢室ノ收容定員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ構造上間仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ揭グベシ

第十一條　交替就業ノ爲就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿職工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得ズ但シ十六歲未滿ノ者及女子ヲ收容セザルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　寄宿舍ニハ職工毎ニ專用セシムル爲必要ナル寢具ヲ備附クベシ
寢具ハ少クトモ其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フベシ
寢具ハ常ニ清潔ヲ保チ時時之ヲ日光ニ曝シ且其ノ白布及敷布ハ時時之ヲ洗濯スベシ

第十三條　食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備附クベシ

第十四條　寄宿舍ニ於テ使用スル食器ハ常ニ清潔ニ保チ時時消毒スベシ

第十五條　寄宿舍ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十六條　寄宿舍ニ收容スル職工及寄宿舍ニ使用スル者ニ對シテハ少クトモ一年二回健康診斷ヲ施行スベシ
其ノ年ニ於テ國民體力法ノ體力檢査ヲ受ケタル者ニ付テハ一回ヲ限リ前項ノ規定ニ依ル健康診斷ハ之ヲ施行セザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ國民體力法ニ基キ體力檢査ヲ行ヒタル工業主以外ノ工業主ハ國民體力法ノ體力檢査票又ハ精密檢診票ノ寫ヲ作成スベシ

前二項ノ健康診斷ニ關スル記錄又ハ體力檢査票若ハ精密檢診票ノ寫ハ三年間之ヲ保存スベシ

第十七條　寄宿舍ニハ液體ヲ入レタル適當個數ノ唾壺ヲ配置スベシ
唾壺內ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非ザレバ之ヲ投棄スルコトヲ得ズ

寄宿舍ニ於テ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ズ

第十八條　寄宿舍ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ズ
「トラホーム」患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ズ
手洗水ハ流出裝置ト爲スベシ

第十九條　工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號（流行性腦脊髓膜炎ヲ除ク）ノ患者ノ使用シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非ザレバ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ズ第二號ノ患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同ジ
前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルベシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用スベシ

第二十條　寄宿舍ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應ジ適當且十分ナル便所及洗面裝置ヲ設クベシ

地方長官前項ノ便所又ハ洗面裝置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ增設ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　寄宿舍ノ管理ニ關シ規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條　本令竝寄宿舍ノ管理ニ關スル規程ハ之ヲ見易キ場所ニ揭示スベシ

第二十三條　本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條及第十六條ノ規定ハ常時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舍ニ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條及第十三條ノ規定ハ本令施行後一年間、第二條、第七條、第八條及第十二條ノ規定ハ本令施行後二年間、第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ二月以內ニ之ヲ爲スベシ

附　則（昭和四年內務省令第三十六號）

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ規定ハ本令施行後二年間之ヲ適用セズ

〔北海道〕

●工場附屬寄宿舍規則施行細則

昭和三年十月二十五日北海道廳令第七十五號

改正　昭和八年七月廳令第四一號

工場附屬寄宿舍規則施行細則左ノ通定ム

工場附屬寄宿舍規則施行細則

第一條　本則ニ於テ規則ト稱スルハ工場附屬寄宿舍規則ヲ謂フ

第二條　規則第二條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一　規則第二條第一項各號ノ作業場トノ距離ヲ示セル寢室ノ平面圖竝作業場以外ノ建設物トノ距離ヲ示セル四隣圖

二　除害、豫防又ハ避難設備ノ詳細

三　男女別收容人員數

第三條　規則第六條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一　小屋組ノ露出スル室數及各室ノ用途

二　各室ノ男女別收容人員數

三　各室ノ採光換氣ノ方法及採光面積

四　各室ノ坪數及床面ヨリ小屋梁マテノ距離

第四條　規則第九條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一　臨時必要アル期間及其ノ事由

二　制限ヲ超エテ收容セムトスル寢室數及各室ノ坪數

三　各室ノ男女別收容人員數

第五條　規則第十條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一　收容定員ヲ超エテ收容セムトスル寢室數及各室ノ坪數

二　各室ノ男女別收容人員數

三　各室ノ採光換氣ノ方法及採光面積

四　構造上間仕切ヲ爲スコト能サル事由

第六條　規則第十一條但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一　作業ノ種類

二　同一ノ寢室ニ收容スル事由

三　各組ノ就床及起床時間

四　各室ノ採光、換氣ノ方法及採光面積

五　各室ノ坪數及各室ノ收容人員數

第七條　規則第十六條ノ規定ニ依ル健康診斷ハ夥クトモ春秋二回之ヲ行ヒ別記樣式ニ依リ遲滯ナク屆出ヅベシ

第八條　職工ハ寢具ヲ共用スルコトヲ得ス

第九條　食器及職工ニ供スル飮食物ニ對シテハ適當ナル防蠅防塵ノ設備ヲ爲スベシ

第十條　便所ハ別建物又ハ病室、寢室、食堂、炊事場等ヨリ離隔セシメ、便池ニ付テハ昭和八年七月二十五日北海道廳令第四十號第二十三條ノ規程ニ依ルベシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ規定ハ昭和四年六月三十日マテ之ヲ適用セス

〔北海道〕

年　月　日

第一章　工場

工場所在地

工場名

北海道廳長官宛

健康診斷屆(寄宿舍ノ分)

氏名	生年月日	業務	勤續年數	身體檢査 身長	身體檢査 體重	身體檢査 胸圍	身體檢査 榮養 甲	身體檢査 榮養 乙	身體檢査 體格 甲	身體檢査 體格 乙	疾病檢診 肺結核	疾病檢診 肋膜炎	疾病檢診 黴泌尿生殖器病	疾病檢診 重ム眼症其ト他ラ傳ホ染一性病	疾病檢診 心臟病	疾病檢診 脚氣	疾病檢診 關節炎	疾病檢診 鞘炎

工業主又ハ工場管理人 氏 名印

記載心得

一 本表ニハ職工及賄夫其他寄宿舍ニ起臥スル者ハ凡テ記載スヘシ

二 疾病檢診欄ニハ掲記ノ疾病ヲ發見シタルトキハ病勢ノ輕重ニ拘ラス「有」ト記載シ若シ發見シタルトキハ「無」ト記載スヘシ

●工場附屬寄宿舍規則施行細則取扱手續

昭和三年十月二十五日
北海道廳訓令第四十三號

警察部 警察署

工場附屬寄宿舍規則施行細則取扱手續左ノ通定ム

工場附屬寄宿舍規則施行細則取扱手續

第一條 工場附屬寄宿舍規則施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ所定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ意見ヲ附シ速ニ進達スヘシ

第二條 細則第三條及第五條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

一 構造種別(木造、石造、煉瓦、鐵筋コンクリートノ類)

二 建築月日

三 改造ノ要否

四 其他參考事項

第三條 工場附屬寄宿舍規則第二十一條細則第四條及第六條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

第四條 工場附屬寄宿舍左ノ一ニ該當スル場合ハ適宜ノ措置ヲ講シ其ノ事實ヲ詳査シ速ニ具申スヘシ

一 構造設備ニ危險ヲ生シ又ハ其ノ虞在ルトキ

二 衛生風紀其ノ他公益ヲ害スルモノト認ムルトキ

三 其ノ他取締上必要ト認ムルトキ

●工場附屬寄宿舍規則中改正ニ關スル件

昭和四年十月九日
警工第一七二七號警察部長通牒

警察署長(水上署長ヲ除ク)宛

本件ハ昭和四年八月二十三日內務省令第三十六號ヲ以テ公布セラレ本年九月一日ヨリ施行ノ處第三條ノ二ノ規定ハ昭和六年九月一日ヨリ適用セラルヽコトト相成候ヘ共規則ノ內容ハ災害豫防ニ關スル施設ニ屬スルヲ以テ猶豫期間中ニ於テ可成勸奬手段ニ依リ本則ノ規準ニ倣ヒ實施普及セシメラレ度既設物ニ對シテハ實地調査ノ上萬一位置及構造設備上或ハ其ノ他ノ事情ニ依リ現狀維持ヲ餘儀ナクセラルヽ場合ハ他日改善スルヲ目標トシ左記事項ヲ具シ同則第三條ノ二第三項ニ依リ許可ノ申請ヲ爲サシメ猶豫期間終了ノ日ニ於テ違反ナカラシムル樣勵行相成度依命此段及通牒候也

記

一 寢室平面圖竝寢室ノ周圍ノ建設物トノ距離ヲ示セル四隣圖

二 除害豫防又ハ避難設備ノ詳細

三 二階以上ニ收容スル男女別收容人員數

四 二以上ノ階段ヲ設クル必要ナキ理由又ハ設クルコト能ハサル理由

五 避難斜面其他ノ適當ナル避難設備ノ構造圖又ハ構法書

●工場附屬寄宿舍規則中疑義ノ件

昭和四年十一月九日
警工第一九六八號警察部長通牒
警察署長(水上署長ヲ除ク)宛

工場附屬寄宿舍規則中疑義ニ關シ社會局勞働部長ヨリ左記ノ通質疑應答候條此段及通牒候也

左記

問 工場附屬寄宿舍規則第三條ノ二ノ二以上ノ寢室ニ對スル階段ノ規定ノ單純ニ二階以上ヲ昇降スル階段ナルヤ或ハ非常設備トシテ特設スヘキモノナルヤ又ハ兩者兼用支障ナキモノナルヤ

答 寄宿舍規則第三條ノ二ノ階段ノ常用ナルト非常用ナルトヲ問ハサルモ避難ノ目的上寧ロ常時使用セラルルコトハ勸奬スヘキ儀ト御了知相成度

〔北海勞〕

●工場危害豫防及衛生規則

昭和四年六月二十日
內務省令第二十四號

改正 昭和一三年厚生省令第四號、一五年第三七號

工場危害豫防及衛生規則左ノ通相定ム

工場危害豫防及衛生規則

第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ之ヲ適用ス

第二條 原動機及動力傳導裝置ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ被覆ヲ設クベシ

第三條 動力傳導裝置ノ調帶ノ繼目ニハ突出セル金具ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ露出面ガ弧面ヲ爲シ危險ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ適當ナル柵圍若ハ被覆ニ依リ又ハ据付位置ノ關係上接觸ノ虞ナク且運轉中手ニテ取扱フコトナク調帶又ハ動力弱小若ハ速度緩ニシテ危險ナキ調帶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條 動力傳導裝置ノ車軸接手(カップリング)、車軸留輪(カラー)、聯軸器(クラッチ)、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セットスクリュー」、「ボルト」、「ナット」及機類(キイ)ノ頭部ハ突出セザルモノヲ用フルコトヲ要ス但シ露出面ガ弧面ヲ爲シ危險ナキトキ、適當ナル被覆ノ設ケアルトキ又ハ作業(掃除、注油、檢査、修繕等ヲ含ム)若ハ通行ニ際シ運轉中接觸ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 遊車ヲ使用スルモノニ在リテハ遷帶裝置ヲ設クベシ但シ作業上已ムヲ得ザルモノ又ハ危險ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ遷帶裝置ニハ調帶ガ不意ニ固定車ニ移ルコトヲ防止スル裝置ヲ爲スベシ

第六條 調車ト隣接車輪、軸承、車軸接手等トノ間隔狹小ニシテ其ノ間ニ調帶ガ脫落シ危害ヲ生ズル虞アル場合又ハ車軸ノ運轉中調帶ヲ調車ヨリ時々取外シ置ク場合ニハ適當ナル調帶受ヲ設クベシ

第七條 注油ノ爲接近スルコト危險ナル動力傳導裝置ニハ安全ナル給油裝置ヲ設クベシ

第八條 作業場所ニハ事故發生ノ場合ニ於テ速ニ原動機又ハ動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シ得ベキ裝置ヲ設クベシ但シ作業場所ヨリ原動機据付場所ニ直ニ到達シ得ル場合又ハ係員ヲ常置セル原動機室ニ通ズル應急停止ノ信號ヲ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ開始スル際ニハ之ヲ關係職工(徒弟ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ周知セシムル爲豫メ一定ノ合圖ヲ爲スベシ

原動機、動力傳導裝置又ハ機械ノ運轉ヲ停止シテ掃除、注油、檢査、修繕等ヲ爲シツツアル際ニ他人ガ之ヲ運轉シ危害ヲ生ズル虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル裝置又ハ處置ヲ爲スベシ

第十條 動力ニ依リ運轉スル機械ノ危害ヲ生ズル虞アル部分ニハ已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外柵圍、被覆其ノ他適當ナル危害豫防裝置ヲ設クベシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ノ部分ハ廻轉ガ停止スルニ非ザレバ開クコト能ハザル裝置ト爲スベシ

一 綿絲紡績機械ニ於ケル荒打綿機ノ「フアン ドーア」、打綿機ノ「ピーター カバー」及「ダートドーア」、梳綿機ノ「シリンダー」ノ「フロント プレート」(但シ眞空掃除器ヲ使用スルモノヲ除ク)、練篠機若ハ粗紡機ノ「ヘッド ストック」ノ「ギーヤリング カバー」

二 絹絲紡績機械ニ於ケル切綿機ノ「シリンダー カバー」

三 其ノ他前二號ニ準ズベキモノ

第十二條 動力ニ依リ運轉スル機械ニハ各機械毎ニ速ニ運轉

〔北海勞〕

ヲ停止シ得ル裝置ヲ設クベシ但シ連續セル一團ノ機械ニシテ共通ノ動力遮斷裝置ヲ有スルモノ又ハ危險ノ虞ナキ機械ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條　粘性物質ヲ掬揚スル「ローラー」ニシテ危害ヲ生ズル虞アルモノニ付テハ事故發生ノ場合ニ於テ被害者ガ直ニ運轉ヲ停止シ得ベキ裝置ヲ設クベシ

第十四條　運轉中ノ原動機、動力傳導裝置若ハ動力ニ依リ運轉スル機械ヲ取扱ヒ又ハ之ニ接近シテ作業ニ從事スル爲頭髮又ハ被服ガ之ニ捲込マレ危害ヲ受クル虞アル者ニハ危害ヲ防止スルニ適當ナル帽子又ハ作業服ヲ著用セシムベシ

職工ハ作業中前項ノ帽子又ハ作業服ヲ著用スルコトヲ要ス

第十五條　物品ノ揚卸口、槽、車軸道、階段其ノ他從業者ノ墜落シ危害ヲ生ズル虞アル箇所ニハ欄圍、扶欄、蓋等適當ナル危害豫防裝置ヲ設クベシ但シ作業上已ムヲ得ザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　作業用可搬梯子ニハ滑止其ノ他轉倒ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ爲スベシ但シ床面其ノ他ノ關係上危險ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條　機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除クノ外幅二尺六寸以上ナルコトヲ要ス但シ已ムヲ得ザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條　危險ナル箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第十九條　職工ハ謹ミテ危害豫防裝置ヲ取外シ又ハ其ノ效力ヲ失ハシムル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十條　地方長官ハ爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業場、貯藏倉庫、置場、貯槽類又ハ容器ニ付危害豫防ノ爲必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條　爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造、取扱若ハ貯藏ヲ爲ス場所、瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所其ノ他火災ノ危險著シキ場所ニ於テハ直接作業ニ必要ナル場合ノ外火氣ヲ使用シ又ハ火花ヲ發セシムルコトヲ得ズ但シ安全燈、電燈其ノ他危險ナキモノノ使用ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場所ニハ喫煙其ノ他不必要ナル火氣使用禁止ノ旨ヲ揭示スベシ

第二十二條　油又ハ印刷用インキ類ニ依リ浸染シタル襤褸、紙屑等ハ不燃性ノ容器ニ收メ其ノ他適當ナル處理ヲ爲スベシ

第二十三條　爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造若ハ取扱ヲ爲ス作業場又ハ常時五十人以上ノ職工ノ就業スル作業場ニハ火災等ノ場合ニ於テ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル爲適當ナル二以上ノ出口ヲ設クベシ

常時十人以上ノ職工ガ二階以上ニ於テ就業スル場合ニハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クベシ

二階以上ニ於テ就業スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

(一)　踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

(二)　勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト

(三)　高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

(四)　幅内法三尺五寸以上ト爲スコト

(五)　廻段ヲ設ケザルコト

(六)　外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト

(七)　各段ヨリ高サ五尺七寸以内ニ障碍物ナキコト

作業ノ性質、建設物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建設物ニ付已ムヲ得ザル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二十四條　地方長官ハ火災等ノ場合ニ於ケル避難ノ爲作業場ノ通路、階段及出口ノ設置構造ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條　第二十三條ノ規定ニ依ル出口、前條ニ依リ設置ヲ命セラレタル出口及之ニ通ズル通路若ハ階段ニシテ常時使用セザルモノニハ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難シ得ル樣有效ニ保持スベシ

第二十六條　瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衞生上有害ナル場所又ハ爆發ノ虞アル場所ニハ之ガ危害ヲ豫防スル爲其ノ排出竇閉其ノ他適當ナル設備ヲ爲スベシ

第二十七條　左ニ揭グル場所ニハ必要アル者以外ノ者ノ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨揭示スベシ

一　爆發性、發火性又ハ引火性料品ノ製造、取扱又ハ貯藏ヲ爲ス場所

二　毒劇藥、毒劇物又ハ其ノ他ノ有害料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス場所

三　瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衞生上有害ナル場所

四　多量ノ高熱物體ヲ取扱フ場所

前項ニ依リ禁止セラレタル場所ニハ職工ハ濫リニ立入ルコ

トヲ得ズ

地方長官ハ第一項ノ場所ニ於ケル作業ニ關シ他種ノ作業ノ禁止其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條　研磨機ニ依ル金屬研磨、炭酸含有清涼飲料水ノ罐詰其ノ他物體ノ飛來ノ虞アル作業、高熱物體又ハ毒劇藥、毒劇物ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業、有害光線ニ曝露スル作業、多量ノ粉塵又ハ有害ノ瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル作業其ノ他危害ノ虞アリ又ハ衞生上有害ナル作業ニ於テハ之ニ從事スル職工ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フベシ

職工ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス

第二十九條　衞生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル工場ニ於テハ當該職工ノ爲適當ナル食事ノ場所ヲ設クベシ但シ當該職工ガ工場內ニ於テ食事ヲ爲サザル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場、多量ノ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他ノ工場ニシテ作業ノ爲身體ヲ汚染スル工場ニ於テハ適當ナル洗面裝置ヲ設ケ必要品ヲ備フベシ

前二項ノ工場又ハ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ飲料水ノ供給又ハ食事ノ場所、更衣所、含嗽裝置若ハ浴場ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

第三十條　織機ノ杼ガ杼通ノ通緒ヲ吸出ス必要アルモノニ在リテハ緒引出具ヲ備フベシ

職工ハ杼通ノ爲緒ヲ吸出スベカラズ

第三十一條　地方長官ハ衞生又ハ危害豫防上必要ト認ムルトキハ工場及附屬建設物ノ採光、換氣ノ爲窓面ノ增加又ハ照明裝置其ノ他適當ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

第三十二條　工場ニハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備フベシ但シ作業ノ性質上傷害ノ虞ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

救急用具及材料ノ備附場所及使用方法ハ之ヲ從業者ニ周知セシムベシ

第三十三條　食堂、炊事場及食器ハ常ニ清潔ニ保ツベシ

食堂及炊事場ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三十四條　更衣所及浴場ハ之ヲ男女用ニ區別スベシ

第三十四條ノ二　工業主安全管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ安全管理者ヲ選任スベシ但シ作業ノ狀況ニ依リ危害又ハ衞生上有害ノ虞少ナキ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セザルコトヲ得

安全管理者ハ工業主ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衞生ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス

安全管理者ハ安全日誌ヲ作成シ危害豫防及衞生ニ關シ爲シタル處置ヲ記載シ置クベシ

第三十四條ノ三　工業主工場醫ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ

常時百人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ工場醫ヲ選任スベシ但シ作業ノ狀況ニ依リ衞生上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セザルコトヲ得

地方長官必要アリト認ムルトキハ常時百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ニ對シ工場醫ノ選任ヲ命ズルコトヲ得

工場醫ハ醫師タルコトヲ要ス

工場醫ハ工業主及安全管理者ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル衞生ニ關スル事項ヲ掌ル

工場醫ハ每月少クトモ一回工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ衞生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スベシ

工業主ハ工場醫ヲシテ每年少クトモ一回職工ノ健康診斷ヲ爲サシムベシ

工業主ハ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ其ノ他衞生上有害ナル業務ニ從事スル職工ニ付テハ工場醫ヲシテ每年少クトモ二回健康診斷ヲ爲サシムベシ

其ノ年ニ於テ國民體力法ノ體力檢査ヲ受ケタル者ニ付テハ一回ヲ限リ前二項ノ規定ニ依ル健康診斷ハ之ヲ爲サシメザルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ國民體力法ニ基キ體力檢査ヲ行ヒタル工業主以外ノ工業主ハ國民體力法ノ體力檢査票又ハ精密檢診票ノ寫ヲ作成スベシ

前三項ノ健康診斷ニ關スル記錄又ハ體力檢査票若ハ精密檢診票ノ寫ハ三年間之ヲ保存スベシ

第三十四條ノ四　工業主安全管理者又ハ工場醫ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ安全管理者又ハ工場醫死亡シタルトキ亦同ジ

地方長官必要アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ安全管理者又ハ工場醫ノ增員又ハ改任ヲ命ズルコトヲ得

第三十四條ノ五　工業主ハ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衞生ニ關スル事項ニ從事セシムル爲安全委員ヲ選

任スベシ但シ常時十八人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ之ヲ選任セザルコトヲ得

安全委員ハ工業主、安全管理者及工場醫ノ指揮ヲ承ケ毎日工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ危害ヲ生ジ又ハ衛生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スベシ

第三十四條ノ六　工業主安全委員會ヲ設ケタルトキハ安全委員會規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ屆出ヅベシ安全委員會規則ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第三十五條　地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外工場及附屬建設物竝設備ガ危害ヲ生ジ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命ズルコトヲ得

第三十六條　第十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十一條ノ場所ニ於テ喫煙ヲ爲シ其ノ他濫リニ火氣ヲ使用シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條、第二十八條第一項及第三十條ノ規定ハ本令施行後一年間、第八條、第二十三條第一項乃至第三項、第二十九條第二項及第三十四條ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後一年間、第二條、第三條第一項、第四條乃至第七條、第十條乃至第十三條、第十五條、第二十六條及第二十九條第一項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令ノ施行後二年間之ヲ適用セス

本令施行前既ニ設ケタルモノニ付第二十三條第四項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ本令施行後四月以内ニ其ノ申請ヲ爲スヘシ

●工場危害豫防竝衛生規則施行ニ關スル件

昭和五年二月十二日
警工第二二一號警察部長通牒
警察署長（水上署長ヲ除ク）宛

本件ハ昭和四年六月二十日内務省令第二十四號ヲ以テ公布セラレ本年九月一日ヨリ施行ノ處本則第十七條但書ニ關シテハ長官ノ許可ヲ受ケ前段ノ規定ニ依ラサルコトヲ得ルモ本條ハ平時及火災避難ノ場合ニ於ケル通行ノ際ノ危險ヲ妨カントスル所謂災害防止ニ關シ職工保護上必要ナル施設ニ屬スルヲ以テ可及的勸奬行爲等ニ依リ本則ノ趣旨ヲ徹底セシメラレ度万一作業ノ性質、構造設備上或ハ其他ノ事情ノ爲メ本則ニ準據シ得サル場合ハ左記事項ヲ具シ許可ノ申請ヲ爲サシメ一面實狀調査ノ上許否ノ意見ヲ付シ進達相成度

記

一　事業ノ種類

二　許可ヲ受ケントスル作業場内ニ於ケル就業職工數

三　前號作業場内ニ於ケル通路兩側機械間又ハ機械ト他ノ設備ノ名稱及距離ノ寸法ヲ記入シタル平面圖

四　前號作業場ニ於ケル通路ノ幅員竝延長

五　通路ノ幅員ヲ二尺六寸以上ト爲スコト能ハサル事由

「參照」

工場危害豫防及衛生規則抄錄

（昭和四年六月二十日内務省令第二十四號）

第十七條　機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除クノ外幅二尺六寸以上ナルコトヲ要ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ同シ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニ在ラス

●工場危害豫防竝衛生規則施行ニ關スル件

昭和四年十月二十二日
警工第一七八八號警察部長通牒
警察署長（水上署長ヲ除ク）宛

本件ハ昭和四年六月二十日内務省令第二十四號ヲ以テ公布セラレ本年九月一日ヨリ施行ノ處本則第二十三條第四項ニ關シテハ本令施行後四月以内ニ申請スヘキコト、相成候ヘ共本條項ノ内容ハ非常時ニ於ケル避難設備ニ關シ職工保護上必要ナル施設ニ屬スルヲ以テ可成勸奬手段等ニ依リ本則ノ規準ニ倣ヒ實施普及セシメラレ度万一作業ノ性質、建設物ノ構造設備上或ハ其他ノ事情ニ依リ其ノ必要ヲ認メサル場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建設物ニ對シテハ前記ノ事情ニ依リ現場維持ヲ餘儀ナクセラル、等已ムヲ得サル事情アル場合ハ他日改善スルヲ目標トシ左記事項ヲ具シ許可ノ申請ヲ爲サシメ猶豫期間終了ノ日ニ於テ違反ナカラシムル樣勵行相成度

記

規則第二十三條第一項ニ關シ同條第四項ニ依リ許可ノ申請アリタルトキハ左ノ事項ヲ具備セシムヘシ

一　事業ノ種類

二 男女別收容數
三 作業場ノ構造ノ概要
四 作業場ノ平面圖竝作業場以外ノ建設物等ノ距離ヲ示セル四隣圖
五 出口二以上ヲ設クルノ必要ナキ事由又ハ設クルコト能ハサル事由
六 規則施行前既ニ設ケタル建設物ニ在リテハ其ノ建築年月日

同條第二項ニ關シ同條第四項ニ依リ許可ノ申請アリタルトキハ左ノ事項ヲ具備セシムヘシ

一 事業ノ種類
二 男女別收容數
三 作業場ノ構造ノ概要
四 作業場ノ平面圖竝作業場以外ノ建設物等ノ距離ヲ示セル四隣圖
五 階段ヲ二以上設クル必要ナキ事由又ハ設クルコト能ハサル事由
六 規則施行前既ニ設ケタル建設物ニ在リテハ其ノ建築年月日

規則第二十三條第三項ニ關シ同條第四項ニ依リ許可ノ申請ア

リタルトキハ左ノ事項ヲ具備セシムヘシ

一 事業ノ種類
二 階上階下ニ收容スル男女別職工數
三 設ケントスル階段ノ構造圖（規則第二十三條第三項各號ニ反スル部分ヲ表示スルコト）
四 規則第二十三條第三項各號ノ規定ニ依ル必要ナキ事由又ハ依ルコト能ハサル事由
五 規則施行前既ニ設ケタル階段ニ在リテハ其ノ設置年月日

●工場危害豫防及衞生規則施行標準

第二篇

一 原動機

1 原動機ハ別室又ハ安全ナル場所ニアルモノヲ除キ係員以外ノ者ノ接近ヲ防止スヘキ確實ナル柵圍ヲ設クルコト但シ電動機及臨時ニ使用スル移動式機關ニ付テハ危險部分ニ付被覆又ハ柵圍スルヲ以テ足ルコト

2 勢輪（フライホイール）ハ別室又ハ安全ナル場所ニアルモノノ外柵圍スルコト、危險特ニ甚シキ勢輪ハ別室ニアル場合ト雖モ柵圍スルコト

二 動力傳導裝置タル車軸調帶調索及調車

1 動力傳導裝置タル車軸調帶調索及調車ノ範圍ハ原動機ノ軸ニ取付タル調車及調帶又ハ齒輪ヨリ機械ニ動力ヲ傳フル調帶又ハ齒輪迄ノ機械的裝置及其ノ附屬物ヲ謂フコト

2 床面（屋外、床下地下室等ト雖モ通行又ハ作業ヲ爲ス場合ヲ含ム以下之ニ同シ）上六尺以內ニ在ル動力傳導裝置ノ車軸ニハ柵圍被覆又ハ圓套（スリーブ）等ヲ設クルコト但シ接觸危險ナキモノハ其ノ要ナキコト

水平車軸ニシテ通行又ハ作業ノタメ上ヲ跨クモノニ付テハ被覆、踏切橋等ヲ設クルコト

3 製絲工場ノ外摺式摺輪ノ車軸ノ如キモノニシテ表面平滑ナル圓筒形車軸ニ付テハ必ズシモ柵圍、圓套（スリーブ）等ヲ設クルヲ要セス纖目ノ部分ノミ圓套ヲ設クルヲ以テ足ルコト

4 床上六尺以內ニアル調帶調索又ハ調車ニシテ作業又ハ通行ノ際上ヲ跨キ又ハ下ヲ潛ルモノ（身體ヲ屈スルニ非サレハ接觸スルモノ）及大サ速度、力及周圍ノ關係上特ニ危險ナルモノニ付テハ柵圍又ハ被覆ヲ設クルコト

5 調車間ノ距離十尺以上、幅五寸以上ニシテ速度毎秒三十尺以上ノ調帶ニシテ其ノ下ヲ通行シ又ハ其ノ下ニテ作業スルコトアルヘキモノニハ不意ノ切斷墜落ニ對シ下方ニ確實ナル柵圍ヲ設クルコト

6 床上六尺以上又ハ床下若ハ地下室ニアリ平素接觸ノ危險ナキモ掃除、注油、檢査、修繕等ノ場合ニ運轉中接觸スル危險アルモノニ付テハ成ルヘク被覆又ハ柵圍ヲ設クルコト

三 齒輪

動力傳導裝置タル齒輪ニシテ通行及作業（掃除、注油、檢査、修繕等ヲ含ム）ノ際運轉中不意ニ接觸ノ危險アルモノハ凡テ被覆スルコト但シ柵圍ニ依リ接觸危險ヲ防キ得ル場合ニハ柵圍ニテモ差支ナキコト

四 柵圍、被覆

1 柵圍ノ高サハ左ノ標準ニ依ルコト

イ 危險部分ヨリ四寸未滿ノ場合ニハ高サ五尺以上、危險部分ヨリ四寸乃至八寸未滿ノ場合ニハ高サ四尺以上危險部分ヨリ八寸以上ノ場合ニハ高サ三尺以上トスルコト

ロ 危險部分カ右高サニ達セサルトキハ危險部分ヨリ下寸以上高キヲ以テ足ルコト但シ高サ三尺ヲ下ルコトヲ得サルコト

ハ　實際ノ事情ニ依リ（特ニ既設ノモノニ付テハ）危害豫防ノ目的ヲ達スルモノト認メラルル場合ハ右標準以下ナルモ差支ナキコト

2　椗圍及被覆ハ故意ニ非サレハ手足又ハ指ノ危險部分ニ觸ルル虞ナキモノトスルコト

3　椗圍及被覆ハ凡テ堅牢ナルコトヲ要スルコト

4　椗圍及被覆ハ掃除、注油、檢査、修繕等ノ爲メ必要アル場合ニハ適當ナル窓又ハ戸扉ヲ設クルコト

第三條

本條ハ床上六尺以内ニアルモノハ勿論高所ニアルモノト雖モ掃除、注油、檢査、修繕等ノ爲メ通行又ハ作業中接觸スル危險アルモノニ之ヲ適用スルコト

第四條

一　本條モ前條同樣床上六尺以内ニアルモノハ勿論高所ニアルモノト雖モ掃除、注油、檢査、修繕等ノ際運轉中接觸ノ危險アルモノニハ凡テ之ヲ適用スルコト

二　車軸、接手、車軸留、輪聯軸器、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セットスクリユー」「ボルト」「ナット」ハナルヘク埋頭式ヲ用ヒ現ニ在ルモノニシテ埋頭式ニ取替ヘ難キモノニ付テハ突出部ヲ覆包スヘキコト

〔北海勞〕

機類ノ部分ハ突出セサルモノヲ用フルカ又ハ突出部ヲ確實ニ覆包スヘキコト

三　高所ニアル車軸ニシテ注油ハ停止中之ヲ行ヒ又ハ安全ナル注油裝置アルモノニ付テハ調車附近ニアル突出物ヲ除クノ外本條但書末段ニ該當スルモノト認ムヘキコト

四　調車ノ緣端ヨリ内方ニ深ク取附アル突出物ハ接觸ノ虞ナキモノト推定スルコト

第五條

紡績ノ「カード」ノ調帶ノ如キハ第一項ノ但書ニ該當スルモノト認ムルコト

第六條

調車ト隣接調車又ハ軸承等トノ間隔（最狹部分ニ依ル）カ調帶ノ幅ヨリ廣キコト一寸以内又ハ「ベルト」ノ幅ノ四分ノ一以内ナル場合ニハ前段ニ該當スルモノト認ムルコト

第七條

動力傳導裝置ノ軸承ニハ「オイルカップ」、「リング式」、球軸承其ノ他長期ニ亙リテ給油ノ要ナキモノ又ハ「パイプ」若ハ其ノ他ノ遠隔給油具ヲ用ヒ危險部分ニ接近シテ給油ノ要ナキ裝置ヲ設クルコト、運轉中注油ヲ禁止シ又ハ注油ノ際接觸危險アル調帶調車及車軸ニ椗圍被覆等ヲ爲ス場合ニハ該裝置ヲ設ケサルコトヲ得ルコト

（注意）

注油トハ人カ油ヲ注クコトヲ意味シ給油トハ機械タルト人タルトヲ問ハス廣ク油ヲ給スルコトヲ意味スルモノトス

第八條

運轉停止裝置トハ「クラッチ」ノ如キ動力遮斷裝置又ハ「スイッチ」其ノ他原動機ヲ遮斷スル裝置ヲ謂フコト

第九條

一　原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シテ修繕、掃除等ヲ爲シツツアル際他人カ不意ニ運轉ヲ開始スル危險アルモノニ就テハ之ヲ防止スルタメ、起動裝置（部分的停止ヲ爲シ得ル動力傳導裝置ニアリテハ其ノ部分ノ停止裝置）ニ左ノ如キ裝置ノ取付若ハ措置ヲナスコト

(イ)　鍵ヲカクルコト

(ロ)　「掃除中」「修繕中」等適當ナル標示板ヲ取付クルコト

(ハ)　其ノ他適當ナル方法（例ヘハ電動機ニアリテハ責任者若ハ當該作業者自ラ「プラッグ」ヲ取外シ携行スルコト、紐ヲ以テ結ユルコト等）ヲ採ルコト

二　動力ニ依リテ運轉スル機械ノ修繕、掃除中ニ於テ他人カ容易ニ認識シ得サル種類ノ機械（裝置ヲ含ム）ニアリテハ、其ノ起動裝置ニ其ノ移動若ハ使用ヲ不可能ナラシムル「ピン」其ノ他適當ナル裝置ヲ取付クヘキコト

第十條

一　機械動力輪（シンプーレー）

機械動力輪ハ作業上已ムヲ得サルモノ動力弱小若ハ遠度緩ニシテ危險ナキモノ又ハ通行者ノ接觸危險ナキモノノ外椗圍被覆ヲ附スヘキコト

二　機械ノ突出物

機械ノ廻轉部分ニシテ接觸危險アル部分ニ附屬セル「セットスクリユー」、「ボルト」、「ナット」及「キー」類ノ頭部ハ已ムヲ得サル場合ノ外突出セサルモノヲ用フルカ又ハ安全ナル被覆ヲ爲スコト

三　機械ノ齒輪

1　機械ノ齒輪ニシテ作業者又ハ通行者ノ接觸ノ危險アルモノハ凡テ被覆スルコト例ヘハ紡績機械ニ於テ之ニ該當スルモノヲ例示スレハ左ノ如シ

(イ)　機機ニアリテハ「タペットホキール」ト「クランクホキール」トノ外側ニ「バランスホキール」若ハ椗圍ナキモノ

(ロ) 繰返機（綿機ヲ含マス）ノ「ラック」ト「ピニオン」ニシテ機械端ニ在リテ露出セルモノ

(ハ) 糊槽ノ攪拌機及糊付機ノ傘歯輪ニシテ安全ナル位置ニ在ラサルモノ

(ニ) 紡績機械ノ一部ヲナス露出セル歯輪（運轉中掃除スル虞アルモノハ第十一條ニ依リ運轉ヲ停止スルニ非サレハ被覆ヲ取リ外ス能ハサル裝置トナスコト）

2 接觸危險アル部分カ噛合部ヨリ外方ニ向テ廻轉シ噛合部ハ接觸危險ナキモノニ就テハ被覆ヲ要セサルコト

3 歯輪被覆ハ少クトモ歯根迄被フコト但シ既設ノモノニシテ周圍ノ狀況ニ依リ其ノ必要ナシト認メラルルモノニ就テハ歯根ニ及ハサルモ差支ナキコト

四　鋸機

1 圓鋸機ニハ巳ムヲ得サル場合ノ外割刃其ノ他ノ反撥豫防裝置ヲ附スルコト

2 中形又ハ小形ノ圓鋸機ニ付テハ成ルヘク適當ナル接觸豫防裝置ヲモ附スルコト

3 帶鋸及振子鋸ニ付テハ切斷ニ必要ナル部分ノ外ハ凡テ覆ヒ且成ルヘク材木ノ大キサニ應シ調節シ得ル裝置ヲ爲スコト

五「ローラー」及「カレンダー」

1 紙布等ヲ通ス「ローラー」及「カレンダー」ノ噛合部ニシテ手ノ卷込マルル虞アル箇所ニハ巳ムヲ得サル場合ノ外適當ナル「カード」（「ドクター」ヲ含ム）ヲ附スルコト

2 練條機ノ「カレンダーローラー」ハ「クリヤラープレート」ヲ以テ常時「カレンダーローラー」ノ表面ヲ被覆スルコト

3 「リング」精紡機及撚絲機ノ「ダブルチンローラー」ニハ「ローラーカード」ヲ噛合側ニ取付クルカ「スプリングピース」ニ固定棒ヲ水平ニ取付クルコト

4 「ゴム」練ノ「ローラー」ハ第十三條ニ依ルコト

六「パンチ」、「プレッス」、「シーヤ」、「カッター」

1 成ルヘク材料送給及取出シテ直接手ヲ用ヒサル裝置ヲ用フルコト

2 材料ヲ手ニテ送給又ハ取出スモノニ付テハ各種機械ニ付實際ノ事情ニヨリナルヘク左ノ如キ適當ナル裝置ヲ附スルコト

(イ) 金型及刃物間ニ手ヲ入ルルコトヲ要セサルモノ

(ロ) 截斷部分ヲ被ハレタルモノ

(ハ) 其ノ他適當ナル安全裝置

七　鉋機

1 刃物取付軸ハ成ルヘク角軸ヲ廢シ丸軸ニ改ムルコト

2 成ルヘク自動送給式ヲ用フルコト

八　繊機ノ杼

杼ノ脫出ヲ防ク爲「シャトルガード」（繊機ノ兩側ノ網ヲ含ム）ヲ附スルコト但シ「ラック」ニ依ル杼ノ運轉裝置ヲ有スルモノ、絹繊物、小幅木綿其ノ他ノ繊機ニシテ脫出スルモ力弱キモノ又ハ事實上殆ド杼ノ脫出ノ事例ナキモノニ付テハ其ノ要ナキコト

九　研磨機ニハ堅牢ナル保護「ガード」ヲ附スルコト但シ金屬、木質、布皮等ヲ材料トシ危險ノ虞ナキモノ及小形ノモノヲ除ク

十　其ノ他「カム」摩擦聯動機「シリンダー」等機械ノ危險ナル部分ニハ巳ムヲ得サル場合ノ外適當ナル安全裝置ヲ設クルコト

十一　機械ノ柵圍、被覆ニ付テハ第二條ノ四ヲ準用スルコト

第十二條

一　製紙工場ノ摺輪ノ車輪ニ付テハ各窓毎ニ動力遮斷裝置ヲ設クルヲ要セサルコト

二　運轉停止裝置トハ遊車「クラッチ」「スキッチ」等ノ動力遮斷裝置ヲ謂フコト

三　連續セル一團ノ機械トハ工程ノ連續セル機械ニシテ各機カ一室ニ在リテ近ク集約セルモノヲ謂フコト

第十三條

「ゴム」又ハ「エボナイト」ヲ煉捏スル「ローラー」ニハ本條ヲ適用スルコト

第十四條

紡績ノ粗紡機又ハ粗紐工場若ハ電線工場ノ粗紐機其ノ他頭髮カ捲込マルル虞アル機械ヲ取扱フ女子ニハ帽子ヲ著用セシムルコト

第十五條

柵圍又ハ扶欄ノ高サハ二尺七寸以上トスルコト但シ既設ノモノニ就テハ二尺七寸ニ及ハサルモ實際上墜落豫防ノ目的ヲ達スルモノト認メラルル場合ニハ差支ナク又車軸道ノ手摺ハ手ヲ支持スヘキモノアルヲ以テ足ルコト

第十六條

一　可搬梯子（脚立梯子ヲ除ク）ノ下端ニハ成ル可ク「コンクリート」又ハ鐵板ノ床ニ用フルモノハ「カーボランダム」ヲ、木又ハ土ノ床ニ用フルモノハ金屬尖端ヲ附スルコト、

但シ便宜布片等ヲ下端ニ卷キ付ケテ其ノ目的ヲ達スルトキハ臨時ノ處置トシテハ差支ナキコト

二 車軸用椅子ニハ上部ニ鈎(フック)ヲ付スルコト

三 床ノ滑止ノアル場合ニハ但書ニ該當スルモノトスルコト

第十七條

通路トハ當該場所ニ於テ作業ヲ爲ス者以外ノ者カ通行スル所ヲ謂フコト

第二十條

一 爆發性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト

鹽素酸加里、鹽素酸曹達

過鹽素酸加里、過鹽素酸曹達、過鹽素酸アムモニヤ

硝酸加里、硝酸曹達、硝酸アムモニヤ

硝化綿

ニトロベンゾール、ヂニトロベンゾール、ピクリン酸其ノ他ノ芳香族ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ

セルロイド

(注意)

一 「セルロイド」ハ性質上易燃性ニシテ爆發性ニ非ラサルモ實際上ハ爆發性料品ト同視スルコト

二 火藥類ニ就テハ銃砲火藥類取締法令ニ依ルコト

二 發火性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト

過酸化曹達

カリウム、ナトリウム

炭化石灰

生石灰

黃燐、赤燐、硫化燐

三 引火性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト

エーテル、コロヂオン

二硫化炭素

アセトン

メチルアルコール、酒精

醋酸エチル、醋酸アルミ、醋酸ブチル

ガソリン(石油エーテル、石油ベンヂン)、燈油

ベンゾール、トルオール、キシロール、ソルベントナフサ

テレビン油

原油、石油製品、タール類、其ノ製品又ハ樹脂若ハ瀝質物ノ乾餾製品其ノ他ニシテ「アーベルペンスキー」閉塞式發焔試驗器ヲ用ヒ氣壓七六〇粍ニ於テ攝氏七十度未滿ノ溫度ニテ發焔スルモノ

四 分量輕少ナル場合ニハ本條ヲ適用セサルコト

第二十一條

一 爆發性、發火性若ハ引火性料品ハ前條ト同樣ナルコト但シ生石灰ヲ除ク

二 爆發ノ危險アル粉塵ヲ例示スレハ左ノ如キモノナルコト但シ分量少キ場合ヲ除ク

石炭、木炭、骸炭類ノ粉末

アルミニウム粉、青銅粉等ノ金屬性粉末

粉糖

澱粉、穀粉

コルク粉、木粉其ノ他動植物性粉末

三 爆發ノ危險アル瓦斯又ハ蒸氣ノ主タルモノヲ例示スレハ左ノ如キモノナルコト

アセチレン瓦斯

水素瓦斯

引火性料品ノ蒸氣

四 其ノ他火災危險著シキ場所ノ顯著ナルモノヲ例示スレハ左ノ如キモノナルコト

多量ノ藁ヲ取扱フ工場

製紙工場ニ於ケル多量ノ紙屑、襤褸、藁等ノ散亂セル場所

油浸襤褸ノ置場紙屑若ハ襤褸ノ置場若ハ倉庫

製綿工場

混打綿、梳綿、起毛反毛等ノ作業場

五 第二項ノ掲示ハ「火氣嚴禁」「喫煙禁止」等ノ掲示ヲ以テ足ルコト

第二十三條

一 踊場ハ長サ三尺五寸以上トスルコト

二 扶欄ノ高サハ階段踏面ノ中央ニテ垂直ニ測ルコト

第二十六條

一 左ノ如キ有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所(其ノ分量ノ少クシテ衞生上害ナキ場合ヲ除ク)ハ本條ハ適用スルコト

水銀又ハ其ノ化合物(朱ノ如キ無害ナルモノヲ除ク)

鉛又ハ其ノ化合物

酸化亞鉛(亞鉛又ハ其ノ合金ヲ熔融スル場合ノ煙氣)

黃燐又ハ燐化水素

砒素化合物

チアン化合物

クローム化合物

マンガン化合物

クロール臭素
弗化水素、鹽酸蒸氣
硫酸蒸氣、亞硫酸瓦斯、硫化水素
硝氣（酸化窒素類）
アンモニヤ
一酸化炭素
二硫化炭素
フオルムアルデヒード
アクロレイン
エーテル蒸氣
醋酸エチル、醋酸アルミ
四鹽化エタン
テレピン油
タール蒸氣、ベンゾール、アニリン、其ノ他ノ芳香族及其ノ誘導體
石油瓦斯及蒸氣
多量ノ炭酸瓦斯
多量ノ珪砂塵又ハ之ニ類スルモノ

二　瓦斯蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所トハ第二十一條ノ二及三ニ揭クルモノヲ發散シ爆發ノ危險アル場所ヲ謂フコト

〔北海勞〕

三　羊毛、綿、麻、セメント等ノ粉塵ノ發散甚シキ場所ニハ除塵裝置ヲ爲スコト

四　瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ハ先ツ發生ヲ防止スルカ又發生ノ局所ヲ密閉スルニ努メ其ノ不可能ナルトキハ成ルヘク發生ノ局所ニ於テ吸引排出スル裝置ヲ設クルコト

五　右方法ニ依リ充分ニ排除シ難キ場合ニハ作業室全體ヲ大キクシ天井ヲ高クシ換氣ヲ計ル等適當ナル方法ヲ講スルコト

第二十七條

一　第一項第一號ハ第二十條ニ付揭ケタル料品ト同樣ナルコト

二　第一項第二號ノ毒劇藥、毒劇物ハ明治四十五年內務省令第二號及第六號ニ依ルコト

三　毒劇藥、毒劇物以外ノ有害料品ノ主ナルモノヲ揭クレハ左ノ如キモノナルコト

水銀
鉛又ハ鉛合金ノ粉末
鉛灰
炭酸鉛
過酸化滿俺、過滿俺酸加里
ベンゾール、トルオール、キシロール
タール類
石油類
硫化水素
アセトン
染料及中間物（無害ナルモノヲ除ク）

四　第一項第四號ハ熔隔著ハ灼熱セル金屬、煮沸セル若ハ高溫ナル液體又ハ燒鑛等ノ取扱ハル、場所ヲ謂フコト

酒造工場及手吹製壜工場ノ種取リ作業ヲ爲ス場所ノ如キハ之ヲ含マサルコト

五　第一項該當業務ハ成ルヘク他ノ作業ト隔離シ又ハ障壁ヲ以テ遮斷スヘキコト

六　分量輕少ノ場合ニハ本條ノ適用ナキコト

第二十八條

一　物體ノ飛來ニ依ル危險ニ對シテハ物體ノ飛來自體ヲ防クヘキ裝置ヲ設クルコトヲ第一トシ右豫防裝置ヲ設ケ難キ場合又ハ右豫防裝置ヲ設クルモ尙危害ノ虞アル場合ニ保護具ヲ使用セシムルコト、豫防裝置ニ依リ完全ニ物體飛來ノ危險ヲ防キ得ル場合ニハ保護具ヲ要セサルコト

二　有害光線トハ紫外線、レントゲン線、白熱光線及眩光等ヲ謂フコト

三　多量粉塵トハ植物性（綿絲、濾襟等）タルト動物性（毛、骨粉等）タルト鑛物性（土、石、金屬等）タルトヲ問ハス中毒危險ナキモ多量ナル爲衞生上有害ナルモノヲ謂フコト

四　有害ノ瓦斯蒸氣又ハ粉塵トハ第二十六條ノ一ニ列擧シタルモノト同樣ナルコト

五　有害光線ニ對スル保護具トシテハ光線ノ種類ニ應シ其ノ除害ニ適當ナル眼鏡ヲ瓦斯蒸氣粉塵ニ對シテハ呼吸用保護具ヲ使用スヘキコト

六　有害ノ程度重キトキハ呼吸用保護具ニ中和劑又吸收劑ヲ用フルカ送氣式ノモノヲ用フルコト、有害程度輕キトキハ手拭ニテモ差支ナキコト

七　皮膚ヲ甚シク汚染シ又ハ腐蝕傷害スル虞アル場合ニハ手袋等適當ナル保護具ヲ使用セシムルコト、尤モ適當ナル豫防劑ニ依リ危害豫防ノ目的ヲ達スルトキハ保護具ノ用ナキコト

八　保護具ハ當該作業ニ從事スルコトアルヘキ職工ノ員數ト同數以上備フルヲ要スルコト

九　保護具ハ常ニ有效且清潔ニ維持スヘキコト

第二十九條

一　第一項ハ第二十六條ノ一ト同樣ナルコト

二　毒劇藥、毒劇物及有害料品ハ第二十七條ト同樣ナルコト

三　洗滌ニ石鹸ヲ必要トスル場合ニハ職工各自ニ石鹸ヲ支給シアル場合ノ外石鹸ヲ備フヘキコト

四　手ノ汚染カ「プラツシ」ヲ用フルニ非サレハ清潔ニ洗滌スルコト能ハサル場合ニハ「プラツシ」ヲ備付クルコト

五　多量ノ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テハ清潔ナル飲料水ヲ供給スルコト

六　第二十六條前段ニ該當スル工場ニシテ必要アル場合ニハ含嗽裝置ノ設備ヲ爲スコト

七　第二項ノ工場ニ付テハ附近ニ浴場アリテ職工カ充分ニ之ヲ利用スト認メラルヽ場合ヲ除キ浴場ヲ設置スルコト

八　浴場ノ湯カ汚濁甚シキトキハ二槽式トシ先ツ一方ニ於テ粉塵ヲ洗ヒ落シタル後更ニ他方ニテ洗ヒ清ムル裝置ヲ爲スコト

九　毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場ニハ作業服ト通常服トヲ取替フルタメ更衣室ヲ設クルコト

第三十條

〔北海勞〕

一　緒ヲロニテ吸取ル舊來ノ杼ニ在リテハ適當ナル「プラツシ」「フック」等ノ緒引出具ヲ使用セシメロニテ吸取ルコトヲ禁止スルコト

二　成ルヘク「ハンドスレツヂング」、シヤツトル」「オートマチツク」、ホビン」、チエンヂング」、シアツトル」等緒ヲロニテ吸取ルコト能ハサルモノヲ使用スルコト

第三十一條

一　作業場ノ窓面ノ有效採光面積ノ床面積ニ對スル比ハ成ルヘク五分ノ一以上トシ特別ノ事情ナキ限リ最低八分ノ一トスルコト

二　開放シ得ヘキ窓面積ノ床面積ニ對スル比ハ特別ノ事情ナキ限リ十六分ノ一以上トスルコト

三　細目ノ判別ヲ必要トスル精密作業ニ付テハ人工照明ハ五呎燭（五十ルツクス）以上トスルコト

四　照明不完全ノ爲メ災害事故又視力障害ヲ起シタル事例アルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ人工照明ノ燭光增加又ハ改善ヲ計ルコト

第三十二條

一　救急用具及材料ハ最少限度左ノ如キ品ヲ備フルコト

繃帶材料（滅菌ガーゼ、卷繃帶）、ピンセット、局方沃度丁幾（約三%）

二　高熱物體ヲ使用スル工場其ノ他火傷ノ危險アル工場ニハ右ノ外「オリーブ油」又ハ胡麻油（煮沸等ノ方法ニ依リ滅菌シタルモノ）ヲ備フルコト

三　重傷者ヲ擔起スル處アル工場ニ於テハ右ノ外止血帶、副木、興奮劑及擔架ヲ備フルコト

四　救急用具及材料ハ之ヲ箱ニ入レテ清潔ニ保ツコト

五　救急箱ニハ說明書ヲ附シ赤十字等目ニツキ易キ標示ヲ附シ置クコト

第三十四條ノ二

一　安全管理者選任ノ届出書ニハ履歷書ヲ添付スルコト

二　安全管理者二人以上ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ定メ地方長官ニ届出ツルコト

三　安全管理者ハ工場長、技師若ハ安全管理ニ付之ト同等ノ資格アル者ノ中ヨリ選任スルコト

四　常時百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ニ在リテハ工業主自ラ安全管理者ト爲ルコトヲ妨ケサルコト

五　安全日誌ニハ左記事項ニ付之ヲ記載スルコト

1　危害豫防ニ關シ爲シタル事項

2　保健衞生ニ關シ爲シタル事項

〔北海勞〕

3　災害事故ニ關スル事項

イ　災害發生ノ原因狀況及之ニ對シ執リタル處置

ロ　類似災害ノ再發生防止ニ付爲シタル處置

4　工場醫又ハ安全委員中ヨリ申告アリタル重要事項

5　當該官吏ヨリ命セラレタル事項

6　其ノ他參考トナルヘキ事項

第三十四條ノ三

一　工場醫ハ囑託醫タルコトヲ妨ケサルコト

二　工場醫選任ノ届出書ニハ履歷書ヲ添付スルコト

三　工場醫ノ行フヘキ健康診斷ハ概ネ左ノ項目ニ付之ヲ行フコト

1　身長、體重、胸圍

2　肺活量、握力、視力

3　感覺器、呼吸器、循環器、消化器、神經系其ノ他ノ臨床醫學的檢査

業務ノ種類又ハ作業ノ狀態ニ依リ必要アリト認ムル場合ハ前項以外ノ項目ニ付テモ檢査ヲ行ヒ特ニ職業性疾患ニ付留意スルコト

四　工場醫ハ前項ノ健康診斷ノ結果特ニ休業治療又ハ一定ノ保護ヲ必要ト認ムルモノニ付テハ其ノ旨工場主ニ申告スル

コト

五　工場醫ハ健康診斷ノ結果ヲ職工別ニ記載シ置クコト

工業主ハ遲滯ナク前項ノ結果ヲ別記樣式ニ依リ地方長官ニ報告スルコト（別記略ス）

第三十四條ノ五

一　安全委員ハ職員及職工ヨリ之ヲ選任スルコト

二　安全委員ハ概ネ職工數三十人乃至五十人ニ付一人ノ程度ヲ標準トシテ之ヲ選任スルコト

三　工場主ハ安全委員ノ氏名、作業場別、職務別ヲ記載シタル名簿ヲ作成シ置クコト

第三十四條ノ六

安全委員規則ニハ概ネ左記事項ヲ規定スルコト

1　委員會ノ名稱
2　委員會ノ目的
3　委員會ノ事業
4　委員會ノ選任方法
5　役員ノ選任方法
6　委員及役員ノ任期
7　其ノ他必要ナル事項

【北海參】

●工業調査規則

昭和十四年九月八日
商工省令第四十九號

資源調査法第一條ノ規定ニ依リ工業調査規則左ノ通定ム

工業調査規則

第一條　常時五人未滿ノ職工（工業主又ハ之ト雇傭關係ナキ者ニシテ職工ノ作業ヲ爲スモノヲ含ム以下同ジ）ヲ使用スル工場（作業場ヲ含ム以下同ジ）ノ工業主ハ工場毎ニ毎年別記樣式第一號ニ依ル調査票甲三通ニ該當事項ヲ調査記入シ翌年一月末日迄ニ其ノ工場所在地ノ市町村長ニ之ヲ提出スベシ

第二條　常時五人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ工場毎ニ毎年別記樣式第二號ニ依ル調査票乙三通ニ該當事項ヲ調査記入シ翌年一月末日迄ニ其ノ工場所在地ノ市町村長ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ調査票ニ調査記入スベキ事項中原動機、作業機械及設備竝ニ原料及材料ノ種類ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第一項ノ調査票ニ調査記入スベキ事項中生產品名及主要事業ハ別ニ定ムル分類ニ依リ區分シテ之ヲ記入スベシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル工場ノ工業主ハ前條ノ規定ニ拘ラズ工場毎ニ毎年別記樣式第三號ニ依ル調査票丙第一號乃至第三號各四通及調査票丙第四號乃至第七號各三通ニ該當事項ヲ調査記入シ調査票丙第一號乃至第三號ハ翌年一月末日迄ニ其ノ工場所在地ノ市町村長ニ、調査票丙第四號乃至第七號ハ之ニ別記樣式第四號ニ準ジテ作成シタル其ノ工場ノ平面圖三通ヲ添附シ翌年二月末日迄ニ其ノ工場所在地ノ地方長官ニ之ヲ提出スベシ但シ工場ノ平面圖ハ本則ノ規定ニ基キ既ニ提出シタルモノニ變更ナキ限リ之ガ添附ヲ省略スルコトヲ得

一　左ニ揭グル事業ヲ行フ工場ニシテ常時五人以上其ノ事業ニ從事スル職工ヲ使用スルモノ

イ　時鐵又ハ時釘ノ製造

ロ　壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造

二　左ニ揭グル事業ヲ行フ工場ニシテ常時十五人以上其ノ事業ニ從事スル職工ヲ使用スルモノ

イ　金屬工用、木工用、紡織用其ノ他ノ製造加工用機械器具ノ製造

ロ　醫療用又ハ獸醫用ノ機械器具又ハ材料ノ製造

ハ　飮水用器具、毒瓦斯防禦用具、消火器又ハ噴霧器ノ製造

【北海參】

ニ　「レンズ」、「プリズム」、顯微鏡、雙眼鏡ノ類ノ製造
ホ　兵器若ハ航空機ノ附屬品若ハ部分品又ハ氣球ノ製造
ヘ　醫藥品ノ製造
ト　塗料又ハ顏料ノ製造
チ　酒精又ハ蒸餾酒ノ製造
リ　瓦斯ノ製造
三　左ニ揭グル事業ヲ行フ工場ニシテ常時三十人以上其ノ事業ニ從事スル職工ヲ使用スルモノ
イ　「フエルト」又ハ「フエルト」製品ノ製造
ロ　機械裁縫
ハ　金屬ノ塊、錠、條、竿、線、板、筒、管其ノ他ノ金屬素材ノ製造
ニ　梁材又ハ鐵道軌道用、船舶用、建築用若ハ支柱支架用ノ金屬材料ノ製造
ホ　合金ノ製造
ヘ　「ボールト」、「ナット」、鋲、釘、針ノ類ノ製造
ト　鎖、鏈又ハ撚絛ノ製造
チ　金屬製ノ纜、槽、筒ノ類ノ製造
リ　金屬製又ハ纖維製ノ網索ノ製造
ヌ　鍍金又ハ金屬ノ被覆

〔北海券〕

ル　汽罐、原動機、瓦斯用機械、喞筒、送風機類又ハ其ノ附屬機械器具ノ製造
ヲ　電氣機械器具ノ製造
ワ　通信用、信號用又ハ照明用ノ機械器具ノ製造
カ　起重機、「コンベーヤ」其ノ他ノ運搬用機械器具ノ製造
ヨ　試驗用、檢査用、計測用又ハ學術用ノ機械器具ノ製造
タ　印刷用又ハ製圖用ノ機械器具ノ製造
レ　寫眞用ノ機械器具又ハ材料ノ製造
ソ　兵器ノ製造
ツ　自動車、自動自轉車又ハ自轉車ノ製造又ハ修理
ネ　船舶ノ製造又ハ修理
ナ　機械、車輛又ハ船舶ノ附屬品又ハ部分品ノ製造
ラ　動力傳導用ノ車輪、車軸、車軸接手、金屬製軸承又ハ鋼球ノ製造
ム　船舶用、建築用若ハ家具用ノ金具、「メルテ」又ハ「コツク」ノ製造
ウ　耐酸用又ハ耐火用ノ煉瓦ノ製造
キ　炭化石灰ノ製造

〔北海券〕

ノ　炭素製品ノ製造
オ　坩堝ノ製造
ク　研磨材料又ハ研磨用品ノ製造
ヤ　「コークス」、「コールタール」又ハ「ピッチ」ノ製造
マ　工業藥品ノ製造
ケ　合成染料ノ製造
フ　石鹼ノ製造
コ　火藥、爆藥又ハ火工品ノ製造
エ　鐵物油、動植物油脂、脂肪酸、蠟又ハ加工油ノ製造
テ　製材又ハ木製品ノ製造
ア　「コルク」製品又ハ其ノ類似品ノ製造
サ　皮革又ハ皮革製品ノ製造
キ　雲母製品又ハ石綿製品ノ製造
ユ　亞鉛版、石版、銅版又ハ寫眞版ヲ以テスル印刷
メ　精製
ミ　麵麭、「ビスケツト」又ハ水飴ノ製造
シ　纖詰、繰詰又ハ樟詰ノ食料品ノ製造
エ　乾製、鹽製又ハ燻製ノ食料品ノ製造
四　左ニ揭グル事業ヲ行フ工場ニシテ常時五十人以上其ノ事業ニ從事スル職工ヲ使用スルモノ

イ　麻纖物、麻交纖物、毛纖物又ハ毛交纖物ノ製造
ロ　絲布ノ漂染
ハ　其大小又ハ其大小製品ノ製造
ニ　絕緣電線及電纜ノ製造
ホ　鑛業用、農業用又ハ土木用ノ機械器具ノ製造
ヘ　鐵道軌道用車輛ノ製造又ハ修理
ト　航空機ノ製造
チ　製氷機、冷藏器、暖房器又ハ金庫ノ製造
リ　耐酸用、耐熱用又ハ絕緣用ノ陶磁器ノ製造
ヌ　硝子又ハ硝子製品ノ製造
ル　琺瑯鐵器ノ製造
ヲ　松脂、樟腦、薄荷腦、「テレピン」油、樟腦油又ハ薄荷油ノ製造
ワ　醸造製品又ハ其ノ類似品ノ製造
カ　「セルロイド」又ハ「セルロイド」製品ノ製造
ヨ　人造肥料ノ製造
タ　「リノリウム」ノ製造
レ　紙器ノ製造
ソ　綱ノ製造
ツ　穀粉ノ製造

ヌ　砂糖ノ製造

五　左ニ掲グル事業ヲ行フ工場ニシテ常時百人以上其ノ事業ニ従事スル職工ヲ使用スルモノ

イ　綿絲、絹絲、麻絲又ハ毛絲ノ紡績

ロ　廣幅綿織物、絹帆布又ハ綿袋織物ノ製造

ハ　「セメント」又ハ「セメント」製品ノ製造

ニ　人造絹絲ノ製造

ホ　紙又ハ「パルプ」ノ製造

第四條　市町村長ハ市町村内ノ調査票（調査票丙第四號乃至第七號ヲ除ク）ヲ取纏メ審査ノ上其ノ各一通ハ之ヲ受理シタル日ヨリ二年間其ノ廳ニ保存シ調査票甲二通ハ三月十五日迄ニ、調査票乙二通及調査票丙第一號乃至第三號各三通ハ二月末日迄ニ地方長官ニ之ヲ提出スベシ

第五條　市町村ニ工業調査員ヲ置ク

工業調査員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ承ケ調査票ノ配付及蒐集ニ従事ス

第六條　工業調査員ハ地方長官ノ推薦ニ依リ商工大臣之ヲ命ズ

工業調査員ハ名譽職トス

工業調査員ノ任期ハ四年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第七條　地方長官ハ受理シタル調査票及工場ノ平面圖ヲ審査ノ上其ノ各一通ハ之ヲ受理シタル日ヨリ二年間其ノ廳ニ保存シ調査票甲一通ハ四月末日迄ニ、調査票乙一通、調査票丙第一號乃至第七號各二通及工場ノ平面圖二通ハ番號ヲ記入シ三月末日迄ニ商工大臣ニ之ヲ提出スベシ

第八條　地方長官ハ別記樣式第五號ニ依リ毎年一月一日ヨリ六月末日迄ノ間ニ管轄區域内ニ生ジタル第三條ニ掲グル工場ノ開業、休業及廢業ニ付報告書各二通ヲ作製シ八月十五日迄ニ商工大臣ニ之ヲ提出スベシ

第九條　本則ノ規定ニ依リ提出シタル調査票及報告書ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ調査票及報告書ハ統計上ノ目的ニ使用スル場合ト雖モ地方長官又ハ市町村長之ヲ集計發表セントスルトキハ豫メ商工大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三條ノ規定ニ依リ調査票ニ添附シタル工場ノ平面圖ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十條　本則ノ規定ニ依リ提出シタル調査票ハ前條ノ規定ニ拘ラズ工場名簿調製ノ目的ヲ以テ左ニ掲グル事項ヲ摘錄スル爲之ヲ使用スルコトヲ得

一　工場名

二　工場所在地

三　電話番號

四　工業主氏名又ハ名稱

五　事業開始年月

六　主要事業

七　生産品名

第十一條　本則中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準ズベキモノトス

第十二條　鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ヲ行フ工場及官公立工場ニハ本則ヲ適用セズ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工場調査規則及商工省統計報告規則ハ昭和十四年十二月一日ヨリ之ヲ廢止ス但シ罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

工場調査規則ニ依リ提出シタル調査票、工場ノ平面圖及報告書ハ本則ニ依リ之ヲ提出シタルモノト看做ス

商工省統計報告規則ニ依リ蒐集シタル資料ハ統計上ノ目的以外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

商工省統計報告規則ニ依ル商工省統計調査ニ關スル事務ニ從事シタル者其ノ職務ノ執行ニ關シ個人、法人又ハ組合ノ業務ニ付知得シタル事項ヲ故ナク他ニ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

別記樣式
第一號 日本標準規格A列四號

昭和 年 月 日提出

甲 票

	電話番號		備考
	男	女	計
職工（製造、加工、修理等ノ仕事ヲシテ居ル人、職人、臨時工、見習工等ヲ含ム）			
其ノ他（事務員、技術員、販賣員、運搬夫、給仕等ヲ謂フ）			
職工ニ準ズル者			
其ノ他			
額（一月一日ヨリ十二月末日迄ニ實際使用シタモノノ總額）			圓

理ヲシタ品物ノ種類ヲ詳シク分ケテ生產品名欄ニ記入スルコト
ノ地方デ使ハレテ居ル特殊ノ名前ヤ其ノ工場デ名前デ記入セズ一般ニ通用スル名前デ記入ス

又ハ他ノ工場ニ出シテ其ノ工場デハ全然製造、シナイ製品ニ付テハ記入シナイコト
入スル價額ハ賣レタ製品ニ付テハ其ノ賣ツタ値殘ツタモノガアル場合ハ十二月末日ノ市價ニ依ヲ見積リ賣レタモノト合計シテ記入スルコト料欄ニハ顧マレテ他人ノモノニ加工又ハ修理ヲトシテ受取ツタ工賃ヲ記入スルコト

製造高			加工賃及修理料		
數量	數量單位	價額	數量	數量單位	價額
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓
		圓			圓

（例ヘバ紡績業、電球製造業、自轉車製造業ノ如ク記入スルコト。二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニハ主ナルモノ一ツダケヲ記入スルコト）

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱印

竝ニ捺

〔北海道〕

◎第 號 調査票（工業）

工場名

工場所在地

原動機（十二月末日現在）			
電動機（電氣モーター）	臺	馬力	
其ノ他ノ原動機（蒸氣機關、蒸氣タービン、ガス機關、石油機關、水車等ヲ謂ヒ發電機及蒸氣罐ハ含マス）	臺		

從業者數（十二月末日現在）	
雇傭從業者（雇ハレテ仕事ヲシテ居ル人）	
家族從業者（工場主ヤ家族ノ者デ其ノ工場ノ仕事ヲシテ居ル人）	

主要作業機械及設備（十二月末日現在）		
繰絲機（洋式又ハ八丁）		錘
力織機（動力ニ依ル織機）		
筬幅25吋未滿ノモノ		臺
筬幅25吋以上ノモノ		臺
手機（足踏機ハ含マス）		臺
メリヤス素地編機		臺
メリヤス靴下編機		臺
ミシン（縫布用ノモノ）		臺
キユポラ（筒型熔銑爐コシキヲ含ム）		基
旋盤（金屬工用ノモノ）		臺
ボール盤（金屬工用ノモノ）		臺
フライス盤（ミリングマシン）		臺
形削盤（シエーパー）		臺
陶磁器燒成窯		基
植物油搾機（水壓又ハ手動ノモノ）		臺
帶鋸盤（製材又ハ木工用ノモノ）		臺
円鋸盤（製材又ハ木工用ノモノ）		臺
活版印刷機		臺
作業日數（一月一日ヨリ十二月末日迄）		日

原料及材料總使用額（一月一日ヨリ十二月末日迄）

主要事業	生產品名

生產

1 製造、加工、修ニ記入スルコト
2 生產品名ハ其附ケタ特殊ノルコト
3 他カラ買入レ加工、修理ヲ記製造ヲリ高棚ニシ段ヲ記入シ賣段依リ工賃及修理加シテ其ノ賃及ノ報酬

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

〔北海道〕

第二號　日本標準規格B列四號

乙　調査票　（工業）

◎第　　號

昭和　年　月　日提出

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ捺印

工場名						電話番號				備考	
工場所在地											
事業開始年月日		年　月			原動機（十二月末日現在）	種類	實馬力別	數	操業臺數	休止及豫備ノ臺數	計
從業者數（十二月末日現在）	種類	男	女	計			馬力ノモノ				
	職員 事務ニ從事スル者						馬力ノモノ				
	職員 技術ニ從事スル者						馬力ノモノ				
	職員 計						馬力ノモノ				
	職工 十六歳未滿						馬力ノモノ				
	職工 十六歳以上五十歳未滿						馬力ノモノ				
	職工 五十歳以上				作業機械及設備（十二月末日現在）	種類	操業數	休止及豫備ノ數	計		
	職工 計										
	其ノ他ノ從業者				兵役關係者數（十二月末日現在）	種類	陸軍	海軍	計		
勞働消費	四期別	一日平均使用職工數	一日平均勞働時間	作業日數		職員					
	1月 — 3月					職工					
	4月 — 6月					計					
	7月 — 9月										
	10月 — 12月										
賃銀支拂總額（一月一日ヨリ十二月末日迄）	圓										
職工一人一日當實收賃銀	男　錢	女　錢									

〔次葉ニ續ク〕

〔前葉ヨリ續ク〕

◎第　　號

工場名												備考	
工場所在地													
原料及材料使用總額（一月一日ヨリ十二月末日迄）	圓												
原料及材料使用額（一月一日ヨリ十二月末日迄）	種類	數量	數量單位	價額	圓								
					圓								
					圓								
					圓								
					圓								
					圓								
					圓								
					圓								
					圓								
燃料及動力使用額（一月一日ヨリ十二月末日迄）	種類	數量	數量單位	價額	圓								
	石炭				圓								
	コークス				圓								
	石油				圓								
	薪炭				圓								
	ガス 自家發生ニ係ルモノ		立方米		圓								
	ガス 他ヨリ供給ヲ受クルモノ		立方米		圓								
	電力 自家發生ニ係ルモノ		キロワット時		圓								
	電力 他ヨリ供給ヲ受クルモノ		キロワット時		圓								
	其ノ他				圓								
生産額及在庫額	生産品名	生産額（一月一日ヨリ十二月末日迄） 數量	數量單位	價額	圓	在庫額（十二月末日現在） 數量	數量單位	價額	圓				
					圓				圓				
					圓				圓				
					圓				圓				
					圓				圓				
					圓				圓				
					圓				圓				
					圓				圓				
主要事業													

備考　一、本票ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

第三號　日本標準規格B列五號

調査票丙第一號　（工業）

◎第　　號

一般工場調査期間	季節作業工場調査期間
自昭和　年一月一日	自昭和　年　月　日
至昭和　年十二月末日	至昭和　年　月　日

工場名		電話番號	
工場所在地			
主要事業			
勞働消費	四期別	平均一日使用職工數	平均一日勞働時間	作業日數
	月　月 1—3			
	月　月 4—6			
	月　月 7—9			
	月　月 10—12			
賃銀支拂總額				圓

電力使用額 種類	總使用額 數量	數量單位	價額	前記中動力用ノモノ 數量	數量單位	價額	動力ノ供給ハ原動機又ハ供給者名
自家發生ニ係ルモノ		キロワツト時	圓		キロワツト時	圓	
他ヨリ供給ヲ受クルモノ		キロワツト時	圓		キロワツト時	圓	
計		キロワツト時	圓		キロワツト時	圓	

電力以外ノ燃料及動力使用額 種類		數量	數量單位	價額
ガス	自家發生ニ係ルモノ		立方米	圓
	他ヨリ供給ヲ受クルモノ		立方米	圓
				圓
				圓
				圓
				圓
				圓
				圓
				圓

備考

昭和　年　月　日提出

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記シ捺印

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

〔[illegible]〕

〔[illegible]〕

調査票丙第二號　（工業）

◎第　　號

事業開始　年　月

一般工場調査期間	季節作業工場調査期間
自昭和　年一月一日	自昭和　年　月　日
至昭和　年十二月末日	至昭和　年　月　日

年末現在職工數

工場名		主要事業						備考
工場所在地								
生產品名		生產額			在庫額（期末現在）			
分類	細目	數量	數量單位	價額	數量	數量單位	價額	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	
				圓			圓	

昭和　年　月　日提出

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記シ捺印

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

日本標準規格B列五號

（工業）　調査票丙第三號

◎第　號	昭和　年十二月末日現在

工場名		工場所在地	
事業開始年月	年　月	主要事業	

電動機	作業場名	實馬力數別	操業臺數	休止及豫備ノ臺數	計	直流ノモノノ臺數	交流ノモノノ臺數	用途	作業場名	實馬力數別	操業臺數	休止及豫備ノ臺數	計	直流ノモノノ臺數	交流ノモノノ臺數	用途

電動機以外ノ原動機	作業場名	種類	實馬力數別	操業臺數	休止及豫備ノ臺數	計	用途	作業場名	種類	實馬力數別	操業臺數	休止及豫備ノ臺數	計	用途

工場ノ一日ノ作業時間	自　月　日 至　月　日 時間	自　月　日 至　月　日 時間	自　月　日 至　月　日 時間	自　月　日 至　月　日 時間

昭和　年　月　日提出

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ捺印

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

日本標準規格B列五號

〔附錄〕

〔附錄〕

（工業）　調査票丙第四號

◎第　號	
一般工場調査期間	自昭和　年一月一日 至昭和　年十二月末日
季節作業工場調査期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日

工場名	
工場所在地	
主要事業	

原料及材料使用額

價額合計				圓
種類	數量	數量單位	價額	
				圓
				圓

原料及材料使用額

種類	數量	數量單位	價額	
				圓
				圓

備考	

昭和　年　月　日提出

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱竝ニ捺印

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

日本標準規格B列五號

調査票丙第五號（工業）

◎第　　號

昭和　年十二月末日現在

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

◎工場名					主要事業			
工場所在地								
職員	職務別 / 性別	男		女		計		
	事務ニ從事スル者							
	技術ニ從事スル者							
	計							
職工	技能別 / 性別 / 年齢別	男 十六歳未満	男 十六歳以上五十歳未満	男 五十歳以上	男 計	女 十六歳未満	女 十六歳以上五十歳未満	女 五十歳以上	女 計	合計
	計									
其ノ他ノ從業者		男		女		計		

職員及職工ノ一ケ月當リ收入給與額	種類	男	女
一ケ月	事務ニ從事スル職員		
	技術ニ從事スル職員		
	職工		

兵役關係者	兵役關係別		
職員及職工	陸軍	既ニ入營シ	飛行兵又ハ氣球兵
			鐵道兵
			電信兵
			自動車手
		教育ヲ受ケタル者	工長
			其ノ他
		未教育補充兵	
		計	
	海軍		
	合計		

備考

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ捺印

昭和　年　月　日提出

日本標準規格B列五號

〔北海勞〕

調査票丙第六號（業工）

◎第　　號

昭和　年十二月末日現在

◎欄ハ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

工場名					主要事業					
工場所在地										
作業機械及設備	作業場名	種類	馬力又ハ能力寸法別	操業數	休止及整備ノ數	計	作業場名	種類	馬力又ハ能力寸法別	操業數	休止及整備ノ數	計
其ノ他ノ機械及設備	作業場名	種類	操業數	休止及整備ノ數	計	作業場名	種類	操業數	休止及整備ノ數	計
備考										

工業主ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ捺印

昭和　年　月　日提出

日本標準規格B列四號

〔北海勞〕

調査票兩第七號

（工業）

昭和　年十二月末日現在

◎第　號

工場名
工場所在地

主要事業

敷地總坪數

種類	構造別	棟數	建坪	延坪

作業場及倉庫ノ建物

種類	構造別	棟數	建坪	延坪

鐵路スル停車場、幹線道路、河川、運河又ハ港灣ノ名稱	鐵路＝使用スル機關又ハ設備ノ種類	停車場又ハ港灣＝至ル距離

鐵路スル停車場、幹線道路、河川、運河又ハ港灣ノ名稱	鐵路＝使用スル機關又ハ設備ノ種類	停車場又ハ港灣＝至ル距離

外廻部ト鐵道ノ狀況

備考

◎第六號ノ道府縣廳ニ於テ記入スルコト

昭和　年　月　日提出

位又住工ニハ所業主ノ氏名ヲ捺印署名ノコト

日本標準規格B列五號

何工場平面圖

〔縮尺略〕

職工數	原動ノ種類	主要事業	工場名	工場所在地	原動機發生ノ時期	備考

自昭和 年 月 日
至昭和 年 六月 一日 未日

表五號
日本銀行條例ニ依ル列五號

〔北海道〕

●工業調査規則第二條第二項ノ規定ニ依ル原動機、作業機械及設備竝ニ原料及材料ノ種類

昭和十四年十二月二十三日
商工省告示第三百七十二號

工業調査規則第二條第二項ノ規定ニ依リ原動機、作業機械及設備竝ニ原料及材料ノ種類左ノ通定ム

一 原動機ノ種類ハ左ノ如シ

蒸氣機關、蒸氣タービン、ガス機關、石油機關、タービン水車、ペルトン水車、日本型水車、電動機

二 作業機械及設備ノ種類ハ左ノ如シ

絹絲紡績機
- リング紡績機
- ミュール
- 絹絲精紡機
- 絹絲精紡機
- 絹絲紡績機
- 毛絲梳篠機（コーマー）
- 英式梳篠機

第一章 工場

- 佛式梳篠機
- 梳毛精紡機
- ミュール
- 其ノ他
- 紡毛精紡機
- ミュール
- 其ノ他

〔北海道〕

- 亞麻式精紡機
- ラミー式精紡機
- 黃麻精紡機
- 洋式撚糸機
- 絹撚糸機
- 綿撚糸機
- 其ノ他ノ撚糸機
- 和式撚糸機
- 絹總糸機
- 其ノ他ノ撚糸機
- 綿自動織機
- 筬幅二五吋未滿ノモノ
- 筬幅二五吋以上ノモノ
- 綿力織機
- 筬幅二五吋未滿ノモノ
- 筬幅二五吋以上ノモノ
- 絹手機
- 絹力織機（人絹力織機ヲ含ム）
- 筬幅二五吋未滿ノモノ
- 筬幅二五吋以上ノモノ
- 絹紋機力織機（人絹紋機力織機ヲ含ム）
- 筬幅二五吋未滿ノモノ
- 筬幅二五吋以上ノモノ
- 絹手機（人絹手機ヲ含ム）
- 絹紋機手機（人絹紋機手機ヲ含ム）
- 毛力織機
- 筬幅五〇吋未滿ノモノ
- 筬幅五〇吋以上ノモノ
- 麻力織機
- 筬幅二五吋未滿ノモノ
- 筬幅二五吋以上ノモノ
- 麻手機
- メリヤス機
- 円形
- 横形
- 自動メリヤス靴下編機
- メリヤス靴下編機

コットン式靴下編機
捺染機
ロール幅二五吋未滿ノモノ
ロール幅二五吋以上ノモノ
ミシン
二
キュポラ
電氣爐
反射爐
平爐
轉爐
機械鍛
火造水壓プレス
壓延機
打貫機（パンチングマシン）
薄板用
厚板用
剪斷機（シヤリングマシン）

【北海道】

切削研磨用工作機械（金屬工用）
旋盤（レース）
ボール盤（ドリリングマシン）
フライス盤（ミリングマシン）
中グリ盤（ボーリングマシン）
平削盤（プレーニングマシン）
形削盤（シエーピングマシン）
整削盤（スロッチングマシン）
齒切盤（ギヤカッチングマシン）
研磨盤（グライデングマシン）

其ノ他
金屬材料試驗機
製線機
繰線機
鋼索製造用
電線製造用
電線及電纜被鉛裝置
鉛管
鉛業
硫酸製造用鉛室（塔形ノモノヲ含ム）
硫酸製造用接觸爐ソルベー塔（炭酸化塔）
アンモニア合成管
アンモニア酸化爐
塩酸合成管
カーバイド電氣爐
石灰窒素窯
セメント燒成用回轉窯
陶磁器燒成窯

トンネル窯
其ノ他
ガラス製造用ルツボ
ガラス製造用槽窯
鐵道鐵器燒成爐
コークス爐
植物油抽出罐
植物油搾機（水壓）
植物油搾機（手動）
植物油エキスペラー
鹼化釜
抄紙機
人造絹絲紡糸口
遠心分離機
アルコール蒸溜器
ゴム和硫釜
硝化器（ベンゾール、トルオール及クロルベンゾール用）
水電鹽精

食塩電解槽
石灰窯
製材及木工用帶鋸盤
三
原料及材料ノ種類ハ左ノ如シ
繭（屑繭ヲ除ク）、棉花（屑綿ヲ除ク）、羊毛（トップヲ除ク）、ステープルファイバー、屑毛、生絲、玉絲、紡績絹絲（紬紡絲ヲ除ク）、綿絲、毛絲（トップヲ除ク）、ステープルファイバー絲、人造絹絲、碎木パルプ、化學パルプ、銑鉄、鋼塊及鋼錠、鋼材、特殊鋼塊、特殊鋼材、銅塊及鋼錠、銅材、黃銅、鉛、亞鉛、アルミニウム、硫酸、硝酸、ソーダ灰、苛性ソーダ

【北海道】

製材及木工用円鋸盤
小麥粉碎機
活版印刷機

●工業調査規則第二條第三項ノ規定ニ依ル生產品名及主要事業ノ分類

昭和十四年十二月二十三日
商工省告示第三百七十三號

工業調査規則第二條第三項ノ規定ニ依リ生產品名及主要事業ノ分類左ノ通定ム

主要事業	生產品名
金屬工業	
鐵精錬業及材料品製造業	銑鉄
	フエロアロイ（合金鉄）
	鋼塊及鋼錠
	鋼板（厚サ六粍以上）
	鋼板（厚サ六粍未滿）
	鋼條竿
	鋼線材
	鋼線
	鋼管
	軌條（フイッシュプレートヲ含ム）
	其ノ他ノ鋼材料品
	特殊鋼塊及特殊鋼錠
	特殊鋼板
	特殊鋼條竿
	其ノ他ノ特殊鋼材料品
銅精錬業及材料品製造業	電氣銅地金
	銅屑、黃銅屑、靑銅屑等ヨリ再生シタ

ル銅地金
裸銅電線
銅板(共通品)
銅大板
銅條
銅管
銅棒
銅線
銅セバ又ハノベ
銅雜線、雜棒及雜管

亞鉛精錬業及材料品製造業
亞鉛塊及亞鉛錠(電氣)
亞鉛塊及亞鉛錠(蒸溜)
亞鉛板
其ノ他ノ亞鉛材料品

鉛精錬業及材料品製造業
鉛塊及鉛錠
鉛板
鉛管
鉛箔
其ノ他ノ鉛材料品

アルミニウム精錬業及材料品製造業
アルミニウム塊及アルミニウム錠
アルミニウム板
アルミニウム條竿
アルミニウム線
アルミニウム管
アルミニウム箔
其ノ他ノアルミニウム材料品

マグネシウム精錬業及材料品製造業
マグネシウム

錫精錬業及材料品製造業
錫地金
プリキ屑ヨリ再生シタル錫
地金
錫箔

金属タングステン精錬業及材料品製造業
金属タングステン

アンチモン製錬業及材料品製造業
アンチモン

其ノ他ノ金属精錬業及材料品製造業
白金
金地金
金箔
銀地金
銀箔
其ノ他ノ金属箔

黃銅材料品製造業
其ノ他ノ金属
黃銅板(共通品)
黃銅大板
黃銅條
黃銅管
黃銅棒
黃銅線
黃銅セバ又ハノベ
黃銅雜線、雜棒及雜管

其ノ他ノ銅合金材料品製造業
其ノ他ノ銅合金板
其ノ他ノ銅合金大板
其ノ他ノ銅合金條
其ノ他ノ銅合金管
其ノ他ノ銅合金棒
其ノ他ノ銅合金線
其ノ他ノ銅合金セバ又ハノベ
其ノ他ノ銅合金雜線、雜棒及雜管

其ノ他ノ合金材料品製造業
ヂュラルミン
シルミン
其ノ他ノアルミニウム合金
マグネシウム合金
軸受合金
ハンダ
其ノ他ノ合金

銑鉄鑄物業
鑄鉄管
鑄鉄放熱器
機械用鑄鉄品
其ノ他ノ鑄鉄品(鍋、釜、鉄瓶等)

可鍛鑄鉄鑄物業
可鍛鑄鉄

銅鑄物業
鑄銅錨
其ノ他ノ鑄銅品

青銅(燐青銅ヲ含ム)鑄物業
青銅(燐青銅ヲ含ム)鑄物

アルミニウム鑄物業
アルミニウム鑄物

其ノ他ノ鑄物業
其ノ他ノ機械用鑄物
其ノ他ノ鑄物

亞鉛メッキ業
亞鉛メッキ鋼板
亞鉛メッキ鋼線
亞鉛メッキ鋼管
其ノ他ノ亞鉛メッキ品

錫メッキ業
プリキ

		錫メッキ線
	ニッケルメッキ業	其ノ他ノ錫メッキ品
	其ノ他ノメッキ業	ニッケルメッキ品
		クロムメッキ品
	鎖製造業	其ノ他ノメッキ品
		鎖鎖
	バネ製造業	其ノ他ノ鎖鎖
	鋼索製造業	バネ
	金網製造業	鋼索
	ボルト、ナット、座金及鉄製造業	金網
		ボルト、ナット及座金
		鉄鋲(リベット)
	釘類製造業	其ノ他ノ鉄(リベット)
		鉄丸釘
		木ネヂ
	針類製造業	其ノ他ノ釘類(蹄釘ヲ除ク)
		縫針
		ミシン針
		メリヤス用針
		其ノ他ノ針類

〔北海勞〕

	金属板製品製造業	アリキ樋
		ドラム缶
		其ノ他ノ金属板製品
	建築用及家具用金物製造業	錠前、鐶及蝶番
		其ノ他ノ建築用及家具用金物
	金属製建具、家具類製造業	鉄製建具、家具及什器
		其ノ他ノ金属製建具、家具及什器
	建築、橋梁、鉄塔等ノ建設材料製造業	建築、橋梁、鉄塔等ノ建設材料
	金属器類製造業	金、白金及銀器(貴金属細工品ヲ含ム)
		銅器及青銅器
		黄銅器
		銅器
		アルミニウム器
		アンチモン器
	時計用鎖	
	徽章及賞牌	
	金属製鉛筆	
	金属製ペン先製造業	金製ペン先(萬年筆用)
		鋼製ペン先(メッキシタルモノヲ含ム)
		其ノ他ノ金属製ペン先

〔北海勞〕

	剃刀、食卓用ナイフ、フォーク及スプーン製造業	剃刀(安全剃刀ヲ含ム)
		食卓用ナイフ、フォーク及スプーン
	洋傘骨製造業	洋傘骨
	金属製玩具製造業	金属製玩具
	金属製小間物類製造業	タボ止、ヘヤーピン、石鹸箱其ノ他ノ金属製小間物類
	蹄鉄及蹄釘製造業	蹄鉄
		蹄釘
	火造(鍛冶)業	火造品
	金属切断業	金属切断品
	熔接業	熔接品
	其ノ他ノ金属品製造加工業	其ノ他ノ金属品
	機械器具工業	
	主要事業	生産品名
	蒸氣罐製造業	水管罐
		組合罐
		陸用円罐
		其ノ他ノ蒸氣罐
		蒸氣罐部分品及附属品
	蒸氣機関及蒸氣タービン製造業	蒸氣機関
		蒸氣タービン
	内燃機関製造業	ガス機関
		ガソリン機関
		燈油機関
		重油機関
	水車製造業	タービン水車
	其ノ他ノ原動機製造業	ペルトン水車
		其ノ他ノ原動機
	原動機部分品及附属品製造業	原動機部分品及附属品
	電氣機械器具製造業	發電機(電動發電機ヲ含ム)
		電動機
		回轉變流機
		周波數變換機
		變壓器
		水銀整流器
		其ノ他ノ整流器
		扇風機
		電熱器

	其ノ他ノ電氣機械器具
無線及有線通信機械器具製造業	家庭用ラヂオ受信機械器具
	其ノ他ノ無線通信機械器具
	有線通信機械器具(搬送裝置ヲ含ム)
電線及電纜製造業	絕緣電線
	撚合裸線
	電纜
電池製造業	蓄電池
	乾電池
切削研磨用金属工作機械製造業	旋盤
	ボール盤
	中グリ盤
	フライス盤
	研磨盤
	歯切盤
	平削盤、形削盤及竪削盤
	プローチ盤
	金切鋸盤
其ノ他ノ金属工作機械製造業	其ノ他ノ切削研磨用金属工作機械
	打貫機

〔北海勞〕

金属工作機械部分品及附属品製造業	剪斷機
	型付プレス
	其ノ他ノ金属板加工用工作機械
	壓延機
	機械鎚
	火造プレス
	其ノ他ノ金属工作機械
	金属工作機械部分品及附属品(工具ヲ除ク)
製材及木工機械製造業	製材及木工機械
工具製造業	金属工用切削工具
	金属工用剪斷及打貫工具
	其ノ他ノ金属工用工具
	木工用工具(鋸、ノミ、鉋等)
	其ノ他ノ工具(剪毛用ナイフ等)
	手工具(空氣工具、萬力、スパナー、ペンチ、ネヂ廻等)
採鑛、選鑛及精錬機械器具製造業	採鑛機械器具
	採油機械器具
	砂金採取船

化學工業用機械器具製造業	選鑛及精錬機械器具
	蒸溜、蒸煮及蒸發機
	濾過、混合及分離機
	冷却及乾燥機
	反應機
	化學工業用破碎機
	其ノ他ノ化學工業用機械器具
窯業用機械器具製造業	窯業用機械器具
製紙機械器具製造業	製紙機械器具
紡織機械器具製造業	紡織機械器具
	織布機械器具
	染色機械器具
	布帛整理加工機械器具
	メリヤス機械器具
	其ノ他ノ紡織機械器具
	紡織機械部分品及附屬品
蠶絲機械器具製造業	蠶絲機械器具
	蠶絲機械器具部分品及附屬品
ガス發生裝置製造業	自動車用ガス發生裝置
	其ノ他ノガス發生裝置

〔北海勞〕

食料品製造加工用機械器具製造業	食料品製造加工用機械器具
印刷機械器具製造業	印刷機械器具
	活字
製本機械器具製造業	製本機械器具
ミシン製造業	ミシン及ミシン部分品
其ノ他ノ製造加工用機械器具製造業	鑄造機械
	其ノ他ノ製造加工用機械器具
鐵道車輛製造業	蒸氣機関車(炭水車ヲ含ム)
	電氣機関車
	內燃機関車
	機関車部分品及附屬品
	客車
	貨車
	客車及貨車ノ部分品及附屬品
	電車
	電車部分品及附屬品
	內燃動車
	小型蒸氣機関車
	小型電氣機関車
	小型內燃機関車

小型貨車
小型鉄道車輛部分品及附属品
大型自動車製造業　乗用自動車
貨物自動車
乗合自動車
特殊自動車
小型自動車製造業　小型四輪自動車
自動二輪車及自動三輪車製造業　自動二輪車
自動三輪車
自動車部分品及附属品製造業　自動車車体
自動車部分品及附属品
自轉車製造業　自轉車
自轉車部分品及附属品
其ノ他ノ車輛製造業　荷車
其ノ他ノ車輛
鋼船製造業　鋼船(總噸數千噸以上ノモノ)
鋼船(總噸數千噸未滿ノモノ)
其ノ他ノ船舶製造業　其ノ他ノ船舶
航空機製造業　航空機
航空機部分品及附属品製造業　航空機部分品及附属品

〔北海等〕

運搬機械製造業　起重機
ホイスト
エレベータ
コンベヤ
捲揚機
其ノ他ノ運搬機械
送風機及氣体壓縮機製造業　ポンプ
ポンプ及水壓機製造業　水壓機(金屬工作機械ヲ除ク)
送風機
氣体壓縮機
農業用機械器具製造業　農業用機械
農具
土木建築用機械器具製造業　土木建築用機械
土工具
度量衡器製造業　度器
量器
衡器
度量衡器部分品及附属品
ガスメートル及水量メートル製造業　ガスメートル
水量メートル

寒暖計製造業
体温計製造業
電氣計器製造業
計壓器類製造業
其ノ他ノ計器製造業
電氣時計製造業
其ノ他ノ時計製造業
掛時計
懐中時計及腕時計
時計部分品
測量機械器具製造業
材料試驗機
ゲージ類
試驗及檢査機械器具製造業
檢査測定機
其ノ他ノ試驗檢査機械器具
學術用機械器具製造業
學術用機械器具
醫療用機械器具製造業
醫療用機械器具
寫眞機及寫眞機部分品
寫眞機類製造業

ガスメートル及水量メートルノ部分品及附属品
寒暖計
体温計
電氣計器
計壓器類
其ノ他ノ計器
電氣時計
掛時計
懐中時計及腕時計
時計部分品
其ノ他ノ照明用機械器具
ピアノ
オルガン
バイオリン、マンドリン、ギター等ノ絃樂器
其ノ他ノ樂器類
蓄音機
銃砲、彈丸、兵器類
事務用機械製造業
計算機、金錢登錄機、タイプライター

〔北海等〕

映畫撮影機及映寫機
幻燈器
其ノ他ノ寫眞機類
レンズ(プリズムヲ含ム)
顯微鏡
望遠鏡
双眼鏡
其ノ他ノ光學機械器具
電球
探照燈
懐中電燈
其ノ他ノ照明用機械器具
其ノ他ノ光學機械器具製造業
電球製造業
其ノ他ノ照明用機械器具製造業
樂器類製造業
蓄音機製造業
銃砲、彈丸、兵器類製造業

	等ノ事務用機械
金庫製造業	金庫
ガス器具製造業	ガス器具
弁及コック製造業	弁及コック
軸受製造業	球軸受
	コロ軸受
	其ノ他ノ軸受
歯車製造業	軸受部分品(球及コロヲ含ム)
ベルト車、車輪及車軸製造業	歯車
	ベルト車、車輪及車軸
前掲以外ノ部分品及附属品製造業	前掲以外ノ部分品及附属品
其ノ他ノ機械器具製造業	其ノ他ノ機械器具

化學工業		
主要事業	生産品名	
製薬業	醫薬、醫薬及醫薬類似品	
ソーダ製造業	ソーダ灰	
	苛性ソーダ	
	洗濯ソーダ	
	重炭酸ソーダ	

〔北海道〕

硫酸製造業	發煙硫酸
	六十五度以上ノ硫酸
	六十度以上ノ硫酸
	六十度未滿ノ硫酸
燐製造業	黄燐
	赤燐
	硫化燐
壓縮ガス製造業	酸素
	水素
	塩素
	アセチレン
	炭酸(固體ノモノヲ含ム)
	アンモニア(氣體及液體ノモノ)
	其ノ他ノ壓縮ガス
カーバイド製造業	カーバイド(炭化石灰)
其ノ他ノ工業藥品製造業	塩酸
	晒粉
	合成硼酸
	其ノ他ノ硝酸
	重クロム酸ソーダ

	重クロム酸カリ
	過マンガン酸カリ
	硅酸ソーダ
	硅酸カリ
	塩素酸ソーダ
	塩素酸カリ
	苛性カリ
	芒硝
	硫化ソーダ
	二硫化炭素
	石炭酸
	サリチル酸
	醋酸
	メタノール
	アルコール
	ブチルアルコール
	アセトン
	ホルマリン
	エーテル
	グリセリン

〔北海道〕

	グリコール
	ヨード
	ヨードカリ
	塩化カリ
	炭酸カリ
	硝石
	硝酸アンモン
	塩化カルシウム
	塩化亜鉛
	炭酸マグネシア
	人造氷晶石
	明礬
	硫酸アルミニウム
	シアンナトリウム及シアンカリ
	其ノ他ノ工業藥品
	食塩
	藍
	其ノ他ノ天然染料
硫化染料製造業	硫化染料
其ノ他ノ合成染料及中間物製造業	塩基性染料

直接染料
酸性染料
媒染染料
人造藍
其ノ他ノ建染染料
其ノ他ノ合成染料
アニリン
ベタナフトール
ニトロアニリン
ニトロトルイジン
ナフチルアミン
オキシナフトエ酸誘導体
其ノ他ノ中間物

漆液製造業
漆液
ワニス
エナメルペイント
船底塗料
水性塗料
其ノ他ノペイント
ニトロセルロース塗料

〔北海勞〕

アセチルセルロース塗料
靴墨
其ノ他ノ塗料
亞鉛華(酸化亞鉛)
一酸化鉛(密陀僧)
鉛丹(光明丹)
硫酸バリウム
リトポン
チタン白
鉛白
群青
紺青(プルシャンブルー)
ベンガラ(紅殻)
金液
其ノ他ノ窯業用顔料
繪画用繪具
墨
記刷インキ
其ノ他ノインキ
其ノ他ノ顔料

顔料製造業

マッチ製造業
マッチ
其ノ他ノ發火物製造業
有煙火藥
無煙火藥
ダイナマイト
其ノ他ノ爆藥
導火索
煙火
其ノ他ノ發火物

コールタール及コールタール分溜物製造業
コールタール
ベンゾール
トルオール
クレオソート油
ナフタリン
コールタールピッチ
其ノ他ノコールタール分溜物

石油精製業
揮發油
輕油
燈油
マシン油

〔北海勞〕

重油
パラフィン
石油アスファルト
石油ピッチ
其ノ他ノ石油精製品

人造石油製造業
人造石油

植物油脂製造業
菜種油
胡麻油
落花生油
椿油
棉實油
椰子油
ヒマシ油
大豆油
亞麻仁油
荏油
麻實油
桐油
糠油
其ノ他ノ植物油

〔北海道〕

採脳製造業	採脳
	採脳赤油
	採脳白油
	採脳重油
薄荷製造業	薄荷脳
	薄荷油
其ノ他ノ植物性揮發油製造業	テレピン油（松根油ヲ含ム）
	ミカン油（オレンジ油ヲ含ム）
	其ノ他ノ植物性揮發油
魚油製造業	タラ油
	ニシン油
	イワシ油
	其ノ他ノ魚油
獸脂類製造業	サナギ油
	牛脂
	豚油
	鯨油
	其ノ他ノ獸脂類
木蠟製造業	木蠟
蠟燭製造業	蠟燭
加工油製造業	ボイル油
	硬化油
	硬化蠟
	オレイン酸
	ステアリン酸
	其ノ他ノ加工油
ゴム製品製造業	飛行機、自動車、自動二輪車及自動三輪車用空氣入タイヤ
	飛行機、自動車、自動二輪車及自動三輪車用ソリッドタイヤ
	飛行機、自動車、自動二輪車及自動三輪車用チューブ
	自轉車用タイヤ
	自轉車用チューブ
	其ノ他ノゴム製タイヤ及其ノ附屬品
	機械用軟質ゴム製品
	ゴム靴
	ゴム底布靴
	其ノ他ノゴム製履物
	ゴム管

〔北海道〕

	ゴムベルト
	其ノ他ノ軟質ゴム製品（ゴム引布ヲ除ク）
	硬質ゴム製電槽
	其ノ他ノ硬質ゴム製品
再生ゴム素地製造業	再生ゴム素地
パルプ製造業	砕木パルプ
	製紙用化學パルプ
	化學纖維用化學パルプ
製紙業	印刷用紙
	筆記用紙
	圖畫用紙
	包裝用紙
	マッチ用紙
	薄葉紙
	アートペーパー
	艶紙
	連史紙
	半紙
	美濃紙
	鳥ノ子紙及模造紙
	縣紙
	擬革紙
	板紙
	其ノ他ノ紙
セロファン紙製造業	セロファン紙
セルロイド素地製造業	セルロイド素地
セルロイド製品製造業	セルロイド製櫛
	其ノ他ノセルロイド製品
再生セルロイド素地製造業	再生セルロイド素地
人造絹絲製造業	人造絹絲
ステープルファイバー製造業	ステープルファイバー
其ノ他ノ化學纖維製造業	蛋白質纖維
	其ノ他ノ化學纖維
植物質肥料製造業	菜種絞粕
	大豆粕
	棉實絞粕
	其ノ他ノ植物質肥料

動物質肥料製造業	魚粕精	
	サナギ粕粕	
	骨粉	
	其ノ他ノ動物質肥料	
鉱物質及配合肥料製造業	過燐酸石灰	
	硫酸アンモン	
	石灰窒素	
	硫酸カリ	
	其ノ他ノ鉱物質肥料	
	化成肥料	
	配合肥料	
製革業	クロム鞣牛革	
	塩鞣牛革靴底	
	其ノ他ノ塩鞣牛革	
	馬革	
	豚革	
	其ノ他ノ革	
精製毛皮製造業	兎毛皮	
	其ノ他ノ毛皮	
石鹸及化粧品製造業	化粧石鹸	
	工業用石鹸	
	薬用石鹸	
	洗濯石鹸	
	粉石鹸	
	其ノ他ノ石鹸	
	香水	
	香油	
	歯磨	
	白粉	
	化粧水	
	クリーム	
	洗粉	
	其ノ他ノ化粧品	
人造レジン素地及製品製造業	フェノールレジン素地	
	フェノールレジン製品	
	尿素レジン素地	
	尿素レジン製品	
	其ノ他ノ人造レジン	
蓄音機レコード製造業	蓄音機レコード	
パルカナイズドファイバー製造業	パルカナイズドファイバー素地	

	パルカナイズドファイバー製カードカン	
	其ノ他ノパルカナイズドファイバー製品	
リノリウム製造業	リノリウム	
防水布、擬革布類製造業	防水布及油布	
	擬革布	
	ゴム引布	
建築用防水紙及防水布製造業	建築用防水紙及防水布	
フィルム、乾板類製造業	写真用フィルム	
	乾板	
	写真用印画紙	
人造香料製造業	人造香料	
タンニン製造業	合成タンニン	
	タンニン酸	
	タンニンエキス	
飼料製造業	膠	
	セラチン	
	カセイン	

	デキストリン	
	其ノ他ノ飼料	
殺虫剤及防腐剤製造業	殺虫剤(粉末)	
	殺虫剤(液体)	
	防腐剤(粉末)	
	防腐剤(液体)	
研磨材料及研磨用品製造業	カーボランダム	
	アランダム	
	金剛砂	
	其ノ他ノ研磨材料	
	人造砥石	
	鉄鑢及布鑢	
	其ノ他ノ研磨用品	
炭素製品製造業	人造黒鉛電極	
	天然黒鉛電極	
	其ノ他ノ炭素電極	
	炭素刷子	
	炭素板	
	炭素棒(アーク燈用ヲ含ム)	
	炭素粒	

主要事業	生産品名
	炭素パッキング
	其ノ他ノ炭素製品
コークス製造業	ピッチコークス
	冶金コークス
	其ノ他ノコークス
其ノ他ノ化學製品製造業	活性炭
	煉炭
	木炭
	線香
	松煙及油煙
	其ノ他ノ化學製品
ガス業及電氣業	
主要事業	生産品名
ガス業	ガス
電氣業	電氣
窯業及土石工業	
主要事業	生産品名
陶磁器製造業	飲食用陶磁器
	衞生用陶磁器
	家具用陶磁器
	陶磁器繪付業
	ガラス及ガラス製品製造業
	ガラス製飲食器
	ガラス製珠玉及光球（人造眞珠ヲ除ク）
	ガラス製腕輪
	其ノ他ノ裝飾用ガラス製品
	ガラス製笠及グローブ
	其ノ他ノガラス製照明器具（電球ヲ除ク）
	電氣用ガラス製品
	醫療用ガラス製品
	タイル及テラカッタ
	其ノ他ノ建築用陶磁器
	特高壓碍子
	其ノ他ノ碍子
	電熱器用陶磁器
	其ノ他ノ電氣用陶磁器
	醫療用陶磁器
	耐酸及耐熱用陶磁器
	陶管
	其ノ他ノ陶磁器
	繪付陶磁器
	ガラス製飲食器
	ガラス製珠玉及光球（人造眞珠ヲ除ク）
	ガラス製腕輪
	其ノ他ノ裝飾用ガラス製品
	ガラス製笠及グローブ
	其ノ他ノガラス製照明器具（電球ヲ除ク）
	電氣用ガラス製品
	醫療用ガラス製品
	耐酸及耐熱用ガラス製品
	ガラス製纖維（魔法纖ヲ除ク）
	板ガラス（無色平面厚サ二・二粍以下）
	板ガラス（無色平面厚サ四・〇粍以下）
	ガラス型板
	其ノ他ノ板ガラス
	鏡
	光學用ガラス素地
	石英ガラス製品
	其ノ他ノガラス及ガラス製品
セメント製造業	ポルトランドセメント
	其ノ他ノセメント
煉瓦及耐火物製造業	普通煉瓦
	耐火煉瓦
	耐火モルタル
	ガラス製造用ルツボ
	黑鉛製耐火物
	レトルト
	其ノ他ノ煉瓦及耐火物
屋根瓦製造業	屋根瓦（セメント瓦ヲ除ク）
	石灰製造業
	生石灰
	消石灰
珪藻鐵器製造業	家具及飲食用珪藻鐵器
	工業用珪藻鐵器
其ノ他ノ窯業製品製造業	其ノ他ノ珪藻鐵器
	其ノ他ノ窯業製品
セメント製品製造業	セメント瓦
	セメント管類
	其ノ他ノセメント製品
石綿製品製造業	石綿絲
	石綿布
	石綿組紐類
	石綿シートパッキング
	石綿プレーキライニング及クラッチフェイシング
	石綿ミルボード
	石綿紙
	波板石綿スレート（セメントヲ混用シタルモノ）
	其ノ他ノ石綿スレート（セメントヲ混

〔北海勞〕

〔北海勞〕

用シタルモノ）
石綿管類（セメントヲ混用シタルモノ）
其ノ他ノ石綿製品
石工品製造業　石工品
其ノ他ノ土石工業　雲母製品
其ノ他ノ土石製品

紡織工業

主要事業　生産品名
生絲製造業　生絲
玉絲製造業　玉絲
野蠶絲製造業　野蠶絲
生皮苧熨斗絲類製造業　生皮苧
熨斗絲及其ノ他ノ製絲屑物
綿絲紡績業　純綿絲
混紡綿絲
綿絲紡績屑
絹絲紡績業　紬紡絲
絹紡絲
屑綿（ペニー）
絹絲紡績屑

〔北海勞〕

麻絲紡績業　黄麻絲
苧麻絲
亞麻絲
其ノ他ノ麻絲
麻絲紡績屑
毛絲紡績業　純毛トップ
純毛紡毛絲
純毛梳毛絲
混紡トップ
混紡紡毛絲
混紡梳毛絲
毛絲紡績屑
ステープルファイバー絲紡績業　ステープルフィイバー絲
ステープルファイバー絲紡績屑
其ノ他ノ紡績業　更生絲
蛋白質絲
其ノ他ノ紡績絲
綿撚絲業　織物用綿撚絲
漁網用及漁具用綿撚絲
カタン絲

綿縫絲
其ノ他ノ綿撚絲
織物用絹撚絲
其ノ他ノ絹撚絲
麻撚絲
人造絹撚絲
ステープルファイバー撚絲
金属箔絲
其ノ他ノ撚絲及加工撚絲
絹綾木綿（純綿織物　廣幅）
綾木綿（純綿織物　廣幅）
繻子（純綿織物　廣幅）
金巾（純綿織物　廣幅）
粗布（純綿織物　廣幅）
天竺（純綿織物　廣幅）
綿縮（純綿織物　廣幅）
小倉（純綿織物　廣幅）
綿ネル生地（純綿織物　廣幅）
ポプリン（純綿織物　廣幅）
帆布（純綿織物　廣幅）

〔北海勞〕

天鵞絨（純綿織物　廣幅　ベールテンヲ含ム）
紋帳地（純綿織物　廣幅）
其ノ他ノ縞木綿及織色無地（純綿織物　廣幅）
其ノ他ノ純綿織物（廣幅）
白木綿（純綿織物　小幅）
縞木綿（純綿織物　小幅）
絣木綿（純綿織物　小幅）
織色木綿（純綿織物　小幅）
綿縮（純綿織物　小幅）
紋帳地（純綿織物　小幅）
其ノ他ノ純綿織物（小幅）
緞通（純綿織物）
タオル地（純綿織物）
タオル（純綿織物）
ガーゼ地（純綿織物）
敷布（純綿織物）
毛布（純綿織物　肩掛及膝掛ヲ含ム）
ベルト（純綿織物）

ホース(純綿織物)
帶子(純綿織物)
テープ(純綿織物)
其ノ他ノ特殊物(純綿織物)

混紡綿織物及交織綿織物製造業

細綾木綿(混紡及交織綿織物 廣幅)
綾木綿(混紡及交織綿織物 廣幅)
繻子(混紡及交織綿織物 廣幅)
金巾(混紡及交織綿織物 廣幅)
粗布(混紡及交織綿織物 廣幅)
天竺(混紡及交織綿織物 廣幅)
綿縮(混紡及交織綿織物 廣幅)
小倉(混紡及交織綿織物 廣幅)
綿ネル生地(混紡及交織綿織物 廣幅)
ポプリン(混紡及交織綿織物 廣幅)
帆布(混紡及交織綿織物 廣幅)
天鵞絨(混紡及交織綿織物 廣幅 コールテンヲ含ム)
紋帳地(混紡及交織綿織物 廣幅)
其ノ他ノ縞木綿及織色無地(混紡及交織綿織物 廣幅)

〔北海勞〕

純絹織物製造業

其ノ他ノ混紡及交織綿織物(廣幅)
白木綿(混紡及交織綿織物 小幅)
縞木綿(混紡及交織綿織物 小幅)
絣木綿(混紡及交織綿織物 小幅)
織色木綿(混紡及交織綿織物 小幅)
綿縮(混紡及交織綿織物 小幅)
紋帳地(混紡及交織綿織物 小幅)
其ノ他ノ混紡及交織綿織物(小幅)
緞通(混紡及交織綿織物)
タオル地(混紡及交織綿織物)
タオル(混紡及交織綿織物)
ガーゼ地(混紡及交織綿織物)
敷布(混紡及交織綿織物)
毛布(混紡及交織綿織物 肩掛及膝掛ヲ含ム)
ベルト(混紡及交織綿織物)
ホース(混紡及交織綿織物)
テープ(混紡及交織綿織物)
其ノ他ノ特殊物(混紡及交織綿織物)
縮緬(純絹織物 廣幅 壁ヲ含ム)

羽二重及生絹繻子(純絹織物 廣幅)
富士絹(純絹織物 廣幅)
絹紬(純絹織物 廣幅)
繻子(純絹織物 廣幅)
洋傘地(純絹織物 廣幅)
天鵞絨(純絹織物 廣幅)
其ノ他ノ生絹及白絹(純絹織物 廣幅)
其ノ他ノ純絹織物(廣幅)
御召(純絹織物 小幅 壁ヲ含ム)
縮緬(純絹織物 小幅 壁ヲ含ム)
羽二重(純絹織物 小幅)
生織絽及紗(純絹織物 小幅)
銘仙及節織(純絹織物 小幅)
絲織(純絹織物 小幅)
袴地(純絹織物 小幅)
平絹(純絹織物 小幅)
其ノ他ノ生絹及白絹(純絹織物 小幅)
其ノ他ノ純絹織物(小幅)
男物帶地(純絹織物)
女物帶地(純絹織物 廣幅)

〔北海勞〕

人造絹絲トノ交織絹織物製造業

女物帶地(純絹織物 片側)
リボン及テープ(純絹織物)
其ノ他ノ特殊物(純絹織物)
縮緬(人造絹絲トノ交織絹織物 廣幅 壁ヲ含ム)
羽二重(人造絹絲トノ交織絹織物 廣幅)
繻子(人造絹絲トノ交織絹織物 廣幅)
其ノ他ノ紋織物(人造絹絲トノ交織絹織物 廣幅)
天鵞絨(人造絹絲トノ交織絹織物 廣幅)
其ノ他ノ人造絹絲トノ交織絹織物(廣幅)
御召(人造絹絲トノ交織絹織物 小幅 壁ヲ含ム)
縮緬(人造絹絲トノ交織絹織物 小幅 壁ヲ含ム)
羽二重(人造絹絲トノ交織絹織物 小幅)

絹絲トノ交織絹織物製造業

- 座繰絹及紬（人造絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 銘仙及節織（人造絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 絲織（人造絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 待地（人造絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 平絹（人造絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 其ノ他ノ生絹及白絹（人造絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 其ノ他ノ人造絹絲トノ交織絹織物（小幅）
- 男物帶地（人造絹絲トノ交織絹織物）
- 女物帶地（人造絹絲トノ交織絹織物　廣幅）
- 女物帶地（人造絹絲トノ交織絹織物）
- 片側）
- リボン及テープ（人造絹絲トノ交織絹織物）
- 其ノ他ノ特殊物（人造絹絲トノ交織絹織物）

【北海道】

其ノ他ノ絹織物製造業

- 羽子（絹絲トノ交織絹織物　廣幅）天鵞絨（絹絲トノ交織絹織物）
- 其ノ他ノ絹絲トノ交織絹織物（廣幅）
- 御召及縮緬（絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 羽子（絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 其ノ他ノ著尺物（絹絲トノ交織絹織物　小幅）
- 其ノ他ノ絹絲トノ交織絹織物（小幅）
- 男物帶地（絹絲トノ交織絹織物）
- 女物帶地（絹絲トノ交織絹織物　廣幅）
- 女物帶地（絹絲トノ交織絹織物　片側）
- 其ノ他ノ特殊物（絹絲トノ交織絹織物）
- 其ノ他ノ絹織物
- 黃麻布（廣幅）
- 黃麻袋
- 亞麻布及苧麻布（廣幅）
- 黃麻製帆布
- 其ノ他ノ麻製帆布
- 敷物地（麻織物　廣幅）

【北海道】

純毛織物製造業

- 其ノ他ノ麻織物（廣幅）
- 座敷布及晒麻布（小幅）
- 綿及絆麻布（小幅）
- 敷物地（麻織物　小幅）
- 其ノ他ノ麻織物（小幅）
- 繩通（麻織物）
- ベルト（麻織物）
- ホース（麻織物）
- 其ノ他ノ特殊物（麻織物）
- モスリン（純毛織物）
- 著尺セル（純毛織物）
- 洋服用サージ（純毛織物）
- 羅紗（純毛織物）
- フランネル（純毛織物）
- 毛布（純毛織物　肩掛及膝掛ヲ含ム）
- 地羅（純毛織物）
- 繩通（純毛織物）
- プラッシュ及天鵞絨（純毛織物）
- 其ノ他ノ純毛織物
- 著尺セル（混紡及交織毛織物）

混紡毛織物及交織毛織物製造業

- 洋服用サージ（混紡及交織毛織物）
- 羅紗（混紡及交織毛織物）
- フランネル（混紡及交織毛織物）
- 其ノ他ノ婦人子供服地（混紡及交織毛織物）
- 毛布（混紡及交織毛織物　肩掛及膝掛ヲ含ム）
- 地羅（混紡及交織毛織物）
- 繩通（混紡及交織毛織物）
- プラッシュ及天鵞絨（混紡及交織毛織物）
- 其ノ他ノ混紡及交織毛織物

純人造絹織物製造業

- 綿編（純人造絹織物　廣幅　壁ヲ含ム）
- 羽二重（純人造絹織物　廣幅）
- 羽子（純人造絹織物　廣幅）
- 其ノ他ノ紋織物（純人造絹織物　廣幅）
- 天鵞絨（純人造絹織物　廣幅）
- 其ノ他ノ純人造絹織物（廣幅）
- 綿編（純人造絹織物　小幅　壁ヲ含ム）
- 著尺物（純人造絹織物　小幅　羽尺及

交織人造絹織物製造業

袴地ヲ含ム）
其ノ他ノ純人造絹織物（小幅）
男物帯地（純人造絹織物）
女物帯地（純人造絹織物　廣幅）
女物帯地（純人造絹織物　片側）
リボン及テープ（純人造絹織物）
其ノ他ノ特殊物（純人造絹織物）
緒締（交織人造絹織物　廣幅　壁ヲ含ム）
羽二重（交織人造絹織物　廣幅）
帽子（交織人造絹織物　廣幅）
其ノ他ノ紋織物（交織人造絹織物　廣幅）
天鵞絨（交織人造絹織物　廣幅）
其ノ他ノ交織人造絹織物（廣幅）
緒締（交織人造絹織物　小幅　壁ヲ含ム）
著尺物（交織人造絹織物　小幅　羽尺及袴地ヲ含ム）
其ノ他ノ交織人造絹織物（小幅）

〔北海勞〕

ステープルファイバー織物製造業

男物帯地（交織人造絹織物）
女物帯地（交織人造絹織物　廣幅）
女物帯地（交織人造絹織物　片側）
リボン及テープ（交織人造絹織物）
其ノ他ノ特殊物（交織人造絹織物）
モスリン（ステープルファイバー織物　廣幅）
著尺セル（ステープルファイバー織物　廣幅）
洋服用サージ（ステープルファイバー織物　廣幅）
羅紗（ステープルファイバー織物　廣幅）
其ノ他ノ婦人子供服地（ステープルファイバー織物　廣幅）
綿緯（ステープルファイバー織物　廣幅）
綿緯（ステープルファイバー織物　廣幅）
帽子（ステープルファイバー織物　廣

〔北海勞〕

幅）
金巾（ステープルファイバー織物　廣幅）
粗布（ステープルファイバー織物　廣幅）
天竺（ステープルファイバー織物　廣幅）
綿緒（ステープルファイバー織物　廣幅）
小倉（ステープルファイバー織物　廣幅）
綿ネル生地（ステープルファイバー織物　廣幅）
ポプリン（ステープルファイバー織物　廣幅）
天鵞絨（ステープルファイバー織物　廣幅　コールテンヲ含ム）
紋羽地（ステープルファイバー織物　廣幅）
其ノ他ノ綿木綿及織色綿地（ステープルファイバー織物　廣幅）
其ノ他ノステープルファイバー織物（小幅）
緞通（ステープルファイバー織物）
タオル地（ステープルファイバー織物）
タオル（ステープルファイバー織物）

敷布(ステープルファイバー織物)
毛布(ステープルフィイバー織物 肩掛及膝掛ヲ含ム)
テープ(ステープルファイバー織物)
其ノ他ノ特殊物(ステープルファイバー織物)

其ノ他ノ織物製造業
其ノ他ノ織物
メリヤス素地編立業
綿メリヤス素地
ステープルファイバーメリヤス素地
其ノ他ノメリヤス素地
メリヤス製品製造業
綿メリヤスシャツ及ヅボン下
毛メリヤスシャツ及ヅボン下
ステープルファイバーメリヤスシャツ及ヅボン下
其ノ他ノメリヤスシャツ及ヅボン下
綿メリヤス靴下
絹メリヤス靴下
毛メリヤス靴下
人造絹メリヤス靴下
ステープルファイバーメリヤス靴下

其ノ他ノメリヤス靴下
綿メリヤス手袋
絹メリヤス手袋
毛メリヤス手袋
ステープルファイバーメリヤス手袋
其ノ他ノメリヤス手袋
綿メリヤス猿股
毛メリヤス猿股
ステープルファイバーメリヤス猿股
其ノ他ノメリヤス猿股
其ノ他ノ綿メリヤス製品
其ノ他ノ毛メリヤス製品
其ノ他ノステープルファイバーメリヤス製品
其ノ他ノメリヤス製品
其ノ他ノ編物、ドロンウォーク、レース類製造業
絲組物製造業
絲組物
製綿業
打綿

眞綿製造業
眞綿
機械捺染業
機械捺染綿布
機械捺染人造絹布
機械捺染ステープルファイバー布
其ノ他ノ機械捺染布
其ノ他ノ捺染業
手捺染綿布
手捺染絹布
手捺染人造絹布
手捺染ステープルファイバー布
其ノ他ノ手捺染布
無地染及絞染
無地染及絞染綿布
無地染及絞染絹布
無地染及絞染人造絹布
無地染及絞染ステープルファイバー布
其ノ他ノ無地染及絞染布
絲染色、精練及漂白業
染色、精練及漂白綿絲
染色、精練及漂白絹絲
染色、精練及漂白人造絹絲
染色、精練及漂白ステープルファイバー絲

精練、漂白及整理業
其ノ他ノ染色、精練及漂白絲
精練及整理綿布
精練及整理絹布
精練及整理人造絹布
精練及整理ステープルファイバー布
其ノ他ノ精練及整理布
漂白綿布
漂白麻布
漂白人造絹布
其ノ他ノ漂白布
起毛業
起毛布
フェルト製造業
フェルト
裁縫業
和服
洋服及外套類
シャツ及股引
地下足袋
其ノ他ノ足袋
ハンカチーフ
其ノ他ノ裁縫品
刺繡業
刺繡製品

主要事業	生産品名
反毛業	反毛
其ノ他ノ紡織品製造加工業	再生絹糸
	其ノ他ノ紡織品
製材及木製品工業	
製材業	板類
	挽角類
	挽割類
	其ノ他ノ木材
防腐、耐火等ノ木材処理業	処理木材（防腐、耐火、乾燥其ノ他処理ヲ施シタル木材）
ベニア合板製造業	ベニア合板
木製建具及家具製造業	木製建具
	木製洋家具
	木製和家具
	唐木細工
包装用木箱、樽及桶製造業	包装用木箱（組立テザルモノヲ含ム）
	樽及桶（組立テザルモノヲ含ム）
木管製造業	紡績用木管
	其ノ他ノ木管

〔北海道〕

主要事業	生産品名
コルク製品製造業	コルク板
	コルク栓及輪
	其ノ他ノコルク製品
挽物、曲物類製造業	漆器標地
	其ノ他ノ木製挽物
	其ノ他ノ曲物
其ノ他ノ木製品製造業	桐下駄
	其ノ他ノ下駄
	算盤
	マッチ小箱（標地ヲ含ム）
	マッチ軸木
	木箸
	鉛筆木
	其ノ他ノ木製品
食料品工業	
主要事業	生産品名
精穀業	精米
	其ノ他ノ精穀
	精麦
製粉業	小麦粉
	其ノ他ノ穀粉
	澱粉
澱粉製造業	馬鈴薯澱粉
	甘藷澱粉
	其ノ他ノ澱粉
製糖業	粗糖
	精製糖
	糖蜜
和酒製造業	清酒
	味淋
	焼酎
	其ノ他ノ和酒
	酒粕
麦酒製造業	麦酒
其ノ他ノ酒精製造業	葡萄酒
	其ノ他ノ酒類
醤油、味噌及食酢製造業	醤油及溜
	味噌
	食酢
清涼飲料製造業	サイダー
	ラムネ
	シロップ類
	其ノ他ノ清涼飲料
菓子、パン、飴類製造業	菓子（菓子種ヲ含ム）
	パン（菓子パンヲ含ム）
	並飴（麦芽飴）
	晒飴（酸糖化飴）
	其ノ他ノ菓子、パン、飴類
罐詰製造業	牛肉罐詰
	其ノ他ノ鳥獣肉類罐詰
	鮭罐詰
	鱒罐詰
	イワシ大和煮罐詰
	トマトサーヂン罐詰
	其ノ他ノイワシ罐詰
	鯖罐詰
	鮑罐詰
	鮭罐詰
	蟹罐詰
	果実類罐詰

蔬菜類罐詰
其ノ他ノ罐詰
果實及蔬菜罐詰
其ノ他ノ罐詰
煉乳
粉乳
バター
其ノ他ノ乳製品
ハム及ベーコン
人造バター
其ノ他ノ肉製品
乾海苔
佃煮海苔
昆布及昆布製品
綱寒天
角寒天
鰹節
蒲鉾、ハンペン、竹輪類
其ノ他ノ水產食料品
玉露
煎茶
番茶
紅茶
其ノ他ノ茶
氷
冷凍食料品
麵類
ソース、ケチャップ類
其ノ他ノ食料品
印刷業及製本業
主要事業　生產品名
印刷業　印刷物
製本業　本
其ノ他ノ工業
主要事業　生產品名
紙製品製造業　紙箱
紙荷札
屏風
襖
扇子

製茶業
水產食料品製造業
畜產食料品製造業
罐詰製造業
製氷業
冷凍食料品製造業
製麵業
其ノ他ノ食料品製造業

團扇
提燈
手帳、雜記帳及帳簿
其ノ他ノ紙製品
竹製籠及笊
竹製行李、鞄及バスケット
釣竿
其ノ他ノ竹製品
杞柳製行李
杞柳製鞄
杞柳製籠及バスケット
其ノ他ノ杞柳製品
籐製卓子及椅子類
籐製バスケット
籐製ノ屋物表
其ノ他ノ籐製品
木通製品
齒朶製品
其ノ他ノ蔓及莖製品
疊
疊表
疊床
莫蓙、花莚及野草莚製造業　莫蓙
花莚
野草莚
藁製品及棕梠製品製造業　藁繩
藁莚
其ノ他ノ藁製品
棕梠製品
麻眞田製造業　麻眞田
麥稈及經木製品製造業　麥稈眞田
經木眞田
其ノ他ノ麥稈及經木製品
綿、麻、毛及絹製綱、繩及網製造業　麻製綱及繩
綿製綱及繩
毛及絹製綱及繩
魚網
其ノ他ノ網（金網ヲ除ク）
纖維板製造業　纖維板
革靴製造業　革製靴
其ノ他ノ蔓及莖製品製造業
疊製造業

	其ノ他ノ皮革製品製造業	革製鞄
		革製馬具
		革製ベルト
		帽子用裏革（模造革ヲ含ム）
		革製袋物
		其ノ他ノ皮革製品
	釦釦（金属製ノモノヲ除ク）製造業	貝殻製釦釦
		セルロイド製釦釦
		アイボリナット製釦釦
		骨製釦釦
		角及蹄製釦釦
		其ノ他ノ釦釦（金属製ノモノヲ除ク）
	刷毛及刷子製造業	歯磨用刷子
		化粧用刷子
		工業用刷子
		其ノ他ノ刷子
		糊附用刷毛
		其ノ他ノ刷毛
	漆器製造業	飲食用漆器
		家具及装飾用漆器

〔北海勢〕

		其ノ他ノ漆器
	フェルト製帽子製造業	ウール製帽子
		ファー製帽子
	其ノ他ノ帽子製造業	繊絖、サージ及其ノ他ノ布帛製帽子
		紙製模造パナマ帽子
		其ノ他ノ模造パナマ帽子
		麦稈製帽子
		麻製帽子（セロファン用ヒタルモノ）
		其ノ他ノ麻製帽子
		其ノ他ノ帽子
	玩具（金属製ノモノヲ除ク）製造業	ゴム製玩具
		セルロイド製玩具
		木製玩具
		陶磁器玩具
		紙製玩具
		其ノ他ノ玩具（金属製ノモノヲ除ク）
	塗装業	塗装品
	骨、角、蹄、甲、牙及貝類製品製造業	牙歯製品
		鼈甲製品
		其ノ他ノ骨、角、蹄、甲、牙及貝類製品
		貝枝人造真珠
	宝石類加工業	宝石類
	魔法縅製造業	魔法縅
	其ノ他ノ製造加工業	傘柄及傘手
		造花類
		其ノ他ノ製品

〔北海勢〕

●工業調査規則施行細則

昭和十五年一月二十六日
訓令第三號

総務部　支廳　市役所　町村役場

工業調査規則施行細則左ノ通定ム

工業調査規則施行細則

第一條　市町村長ハ工業調査員トシテ適當ナル者ヲ選定シ樣式第一號ノ任命者内申調書ニ依リ市長ニ在リテハ直接、町村長ニ在リテハ支廳長ヲ經由シ長官ニ之ヲ内申スベシ
支廳長前項ノ内申書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シ長官ニ之ヲ進達スベシ
市町村長及支廳長ハ調査員中缺職又ハ死亡シタル者アリタ

ルトキハ遅滞ナク前二項ノ手續ヲ爲スベシ

第二條　市町村長工業調査員中不適當ト認メラルル者又ハ病氣其ノ他ノ理由ニ因リ調査員ヲ辭セントスル者アリタルトキハ樣式第二號ノ解職者內申調書ニ依リ市長ニ在リテハ直接、市町村長ニ左リテハ支廳長ヲ經由シ長官ニ之ヲ內申スベシ

支廳長前項ノ內申書ヲ受理シタルトキハ意見ヲ具シ長官ニ之ヲ進達スベシ

第三條　市町村長ハ十一月三十日迄ニ準備調査ヲ施行シ樣式第三號ノ準備調査簿ヲ作成スベシ

前項ノ準備調査施行後ニ於テ其ノ記入事項ニ移動又ハ誤謬アリタル場合ハ其ノ都度之ヲ訂正スベシ

第四條　市町村長調査票及工場平面圖ヲ受理シタルトキハ之ヲ審査シ準備調査簿市長ハ一通町村長ハ二通ヲ添附シ市長ニ在リテハ直接長官ニ、町村長ニ左リテハ調査票（丙第四號乃至第七號ヲ除ク）ノ寫ヲ添ヘテ規則第四條ニ定ムル提出期日前十日迄ニ支廳長ニ之ヲ提出スベシ

第五條　支廳長前條ノ調査票竝ニ準備調査簿ヲ受理シタルトキハ之ヲ檢査シ準備調査簿及町村別工場數目錄（甲乙丙ノ別）各一通ヲ添附シ調査票甲二通ハ三月末日調査票乙二通及丙號ニ工場平面圖各三通ハ三月十日迄ニ長官ニ之ヲ提出スベシ

第六條　市町村長ハ每年一月一日ヨリ六月末日迄ノ間ニ管轄區域內ニ生ジタル工業調査規則（以下規則ト稱ス）第三條ニ揭グル工場ノ開業、休業及廢業ニ付樣式第四號ニ依リ市長ニ在リテハ七月十五日迄ニ直接長官ニ、町村長ニ在リテハ七月十日迄ニ支廳長ニ之ヲ報告スベシ

支廳長前項ノ報告ニ基キ管轄區域內ノ工場異動ヲ七月末日迄ニ長官ニ之ヲ報告スベシ

第七條　市町村長ハ前條ノ規定ニ拘ラズ管轄區域內ニ生ジタル規則第三條ニ揭グル工場ノ開業、休業及廢業ニ付市長ニ在リテハ直接長官ニ、町村長ニ在リテハ支廳長ニ之ヲ速報スベシ

支廳長前項ノ規定ニ依ル速報ヲ受理シタルトキハ長官ニ之ヲ速報スベシ

第八條　前條ノ規定ニ依ル速報ハ該當事實ナキトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

附　則

昭和四年北海道廳令第百三號工場調査規則施行細則及昭和十三年北海道廳訓令第三十九號商工省統計報告規則取扱手續ハ之ヲ廢止ス

【北海務】

樣式第一號

任命者內申調書

調査員ノ種類	住所	位勳爵	職業	氏名	生年月日	備考

樣式第二號

解職者內申調書

調査員ノ種類	解任事由	氏名	備考

樣式第三號

準備調査簿（規則第　條ノ工場）

市町村

工場名	工所在場地	工場主氏名又ハ名稱	事業始年月	開業月	主要生産品目	備考

備考

1. 工業調査規則第一條ノ工場、第二條ノ工場、第三條ノ工場各別ニ調査スヘシ

雛式第四號

工場異動調　自昭和　年一月一日
　　至昭和　年六月末日

異動ノ件	主要事業	工場名	工所在地	異動ノ時期	備考

何市何村
何支廳

●原動機取締規則

昭和二年十二月三十日
北海道廳令第百七十號

改正　昭和一〇年廳令第六九號

原動機取締規則左ノ通定ム

原動機取締規則

第一條　本則ニ於テ原動機ト稱スルハ蒸汽機關、蒸汽タービン、瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車及電動機ヲ謂フ

第二條　本則ハ工場法、船舶法、軌道法、其ノ他ノ法令ノ適用ヲ受ケサル原動機ニ適用ス但シ左ノ各號ニ該當スル原動機ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　電動機ニシテ馬力數五馬力未滿ノモノ

二　農業用小型原動機ニシテ馬力數五馬力未滿ノモノ

前項ニ該當スルモノト雖北海道廳長官ニ於テ其ノ心要ナシト認ムルトキハ本則ヲ適用セサルコトアルヘシ

第三條　原動機ヲ設置セムトスルモノハ據付前其ノ可否ニ係ルモノハ使用前北海道廳長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ原動機ニシテ馬力數ノ合計五馬力未滿ノ瓦斯機關、石油機關、タービン水車、ベルトン水車ハ所轄警察署長ニ

屆出ツヘシ

第四條　本則ニ依ル願屆ハ未成年者禁治產者ニ在リテハ法定代理人準禁治產者ニ在リテハ保佐人妻ニ在リテハ夫ノ承諾又ハ連署ヲ要ス但シ營業ニ關シ成年者又ハ獨立人ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者又ハ妻ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　第三條ノ規定ニ依ル願屆書ニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

一　申請者ノ住所、氏名、生年月日但シ法人ニ在リテハ其ノ名稱主タル事務所所在地代表者ノ氏名

二　原動機設置ノ場所又ハ使用區域及常置ノ場所

三　使用ノ目的及一日中ノ使用始終時刻

四　敷地內建物ノ配置圖（五馬力未滿ノモノヲ除ク）

五　原動機ノ周圍百米以內ノ見取圖（定著セサル原動機ヲ除ク）

六　原動機ノ種類、個數及馬力數

七　使用機械ノ種類、個數

八　原動機及使用機械ノ配置圖（五馬力未滿ノモノハ之ヲ省略スルコトヲ得）

九　原動機基礎工事ノ仕樣書及主要部ニ寸法ヲ記入シタル圖面

十　傳動裝置及危險豫防設備ノ構造竝概要

原動機ノ種類ニ依リ前項各號ノ外左ノ事項ヲ具備スヘシ但シ警察署長ニ屆出ツヘキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一　蒸汽機關又ハ蒸汽タービン

(イ)　汽筒ノ內徑（蒸汽タービンニ在リテハ其ノ徑及段數）

(ロ)　衝程ノ寸法

(ハ)　一分間ノ回轉數

(ニ)　速度調整機ノ種類

(ホ)　凝縮機ノ種類

(ヘ)　主要部ニ寸法ヲ記入シタル構造圖面

二　瓦斯機關又ハ石油機關

(イ)　汽筒ノ內徑

(ロ)　衝程ノ寸法

(ハ)　一分間ノ回轉數

(ニ)　速度調整機ノ種類

(ホ)　消音裝置ノ構造

(ヘ)　發生機、洗滌器、瓦斯溜及油槽ノ構造

三　(ト)　燃料ノ種類
　　(イ)　タービン水車又ハペルトン水車
　　(ロ)　一分間ノ回轉數
　　(ハ)　速度調整機ノ種類
　　(ニ)　有效落差及使用水量
四　(イ)　電動機
　　(ロ)　電壓
　　(ハ)　一分間ノ回轉數
　　(ニ)　電力ノ供給者

前各項ニ定ムルモノノ外必要ト認ムルトキハ他ノ書類又ハ圖面ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第六條　前條第一項第二號第三號第六號第九號及第十號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ長官ノ許可ヲ受クヘシ

前條第一項第一號、第三號、第七號及第二項第一號ノ(ニ)(ホ)第二號ノ(ニ)(ホ)(ヘ)第三號ノ(ロ)(ヘ)ノ事項ヲ變更シタルトキハ五日以內ニ長官ニ屆出ツヘシ

第三條第二項ノ規定ニ依リ屆出デタル事項ニ變更アリタルトキハ五日以內ニ所轄警察署長ニ屆出ツヘシ

〔北海勞〕

第七條　左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ事實發生ノ日ヨリ十日以內ニ第三條ノ區別ニ依ル當該官廳ニ屆出ツヘシ

一　原動機ヲ廢止シタルトキ

二　燒失損壞其ノ他使用ニ充ツルコト能ハスシテ廢止シタルトキ

三　常時使用スル原動機ニシテ一箇月以上使用ヲ休止セムトスルトキ

四　休止シタル原動機ノ使用ヲ開始シタルトキ

五　原動機ヲ繼承シタルトキ但シ讓渡ニ係ルモノハ連署ヲ要ス若連署シ能ハサルトキハ其ノ旨附記スヘシ

第八條　原動機ヲ設置又ハ變更セントスルトキハ火災及爆發ノ虞アル物ノ貯藏所又ハ取扱所ト相當ノ距離ヲ保有セシムヘシ但シ其ノ規模竝設備若ハ土地ノ狀況ニ依リ斟酌ヲ加フルコトアルヘシ

一　火災又ハ爆發ノ虞アル物ノ貯藏所若ハ取扱所トハ相當ノ距離ヲ保有スルコト

二　煙突ハ地上ヨリ高十八米(約六十尺)以上トス煉瓦又ハ石造ノ場合ハ住家ト煙突ノ底部外側トノ距離ハ高サノ三分ノ一以上ノ鐵板ノ場合ハ木材其ノ他燃質材料トハ三十糎(約一尺)以上ノ間隔ヲ有スルコト

三　高サ十五米(約五十尺)ヲ超過スル煙突ニハ適當ナル避雷設備ヲ爲スコト但シ十五米未滿ノモノト雖其ノ構造設備ニ依リ避雷針ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

四　多量ノ燃料ヲ使用スル汽罐及溫水罐ニ在リテハ適當ナル燃料貯藏所及灰捨場ヲ設置スルコト

第九條　原動機ノ据付又ハ變更ノ工事落成シタルトキハ遲滯ナク第三條ノ區別ニ依ル當該官廳ニ屆出テ檢查ヲ受クヘシ檢查ヲ受クルニ非サレハ使用スルコトヲ得ス第七條第三號ノ使用休止三年ヲ超ユルトキ亦同シ

第十條　削除

第十一條　削除

第十二條　原動機ノ取扱ハ左ノ各號ニ據ルヘシ

一　原動機室ニハ取扱者ノ外濫ニ出入セシメサルコト

二　削除

三　削除

第一章　工場

〔北海勞〕

四　原動機ハ一月ニ一回以上掃除スルコト

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ許可ノ效力ヲ失フ

一　許可ヲ受ケタル日ヨリ六箇月以內ニ故ナク工事ニ著手セサルトキ

二　原動機ノ設置者若ハ使用者ニシテ六箇月以上ニ亙リ所在不明トナリタルトキ

第十四條　原動機ヲ使用セムトスル者ハ其ノ取扱者ヲ定メ履歷書ヲ添ヘ長官ニ屆出ツヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ左ノ原動機ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　電動機

二　五馬力未滿ノ瓦斯機關、石油機關、ペルトン水車、タービン水車

屆出デタル取扱者ニ非サレハ原動機ノ取扱ヲ爲スコトヲ得ス

原動機取扱主任者不適當ト認ムルトキハ其ノ解職ヲ命スルコトアルヘシ

第十五條　削除

第十六條　削除

第十七條　原動機設置者若ハ使用者又ハ其ノ代理人並原動機取扱主任者ハ檢査ニ立會スヘシ

第十八條　削除

第十九條　左ノ場合ニハ除害、豫防ノ施設又ハ使用ノ制限若ハ停止ヲ命スルコトアルヘシ

一　原動機及附屬機械竝傳導裝置ノ構造設備、騷音、震動、煤煙等ノ爲メ危害ヲ生シ又ハ公益ヲ害シ若ハ其ノ虞アリト認ムルトキ

二　故ナク指定及臨時ノ檢査ニ應セス檢査ニ必要ナル準備若ハ立會ヲ爲サス又ハ檢査ニ關シ當該官吏ノ指示ニ從ハサルトキ

三　檢査ノ結果ニ依リ必要ト認メタルトキ

第二十條　削除

第二十一條　第三條、第六條、第七條、第九條、第十二條、第十四條第一項第二項及第十七條ノ規定ニ違反シ又ハ故ナク檢査ニ應セス若ハ第十四條第三項及第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十二條　原動機ノ使用者ハ其ノ代理人其ノ他ノ從業者ニシテ本則又ハ本則ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條　前二條ノ場合ニ於テ原動機ノ使用者カ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者又ハ法人ナルトキハ其ノ法定代理人又ハ代表者ニ倘則ヲ適用ス

第二十四條　本則ニ依リ北海道廳長官ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ昭和三年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本則施行ノ際既ニ設置シ若ハ使用中ノ原動機ハ本則第五條ノ事項ヲ具シ本則施行ノ日ヨリ四箇月以内ニ届出ツヘシ

前項ノ期間内ニ届出テタルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

從來ノ設備又ハ裝置ニシテ本則ノ規定ニ抵觸スルモノハ本則施行後一箇年以内ニ第八條ノ事項ヲ具備スヘシ

回数	検査年月日	試運転及運転	十	使用者氏名	検査員印	備考
回						
回						
回						
回						
回						
回						
回						
回						
回						

備考　一、用紙ノ大サハ日本標準規格A四ノ縦ニ依ル

二、（　）内ハ記入スヘカラス

●原動機取扱手續

昭和二年十二月三十日
訓第千二十號

警察部　警察課

改正　昭和一〇年訓令第五九號

原動機取締規則取扱手續左ノ通定ム

原動機取締規則取扱手續

第一條　警察署ニ於テ原動機取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第三條第一項竝第六條第一項ノ願書ヲ受理シタルトキハ左記各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ進達スヘシ

一　規則第五條各號ノ事項ヲ具備スル十否

二　設置ノ場所及四隣ノ關係竝規則第八條ニ準據シアル十否

三　設置ニ關シ故障ヲ唱フル者ノ有無若アラハ其ノ事由詳細

四　設置ノ場所他人ノ所有地ナルトキハ其ノ所有者ノ承諾ノ有無

五　前各號ノ外許否ノ參考トナルヘキ事項

第二條　警察署長ハ規則第三條第二項及第六條第三項ノ屆書ヲ受理シタルトキハ前條各號ニ準シ實地調査ノ上處理スヘシ

第三條　規則第六條第二項及第六條ノ屆書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ同條ノ區別ニ從ヒ速ニ進達スヘシ

第四條　規則第九條ノ屆出又ハ第十條ノ水壓檢査準備完了屆ヲ受理シタルトキハ特ニ長官ノ檢査ヲ要スヘキ旨ノ表示アルモノニ限リ檢査ニ支障ナキヲ確メタル上進達シ其ノ他ハ警察署ニ於テ檢査シ其ノ旨報告スヘシ

第五條　警察署長ハ規則第十四條第三項又ハ第十九條第一號ニ依リ處分ヲ要スト認ムルトキハ意見ヲ具シ即報スヘシ

第六條　警察署ハ隨時原動機設置又ハ使用ノ場所ヲ臨檢シ概ネ左記各號ノ事項ニ注意スヘシ

一　煙突ヨリ火粉ヲ飛散シ又ハ汽罐、煙道、瓦斯發生爐、排氣管等ニ可燃質特ヲ接觸セシメ火災ノ原因トナルヘキ虞ナキ十否

二　石油槽ヨリ引火スル虞ナリ十否

三　煙突又ハ避雷裝置ニ異狀ナキ十否

四　原動機ノ震音震動ヲ發シ公安ヲ害スル虞ナキ十否

五　規則第十二條各號ヲ遵守シアル十否

六　規則第十三條各號ノ事實ナキ十否

七　規則第七條ニ該當スヘキ事實アルニ拘ラス之カ屆出ヲ怠リ居ルモノナキ十否

【北海勞】

第七條　規則第十四條ノ屆出ヲ受理シタルトキハ左記各號ノ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スヘシ

一　取扱主任タルノ適否

二　履歷書記載ノ事項ニ相違ナキ十否

第八條　規則第七條第二號ノ規定ニ依ル屆出ヲ受理シタルトキハ其ノ狀況ヲ精査シ即報スヘシ

樣式第一號（用紙半紙半截）

原動機屆出月場（昭和　年　月分）

何警察署

種類（第一條原動機別）	設置使用者	作業場所	馬力又ハ常用汽壓	許可年月日	許可指令第　號	警保第　號	設置又ハ常置場所	設置許可　年　月　日

樣式第二號（用紙美濃厚紙）

原動機臺帳

檢査證第　號	許可指令第　號	警保第　號	設置又ハ常置場所	設置許可　年　月　日
名稱				

第　　號

用途	設置者使用者氏名	設置者使用者住所

管理人名	管理人住所	取扱主任

原動機種類	個數	馬力數	常用汽壓	電壓	回轉數	汽筒	衝程	製作所名	製作年月日	履歴

機械名稱	個數	用途	機械名稱	個數	用途	機械名稱	個數	用途

建物名稱	構造	棟數	坪數	建物名稱	構造	棟數	坪數

檢査回數	檢査年月日	使用有效期間	備考

〔北海勞〕

〔北海勞〕

第二章　工業勞働者

第二章　工業勞働者

●工業勞働者最低年齢法

大正十二年三月三十日
法律第三十四號

改正　昭和一六年二月法律第一二號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル工業勞働者最低年齢法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業勞働者最低年齢法

第一條　本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲クル事業ヲ謂フ

一　鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二　物品ノ製造　改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壞若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）

三　土本、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事

四　道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五　船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條　十四歲未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

但シ十二歲以上ノ者ニシテ命令ヲ以テ定ムル國民學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條　十六歲未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備付クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

第五條　工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セル未成年者若ハ禁治產者ナル場合ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條　使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條　本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條　本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム　（大正十五年六月勅令第百五十二號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行）

本法施行ノ際十二歲以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

●工業勞働者最低年齡法施行規則

大正十五年六月七日
內務省令第十四號

工業勞働者最低年齡法施行規則左ノ通定ム

工業勞働者最低年齡法施行規則

第一條　工業勞働者最低年齡法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條　工業勞働者最低年齡法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歷ニ付テハ尋常小學校ノ敎科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨記載スルコトヲ要ス

第三條　工業勞働者最低年齡法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ工業勞働者最低年齡法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正十

五年七月一日ヨリ施行）

工業勞働者最低年齡法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歲以上十四歲未滿ノ者ニシテ尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月內ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ怠リタル者又ハ其ノ屆書ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

（別記樣式）

第　號　大正　年　月　日交付

社會局、廳府縣又ハ鑛山監督局印

官職氏名

工業勞働者最低年齡法第四條　當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

工業勞働者最低年齡法第七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

●工業勞働者最低年齡法施行細則

大正十五年八月二十七日
北海道廳令第八十九號

工業勞働者最低年齡法施行細則左ノ通定ム

工業勞働者最低年齡法施行細則

第一條　本則ニ於テ法ト稱スルハ工業勞働者最低年齡法ヲ謂フ

第二條　十六歲未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ樣式第一號ニ依リ七日以內ニ屆出ツヘシ其ノ屆出ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

使用者ニ變更アリタルトキ又ハ法ノ適用ヲ受ケタル事業ニシテ之ヲ受ケサルニ至ルヘキ事由ヲ生シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ但シ使用者ノ變更ノ場合ニ在リテハ承繼者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第三條　法第二條第二項ノ規定ニ依リ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ付認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ

一　學年
二　作業ノ種類
三　每週ノ作業時間數

第四條　法第三條ノ規定ニ依ル名簿ハ工場法施行規則樣式第二號ニ準シ作成スヘシ

第五條　前條名簿ノ用紙ハ勞働者死亡シ若ハ十六歲ヲ超エ又ハ之ヲ解雇シタル後五年間之ヲ保存スヘシ

第六條　本則第二條第四條及第五條ノ規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル使用者ニハ之ヲ適用セス

第七條　本則第二條乃至第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第八條　本則ノ規定ニ依リ提出スル書類ハ總テ所轄警察署ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（樣式第一號）

年　月　日

北海道廳長官宛

使用者　氏　名印

工業勞働者最低年齡屆

事業所所在地	
事業ノ種類	
使用者 住所	
使用者 氏名	
使用者 生年月日	
使用スル勞働者數	
事業場名	
事業開始年月	

〔北海勞〕

	男	女	計
十二歲以上十四歲未滿			
十四歲以上十六歲未滿			
十六歲以上			
始業時及終業時			
休憩時間及配置			
休日			
業務			

記載心得

一、使用者法人ナルトキハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者氏名ヲ記載スヘシ

一、業務欄ニハ十六歲未滿ノ者ノ擔當セル業務ヲ記載スヘシ

〔北海勞〕

●工業勞働者最低年齡法施行細則取扱手續

大正十五年九月二十四日
北海道廳訓令第七十一號

改正　昭和四年一〇月訓令第三七號

工業勞働者最低年齡法施行細則取扱手續左ノ通定ム

工業勞働者最低年齡法施行細則取扱手續

第一條　工業勞働者最低年齡法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）ニ依ル申請書又ハ屆書ヲ受理シタルトキハ所定ノ記載事項ヲ具備シ事實相違ナキヤ否ヤヲ調査シ遲滯スヘシ

第二條　細則第三條ノ規定ニ依ル申請書ニハ意見ヲ附シ遲滯

スヘシ

第三條　細則第三條ノ規定ニ依ル認可ニシテ取消ヲ要スト認ムルトキハ狀ヲ具シ遲滯ナク報告スヘシ

第四條　工業勞働者最低年齡法第一條各號ノ事業場（鑛業、砂鑛業ヲ除ク）ニ對シテハ毎年二回以上臨檢シ同法第二條及第三條ノ事項ヲ調査スヘシ

第五條　前條ノ事業場ハ樣式第一號ニ依リ其ノ違反件數ハ樣式第二號ニ依リ毎年一月二十日迄ニ前年分ヲ報告スヘシ

別表

（樣式第一號）

工業勞働者最低年齡法事業場調

業務別	事業場數	臨檢回數	勞働者數 十二歲以上十四歲未滿 男	勞働者數 十二歲以上十四歲未滿 女	勞働者數 十四歲以上十六歲未滿 男	勞働者數 十四歲以上十六歲未滿 女	勞働者數 十六歲以上 男	勞働者數 十六歲以上 女
第一條第一號ノ事業（鑛業、砂鑛業ヲ除ク）								
第一條第二號ノ事業（工場法適用工場ヲ除ク）								
第一條第三號ノ事業								
第一條第四號ノ事業								
第一條第五號ノ事業								
計								
備考								

警察署名

〔北海勞〕

（樣式第二號）

工業勞働者最低年齡法違反件數調

事業別	第二條違反 戒告	第二條違反 告發	第二條違反 處罰	第三條違反 戒告	第三條違反 告發	第三條違反 處罰	備考
第一條第一號ノ事業（鑛業、砂鑛業ヲ除ク）							
第一條第二號ノ事業（工場法適用工場ヲ除ク）							
第一條第三號ノ事業							
第一條第四號ノ事業							
第一條第五號ノ事業							
計							
法施行狀況ニ關スル監督ノ方針							
法施行狀況ニ關スル成績							
特ニ調査シタル事項							
其ノ他參考事項							

警察署名

〔北海勞〕

●工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡ヲ定ムル條約

大正十五年八月十九日
條約第一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正八年華盛頓ニ於テ開催ノ第一回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡

第二章　工業勞働者

ヲ定ムル條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢ヲ定ムル條約

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

亞米利加合衆國政府ニ依リ千九百十九年十月二十九日華盛頓ニ招集セラレ

右華盛頓總會ノ會議事項ノ第四項目ノ一部タル「兒童使用ノ件、使用ノ最低年齢」ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヘキモノナルコトヲ決定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルルカ爲千九百十九年六月二十八日ノ「ヴエルサイユ」條約及千九百十九年九月十日ノ「サン、ジエルマン」條約ノ勞働編ノ規定ニ從ヒ左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

本條約ニ於テ「工業的企業」ト稱スルハ左ニ揭クルモノヲ特ニ包含ス

(イ) 鑛山業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

(ロ) 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壞若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス工業（造船竝電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ含ム）

(ハ) 建物、鐵道、軌道、港、船渠、棧橋、運河、內地水路、道路、隧道、橋梁、堤橋、下水道、排水道、井、電信電話裝置、電氣工作物、瓦斯工作物、水道其ノ他ノ工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更又ハ解體及上記ノ工作物又ハ建設物ノ準備又ハ基礎工事

(ニ) 道路、鐵軌道又ハ內地水路ニ依ル旅客又ハ貨物ノ運送（船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱ヲ含ムモ人力ニ依ル運送ヲ含マス）

工業ト商業及農業トノ分界ハ各國ニ於ケル權限アル機關之ヲ定ムヘシ

第二條

十四歲未滿ノ兒童ハ同一ノ家ニ屬スル者ノミヲ使用スル企業ヲ除クノ外一切ノ公私ノ工業的企業又ハ其ノ各分科ニ於テ使用セラレ又ハ勞働スルコトヲ得ス

第三條

第二條ノ規定ハ工業學校ニ於ケル兒童ノ爲ス勞働ニ之ヲ適用セス但シ此ノ種ノ勞働ハ公ノ機關ノ承認ヲ得且其ノ監督ヲ受クヘキモノトス

第四條

本條約ノ規定ノ實行ヲ容易ナラシムル爲工業的企業ニ於ケル

〔北海勞〕

各使用者ハ其ノ使用スル十六歲未滿ノ一切ノ者及其ノ出生ノ日ヲ記載シタル帳簿ヲ備付クルコトヲ要ス

第五條

本條約ノ日本國ニ對スル適用ニ關シテハ第二條ニ左ノ變更ヲ加フルコトヲ得

(イ) 十二歲以上ノ兒童ニシテ等常小學校ノ敎科ヲ修了シタルモノハ之ヲ使用スルコトヲ得

(ロ) 現ニ使用中ノ十二歲以上十四歲未滿ノ兒童ニ關シテハ經過規定ヲ設クルコトヲ得

十二歲未滿ノ兒童ヲ或種ノ輕易ナル業務ニ使用スルコトヲ認ムル日本現行法ノ規定ハ之ヲ廢止スヘキモノトス

第六條

第二條ノ規定ハ印度ニ之ヲ適用セス但シ十二歲未滿ノ兒童ハ左ニ使用セラルルコトヲ得

(イ) 動力ヲ用ヒ且十人ヨリ多クノ者ヲ使用スル製造工場

(ロ) 鑛山業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

(ハ) 鐵軌道ニ依ル旅客、貨物若ハ郵便物ノ運送又ハ船渠、岸壁若ハ波止場ニ於ケル貨物ノ取扱（人力ニ依ル運送ヲ含マス）

第七條

第三章　工業勞働者

千九百十九年六月二十八日ノ「ヴエルサイユ」條約及千九百十九年九月十日ノ「サン、ジエルマン」條約ノ第十三編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スヘシ

第八條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ左ノ條件ノ下ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

(イ) 其ノ規定カ土地ノ狀況ニ照シ適用不可能ニ非サルコト

(ロ) 其ノ規定ヲ土地ノ狀況ニ適應セシムル爲必要ナル變更ヲ加フルコト

各締盟國ハ其ノ殖民地、保護國及屬地ニシテ完全ナル自治ヲ有セサルモノニ付其ノ執リタル措置ヲ國際勞働事務局ニ通告スヘシ

第九條

國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國カ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スヘシ

第十條

本條約ハ國際聯盟事務總長カ前條ノ通告ヲ發シタル日ヨリ效

力ヲ發生スヘク且該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル締盟國ノミヲ拘束スヘシ爾來本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第十一條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十二年七月一日迄ニ其ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルヘキ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第十二條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登錄ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生セス

第十三條

國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スヘク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ揭クヘキヤ否ヤヲ審議スヘシ

第十四條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス

（右條約英佛文略ス）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕大正八年華盛頓ニ於テ開催ノ第一回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡ヲ定ムル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十六年大正十五年七月三日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

攝政名

外務大臣　男爵　幣原喜重郎

〔北樺勞七〕

第三章　勞務者募集其他

第三章　勞務者募集其他

●職業紹介法（抄）

昭和十三年三月三十一日
法律第六十一號

第一條　政府ハ勞務ノ適正ナル配置ヲ圖ル爲本法ニ依リ職業紹介事業ヲ管掌ス

第二條　何人ト雖モ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得ス

第八條　勞務供給事業ヲ行ハントスル者又ハ勞務者ヲ雇傭スル爲勞務者ノ募集ヲ行ハントスル者ニシテ命令ノ定ムルモノハ地方長官（東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス）ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ勞務供給事業及勞務者ノ募集ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則

第二十條　本法施行ノ際現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケ職業紹介所ヲ設置スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當分ノ內無料ノ職業紹介事業ヲ行フコトヲ得

第二十一條　本法施行ノ際現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケ有料又ハ營利ヲ目的トスル職業紹介事業ヲ行フ者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

前項ノ職業紹介事業ノ施設ヲ相續ニ因リ承繼シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官（東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス）ノ許可ヲ受ケ其ノ事業ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相續開始ノ日ヨリ一月以內ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ者ハ前項ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄其ノ事業ヲ行フコトヲ得

●職業紹介法施行規則

昭和十三年六月二十九日
厚生省令第十五號

改正　昭和一六年二月厚生省令第二號

第一條　職業紹介法第五條ノ規定ニ依リ市區町村長ノ行フ國民職業指導所ノ業務左ノ如シ

一　勞務ノ需給ニ關スル査察ヲ行ヒ之ヲ所轄職業紹介所ニ通報スルコト

二　國民職業指導所ニ直接申込ムコトノ困難ナリト認ムル求職ノ申込ニ付之ヲ所轄國民職業指導所ニ取次グコト

三　求人者又ハ求職者ノ身元調査其ノ他ニ關シ國民職業指

導所ヨリ照會アリタル場合之ヲ調査シ回答スルコト

四　國民職業指導所ノ通報スル求人ニ付之ヲ一般ニ周知セシムルコト

五　前號ノ場合其ノ他必要アル場合市區町村民ニ對シ就職ノ指導保護ヲ爲スコト

市區町村長前項ノ業務ヲ行フ場合ニ於テハ所轄國民職業指導所長ノ指示スル所ニ依ルヘシ

第二條　聯絡委員ハ市區町村長ノ行フヘキ國民職業指導所ノ業務ニ付市區町村長ヲ補助スルノ外國民職業指導所ヨリ特ニ補助スヘキコトヲ求メラレタル事項ニ付國民職業指導所ヲ補助スヘシ

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●勞務者募集規則

昭和十五年十一月十五日
厚生省令第五十號

改正　昭和一六年厚生省令第二號

勞務者募集規則左ノ通定ム

〔北海勞〕

第一條　本令ハ職業紹介法（以下法ト稱ス）第八條ノ規定ニ依ル勞務者ノ募集ニ之ヲ適用ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル勞務者ノ募集ハ法第八條第一項ノ許可ヲ受クヘキモノトス但シ當該募集ニ依リ雇入レタル勞務者ヲ使用スヘキ場所（地方長官ノ指定スル地域内ニ在ルモノヲ除ク）ニ掲出スル文書ニ依ル募集（地方長官ノ指定スル事業ニ使用スル爲行フモノヲ除ク）ハ此ノ限ニ在ラズ

一　常時十人以上ノ勞務者ヲ使用スル工場、事業場、事務所、店舗其ノ他ノ場所ニ於テ使用スル爲行フ勞務者ノ募集

二　常時十人未滿ノ勞務者ヲ使用スル工場、事業場、事務所、店舗其ノ他ノ場所ニ於テ使用スル爲行フ勞務者ノ募集ニシテ當該募集ニ依ル雇入ニ依リ其ノ場所ニ於テ常時使用スル勞務者ノ員數ガ十人以上トナルヘキモノ

勞務供給事業ニ關スル前項ノ適用ニ付テハ所屬勞務者トスルコトヲ以テ使用スルモノト看做ス

第三條　本令ニ於テ募集主トハ勞務者ヲ雇傭スル爲勞務者ノ募集ヲ行フ者ヲ謂ヒ募集從事者トハ募集主ノ委託ヲ受ケ又

ハ自ラ雇傭センガ爲勞務者又ハ勞務者タルヘキ者ニ對シ應募ヲ勸誘シ又ハ應募者ヲ其ノ就業場以外ノ場所ニ於テ鉄衛シ若ハ引率旅行スル者ヲ謂ヒ募集地トハ募集ニ關スル文書ヲ頒布若ハ掲出シ又ハ募集從事者ガ應募ノ勸誘若ハ應募者ノ鉄衛ヲ爲ス地ヲ謂フ

第四條　勞務者ノ募集ノ許可ハ募集地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ但シ新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ掲載スル廣告ノミニ依ル募集ニ付テハ之ヲ掲載スル出版物ノ發行地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第五條　勞務者ノ募集ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ樣式第一號ニ依リ申請スベシ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場及應募者ノ就業スベキ事業ニ關スル事項

三　募集人員、募集期間及募集區域ニ關スル事項

四　募集方法ニ關スル事項

五　其ノ他募集ニ關スル事項

勞務者ノ募集ノ許可ヲ受ケタル者前項第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項第一號ノ事項、變更セントスル事項及變更ヲ必要トスル事由ヲ具シ許可ヲ受クベシ

前二項ノ申請ハ之ニ其ノ副本（募集地（前條但書ノ募集ナル場合ハ出版物ノ發行地）ガ應募者ノ就業場所在地ト同一道府縣ニ在ル場合ハ一通、其ノ他ノ場合ハ二通）ヲ添附シ應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ヲ經由スベシ

第六條　二以上ノ道府縣ノ區域ニ跨リ勞務者ノ募集ヲ行ハントスル者ハ樣式第二號ニ依ル勞務者募集計畫書ヲ應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スベシ但シ第四條但書ノ募集ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ勞務者募集計畫書ハ之ニ其ノ副本二通ヲ添附シ勞務者募集許可申請書ト共ニ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ヲ經由スベシ

第七條　募集主ハ勞務者ノ募集ニ關シ掲出又ハ頒布スル文書ニ付應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ檢閲ヲ受クベシ但シ新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ掲載スル廣告ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

國民職業指導所長支障ナシト認ムルトキハ募集主ノ請求ニ依リ前項ノ文書ニ檢印ヲ爲スベシ

第八條　募集主勞務者ノ募集ニ關シ文書ヲ掲出又ハ頒布セン

〔北海勞〕

第三章　勞務者募集其他

トスルトキハ募集從事者ヲシテ掲出又ハ頒布セシムル場合ヲ除クノ外其ノ文書ヲ添附シ様式第三號ニ依リ募集地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ但シ新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ廣告ヲ掲載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ届出ニ添附スベキ文書ハ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ檢印ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第九條　地方長官必要アリト認ムルトキハ募集主ニ對シ地域ヲ指定シテ勞務者ノ募集ニ關スル文書ノ掲出又ハ頒布ヲ制限スルコトヲ得

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ募集主ハ其ノ掲出シタル勞務者ノ募集ニ關スル文書ヲ撤去スベシ

一　掲出シタル文書ニ記載シタル事項ニ變更アリタルトキ

二　募集ヲ終了シタルトキ

三　募集期間滿了シタルトキ

四　募集ヲ認メタルトキ

五　募集ノ許可ヲ取消サレタルトキ

六　事業ヲ廢止シタルトキ

第十一條　募集主募集從事者タルコトヲ委託シタルトキハ様式第四號ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル勞務者募集從事者委託書ヲ其ノ者ニ交付スベシ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場ニ關スル事項

三　募集從事者ニ關スル事項

四　募集期間及雇入ニ關スル事項

五　賃金ニ關スル事項

六　宿舍、食事ノ費用、往復ノ旅費等ノ負擔ニ關スル事項

七　制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

八　履行期間及解雇ニ關スル事項

九　負傷、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於ケル扶助ニ關スル事項

第十三條　募集從事者勞務者ノ募集ニ著手セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ様式第五號ニ依リ谷募集地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ但シ他ノ募集從事者ノ勸誘シ

タル應募者ノ引率旅行ノミヲ爲ス募集從事者ハ此ノ限ニ在ラズ

一　募集主ニ關スル事項

二　應募者ノ就業場及應募者ノ就業スベキ事業ニ關スル事項

三　募集從事者ニ關スル事項

四　募集從事中ノ居所及事務所ニ關スル事項

五　當該國民職業指導所管內ニ於ケル募集從事期間及募集人員

六　應募者ノ集合ニ關スル事項

七　其ノ他募集ニ關スル事項

前項ノ届出ニハ勞務者ノ募集ニ關シ掲出又ハ頒布スベキ文書各二通（一通ハ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ノ檢印ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス）及勞務者募集從事者委託書ヲ添附スベシ

第一項ノ規定ニ依リ届出ヅタル事項ニ變更アリタルトキハ三日以內ニ第一項ノ届出ヲ爲シタル國民職業指導所長ニ其ノ旨届出ヅベシ

第十四條　國民職業指導所長前條ノ届出アリタル場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ様式第六號ニ依ル勞務者募集從事證ヲ交付スベシ

第三章　勞務者募集其他

勞務者募集從事證ヲ滅失、紛失又ハ毀損シタルトキハ募集從事者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

勞務者募集從事證ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ募集從事者ハ遲滯ナク其ノ書換ヲ申請スベシ

前二項ノ申請ハ勞務者募集從事委託書ヲ添附シ様式第七號ニ依リ之ヲ爲スベシ

第十五條　募集從事者應募者ヲ引率シテ旅行セントスルトキハ勞務者募集從事委託書ヲ添附シ様式第八號ニ依リ出發地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

國民職業指導所長前項ノ届出アリタル場合ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ様式第九號ニ依ル應募者引率旅行證ヲ交付スベシ

第十六條　募集從事者ハ勞務者ノ募集ニ從事中ハ勞務者募集從事委託書及勞務者募集從事證又ハ應募者引率旅行證ヲ携帶スベシ

募集從事者ハ應募者若ハ應募セントスル者又ハ之ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ其ノ勞務者募集從事委託書及勞務者募集從事證又ハ應募者引率旅行證ヲ提示スベシ

第十七條　募集從事者ハ應募セントスル者ニ對シ第十二條ノ就業案內ヲ交付シ其ノ主旨ヲ顯示スベシ

第十八條　募集從事者ハ勞務者ノ募集ニ從事中樣式第十號ニ依ル應募者名簿ヲ携帶シ又ハ第十三條ノ規定ニ依リ届出デタル居所若ハ事務所ニ備付クベシ他ノ募集從事者ノ勸誘シタル應募者ノ銓衡又ハ引率旅行ノミヲ爲ス募集從事者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條　募集從事者ハ自己ノ勸誘シタル應募者ヲ他ノ募集從事者ガ銓衡シ又ハ引率旅行スルトキハ其ノ銓衡又ハ引率セラルル應募者ニ付應募者名簿ノ寫ヲ作成シ其ノ銓衡又ハ引率旅行ヲ爲ス募集從事者ニ交付スベシ

募集從事者他ノ募集從事者ノ勸誘シタル應募者ヲ銓衡シ又ハ引率旅行スルトキハ前項ノ應募者名簿ノ寫ヲ携帶スベシ

第二十條　募集從事者ハ毎月ノ勞務者ノ募集ノ狀況ヲ翌月五日迄ニ樣式第十一號ニ依リ募集地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ但シ他ノ募集從事者ノ勸誘シタル應募者ノ銓衡又ハ引率旅行ノミヲ爲ス募集從事者ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　募集從事者各國民職業指導所管内ニ於ケル勞務者ノ募集ヲ終了シタルトキハ募集終了ノ日ヨリ五日以内ニ勞務者募集從事證ヲ添附シ樣式第十二號ニ依リ當該國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

第二十二條　募集從事者ハ未成年者、禁治産者、準禁治産者又ハ妻ニ付テハ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾アルニ非ザレバ之ヲ募集スルコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ依リ承諾ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條　募集從事者ハ左ニ掲グル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　勞務者募集從事委託書、勞務者募集從事證又ハ應募者引率旅行證ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコト

二　募集ニ關シ事實ヲ隱蔽シ、誇大虚僞ノ言辭ヲ弄シ其ノ他不正ノ手段ヲ用フルコト

三　第十三條ノ届出ニ添附シタル文書ニ非ザル文書ヲ掲出又ハ頒布スルコト

四　應募ヲ强要スルコト

五　應募ヲ他人ニ委託スルコト

六　應募者ヲ勞務者募集從事證記載ノ募集主以外ノ者ニ周旋スルコト

七　金品ヲ給與シ又ハ貸付ケテ應募ヲ勸誘スルコト

八　被傭中ノ者ニ對シ應募ヲ勸誘スルコト

九　應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ヨリ手數料、報酬等何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト

十　勞務者募集從事委託書記載ノ報償ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ募集ニ關シ募集主ヨリ金錢其ノ他ノ財物ヲ受クルコト

十一　應募者若ハ應募セントスル者又ハ之ヲ保護スル者ニ對シ其ノ財物ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル財物ノ返還ヲ故ナク拒ムコト

十二　應募者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ゲ其ノ他應募者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

十三　當該官吏又ハ應募者ヲ保護スル者ニ對シ應募者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ僞ルコト

十四　應募者又ハ應募セントスル者ニ對シ風俗ヲ紊ル虞アル行爲ヲ爲スコト

十五　應募者又ハ應募セントスル者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

十六　募集ニ關シ知得シタル人ノ祕密ヲ漏洩スルコト

第二十四條　國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ募集從事者ニ對シ地域又ハ期間ヲ指定シテ勞務者ノ募集ニ從事スルコトヲ制限スルコトヲ得

國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ募集從事者ニ對シ其ノ指定スル者ノ募集ヲ制限スルコトヲ得

第二十五條　當該官吏ハ募集從事者ニ對シ勞務者募集從事委託書、勞務者募集從事證、應募者引率旅行證、應募者名簿其ノ他募集ニ關スル書類、帳簿ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條　國民職業指導所長ハ募集從事者勞務者ノ募集ニ關シ違法又ハ不當ナル行爲ヲ爲シ又ハ爲スノ虞アリト認ムルトキハ勞務者ノ募集ニ從事スルコトヲ禁止スルコトヲ得

第二十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ募集從事者ハ遲滯ナク勞務者募集從事證ヲ返納スベシ

一　募集主募集從事者ノ委託ヲ解キタルトキ

二　募集主應募者ヲシテ就業セシムベキ事業ヲ廢止シタルトキ

三　募集主募集ノ許可ヲ取消サレタルトキ

四　募集從事者募集從事者タルコトヲ罷メタルトキ

五　募集從事者募集從事者ニ從事スルコトヲ禁止セラレタルトキ

六　募集從事者募集從事者ニ從事スルコトヲ罷メタルトキ

第二十八條　應募者引率旅行證ノ交付ヲ受ケタル募集從事者應募者ノ引率旅行ヲ爲サザルニ至リタルトキハ遲滯ナク應募者引率旅行證ヲ返納スベシ

國民職業指導所長必要アリト認ムルトキハ募集從事者應募者ノ引率旅行證ノ交付ヲ受ケタル募集從事者應募者ノ引

準旅行ヲ終了シタルトキハ遅滞ナク應募者引率旅行證ヲ就業場所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ提出スベシ

第二十九條　募集従事者死亡シタルトキハ戸籍法第百十七條ノ屆出義務者ハ遅滞ナク労務者募集従事證又ハ應募者引率旅行證ヲ返納スベシ

第三十條　募集主ハ労務者募集従事委託書ニ記載シタルモノノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ労務者ノ募集ニ關シ募集従事者ニ對シ金錢其ノ他ノ財物ヲ給與スルコトヲ得ズ

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ應募者又ハ應募者ヲ保護スル者ノ請求アリタルトキハ應募者就業場ニ到着前ニ於テハ募集従事者、到着後ニ於テハ募集主ハ應募者ノ歸鄉ノ爲必要ナル措置ヲ爲スベシ

一　就業案内ニ記載シタル事項ガ事實ト相違シタルトキ

二　募集主、募集従事者又ハ就業場ノ監督者應募者ヲ虐待シ又ハ凌辱シタルトキ

三　考試、身體檢査其ノ他募集主ノ都合ニ依リ應募者ヲ採用セザルトキ

四　其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ歸鄉ヲ必要トスルニ至リタルトキ

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ募集主ハ五日以内ニ其ノ旨第四條ノ地方長官ニ屆出ヅベシ

一　第五條第一項第一號ノ事項ニ變更アリタルトキ

二　應募者ノ就業場ノ名稱ニ變更アリタルトキ

三　應募者ヲシテ就業セシムベキ事業ヲ廢止シタルトキ

四　募集ヲ關メタルトキ

五　募集従事者ノ委託ヲ解キタルトキ

第三十三條　募集主ハ毎月五日迄ニ前月ノ募集狀況ヲ樣式第十三號ニ依リ應募者ノ就業場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ屆出ヅベシ

第三十四條　第五條第三項ノ規定ハ前二條ノ規定ニ依ル屆出ニ之ヲ準用ス

第三十五條　當該官吏ハ募集主又ハ應募者ノ就業場ノ管理者ニ對シ募集ニ關スル書類、帳簿ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第三十六條　地方長官ハ募集ヲ不適當ト認ムルトキハ其ノ募集ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第五條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル募集方法ニ依ラズシテ労務者ノ募集ヲ爲シ又ハ労務者ノ募集ニ従事シタル者

二　第五條第二項、第七條第一項、第八條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十四條第三項、第十五條第一項、第十六條乃至第二十三條、第二十七條乃至第三十三條ノ規定ニ違反シタル者

三　應募者名簿ノ記載ヲ怠リ又ハ之ニ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者

四　第九條、第二十四條乃至第二十六條又ハ第三十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五　労務者募集従事證又ハ應募者引率旅行證ノ交付ヲ受ケズシテ募集ニ従事シタル者

六　募集従事者ヨリ委託ヲ受ケテ應募者ヲ誘導シタル者

第三十八條　法人又ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第三十九條　本令ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ其ノ事業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三章　労務者募集其他

第四十條　本令中地方長官トアルハ第二條、第六條第一項、第九條及第三十三條ヲ除クノ外東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス

第四十一條　本令ハ移民保護法ニ依ル募集及船員法ノ船員ノ募集ニハ之ヲ適用セズ

附　則

本令ハ昭和十五年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十三年六月厚生省令第十九號労務者募集規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行前法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル労務者ノ募集ニ關スル本令ノ適用ハ左ノ各號ニ依ル

一　當該労務者ノ募集ノ許可ノ申請書ニ添附シタル募集ニ關シ配布スベキ文書ニ付テハ第七條及第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

二　従前ノ規定ニ依リ募集従事者証ノ交付ヲ受ケタル募集従事者ニ付テハ第十一條及第十四條第一項ノ規定ハ之ヲ適用セズ此ノ場合ニ於テハ當該募集従事者證ヲ以テ労務者募集従事委託書及労務者募集従事證ト看做ス

樣式第一號

（甲）

〔北海勞〕

勞務者募集許可申請書

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地	
	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名	
就業場	所在地	
	名稱	
	應募者ヲ就業セシムベキ事業	
募集人員	職種別	計
	男	人　人　人　人　人
	女	人　人　人　人　人
募集期間		自　年　月　日 至　年　月　日 日間
募集區域		

〔北海勞〕

募集ノ方法	募集從事者	募集區域別
		募集從事者數
		募集區域別
		募集從事者數
		募集區域別
		募集從事者數
		募集區域別
		募集從事者數
		募集區域別
		募集從事者數
	募集用文書	種類
		大サ
		揭出又ハ頒布ノ方法
募集ヲ必要トスル理由		

右勞務者募集致度此段及許可申請候也

年　月　日

住所又ハ主タル事務所所在地

氏名又ハ名稱及代表者ノ氏名

申請人　　　　　　　　印

府縣知事（警視總監）　殿

（乙）

勞務者募集許可申請書

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地									
	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名									
就業場	所在地									
	名稱									
	應募者ヲシテ就業セシムベキ事業									
募集人員	職種別									
	男	人	人	人	人	人	人	人	人	計
	女	人	人	人	人	人	人	人	人	
募集ス可キ廣告ヲ出スル新聞紙	名稱									
	發行所ノ名稱及所在地									

〔北海勞〕

廣告ヲ出サントスル新聞紙	掲載ノ日
	自　年　月　日　至　年　月　日ニ於テ　回
廣告ノ內容	
廣告ノ大サ	
募集ヲ必要トスル理由	

右勞務者募集致度此段及許可申請候也

年　月　日

府縣知事（警視總監）　殿

住所又ハ主タル事務所所在地

申請人　氏名又ハ名稱及代表者ノ氏名　㊞

〔北海勞〕

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列4番(257mm×364mm)トスルコト

二、新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ掲載スル廣告ニ依ル勞務者ノ募集ニ付テハ(甲)樣式ニ依ルコト

三、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

四、募集從事者ヲ使用セザル勞務者ノ募集ニ付テハ(甲)樣式中ノ「募集從事者」ノ欄ヲ設ケザルモノヲ用フルコト

五、募集區域ハ原則トシテ國民職業指導所管轄區域ニ依ルコト國民職業指導所管轄區域内ノ一部ノ市町村ニ於テ募集ヲ行フトキハ市町村又ハ郡ノ區域ニ依ルモ支障ナキコト

六、募集從事者數ハ各國民職業指導所管轄區域内ニ於テ同時ニ募集ニ從事セシムベキ募集從事者ノ員數ヲ記載スルコト

七、募集用文書ノ「掲出又ハ頒布ノ方法」ノ欄ニハ掲出又ハ頒布數、掲出又ハ頒布ノ場所及掲出又ハ頒布ノ方法ヲ簡明ニ記載スルコト

八、(乙)樣式ノ「廣告ノ内容」ノ欄ニハ廣告ニ記載スル文字及圖畫ヲ廣告面ニ於ケル配列ノ通記載シ且文字ノ大サヲ明示スルコト

九、新聞、雜誌其ノ他ノ定期出版物ニ掲載スル廣告ニ付テハ新聞ノ地方版、市内版ノ如キ出版物ノ一部ノ版ノミニ掲載スル場合ニハ募集廣告ヲ掲載スル出版物ノ「名稱」ノ欄ニハ其ノ廣告ヲ掲載スベキ版ヲ明示スルコト

樣式第二號

〔北海勞〕

勞務者募集計畫書

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地		
	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名		
就業場所			
就業名稱			
應募者ヲシテ就業セシムベキ事業			

募集及地	募集地道府縣別	職種別	男女別		
			男	女	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
			人	人	
		計	人	人	

〔北海勞〕

集人員			
		計	
男	女	男	女
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人
人	人	人	人

募集期間	自　年　月　日 至　年　月　日 日間
募集ノ方法	

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列5番(182mm×257mm)トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所ヲ、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「募集ノ方法」ノ欄ニハ募集用文書ノミニ依ル募集ナリヤ募集從事者ヲ使用スル募集ナリヤ明ニスルコト

〔北海勞〕

様式第三號

勞務者募集文書掲出頒布屆

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地	
	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名	
就業場所	所在地	
	名稱	
	應募者ヲシテ就業セシムベキ事業	
募集許可ノ年月日及番號		年　月　日　第　號
掲出又ハ頒布セントスル文書ノ數		
	掲出又ハ頒布ノ期間	自　年　月　日 至　年　月　日 日間
掲出又ハ頒布セントスル地域及其ノ方法		

右勞務者募集文書掲出頒布可致文書寫通添附此段及屆出候也

年　月　日

住所又ハ主タル事務所所在地

〔北海勞〕

様式第四號

國民職業指導所長　殿

届出人　氏名又ハ名稱及
代表者ノ氏名　㊞

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列5番(18 mm × 257 mm)トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所ヲ、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「掲出又ハ頒布セントスル地域及其ノ方法」ノ欄ニハ掲出ノ場所又ハ頒布ノ地域竝ニ掲出又ハ頒布ニ從事セシメントスル者、掲出又ハ頒布ノ方法ヲ簡明ニ記載スルコト

四、本書ニ添附スベキ募集ニ關シ掲出又ハ頒布スル文書ハ原則トシテ實物大ノモノナルコトヲ要スルモ其ノ大サ著シク大ニシテ添附シ難キモノニ付テハ縮寫セルモノトシ且其ノ大サヲ明示スルコト

勞務者募集從事委託書

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地	就業場所	所在地
	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名		名稱
			應募者ヲシテ就業セシムベキ事業
募集從事者	本籍		
	住所		
	氏名及生年月日		年　月　日生
	職業		
委託ノ內容			
報償			

㊞

（表　面）

（寫　眞）

年　月　日交付

契印

年　月撮影

（眞　面）

【北海勞】

様式第五號

勞務者募集者手帳

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地 氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名
就業場所	
業名	聽集者ヲシテ就業セシムベキ事業
稱	

備考

一、本帳ノ用紙ノ大サハ日本標準規格A列7番(74mm×105mm)トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所ヲ、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「委託ノ内容」ノ欄ニハ某府縣内ニ於ケル聽募ノ勸誘、聽募者ノ銓衡、聽募者ノ引率等ノ如ク記載スルコト

四、「(寫眞)」ノ欄ニハ本人ノ名刺型、正面、半身、無帽ノ寫眞ヲ貼附ノ上契印ヲ爲シ撮影年月ヲ其ノ下ニ記載スルコト

【北海勞】

募集許可ノ年月日及番號	
募集從事者　本籍	
募集從事者　住所	
募集從事者　氏名及生年月日	年　月　日生　職業
委託ノ內容	
募集著手年月日	年　月　日
募集終了豫定年月日	年　月　日
募集豫定人員　職種別	男　人　女　人　計　人
募集從事中ノ居所	
募集事務所	
應募者ノ集合場所及日時	年　月　日午　時　分
備考	

〔北海參〕

右勞務者募集ニ著手可致勞務者募集從事委託書及頒布文書ノ寫　通揭出文書ノ寫　通添附此段及屆出候也

年　月　日

住所
屆出人氏名　印

國民職業指導所長　殿

〔北海參〕

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列4番(257mm×364mm)トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所ヲ、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「委託ノ內容」ノ欄ニハ某府縣內ニ於ケル應募ノ勸誘、應募者ノ鉉衡、應募者ノ引率等ノ如ク記載スルコト

四、「募集豫定人員」ノ欄ニハ屆出人ガ應募ノ勸誘ヲ爲シ應募セシムル豫定人員ヲ記載スルコト

五、募集ニ關シ頒布又ハ揭出スル文書アルトキハ其ノ文書ノ種類、數、頒布又ハ揭出ノ場所及方法ヲ「備考」欄ニ簡明ニ記載スルコト

六、應募者ヲ引率出發スル場合ニ於ケル集合ノ場所及日時ヲ定メタルトキハ「應募者ノ集合場所及日時」欄ニ其ノ場所及日時ヲ記載スルコト

七、應募者ノ鉉衡ヲ爲ス募集從事者ハ鉉衡ノ場所及日時ヲ「備考」欄ニ記載スルコト

八、本書ニ添附スヘキ募集ニ關シ揭出又ハ頒布スル文書ノ寫ハ原則トシテ實物大ナルコトヲ要スル毛其ノ大サ著

シク大ニシテ添附シ難キモノニ付テハ縮寫セルモノトシ且其ノ大サヲ明示スルコト

九、他ノ募集從事者ノ勸誘シタル應募者ノ引率旅行ノミヲ爲ス募集從事者ハ本屆ヲ提出スルコトヲ要セザルコト

様式第六號

第　號

年　月　日交付

勞務者募集從事證

住　所

募集從事者　氏　名

年　月　日生

國民職業指導所名印

（表　面）

〔北海勞〕

募集許可ノ年月日及番號

募集主

住所又ハ主タル事務所所在地

氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名

就業場所

名稱

應募者ヲシテ就業セシムベキ事業

募集者手年月日

募集終了豫定年月日

募集豫定人員　男　人　女　人

募集從事中ノ居所

募集事務所

年　月　日第　號

年　月　日

年　月　日

備考

（裏　面）

〔北海勞〕

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格A列7番(74mm×105mm)トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「募集豫定人員」ノ欄ニハ應募ノ勸誘ヲ爲シ應募セシムル豫定人員ヲ記載スルコト

四、募集ニ關シ頒布又ハ掲出スル文書ノ種類、數、頒布又ハ掲出ノ場所及方法竝ニ應募者ノ會場ノ場所及日時ヲ「備考」欄ニ記載スルコト

様式第七號

(甲)

勞務者募集従事證再交付申請書

募集許可ノ年月日及番號	年　月　日第　號
募集従事證交付年月日及番號	年　月　日第　號
事由	

右勞務者募集従事證紛失ニ付再交付相成度勞務者募集従事委託書添附此段及申請候也

毀損

〔北海勞〕

年　月　日

國民職業指導所長　殿

住所
申請人　氏　名印

(乙)

勞務者募集従事證書換申請書

募集許可ノ年月日及番號	年　月　日第　號
募集従事證交付年月日及番號	年　月　日第　號
事由	
變更アルタル事項	

右勞務者募集従事證記載事項變更ニ付勞務者募集従事委託書添附此段及申請候也

年　月　日

國民職業指導所長　殿

住所
申請人　氏　名印

〔北海勞〕

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列5番(182mm×257mm)トスルコト

二、第十四條第二項ノ規定ニ依ル申請ハ(甲)樣式ニ、同條第三項ノ規定ニ依ル申請ハ(乙)樣式ニ依ルコト

三、(甲)樣式ノ「事由」ノ欄ニハ滅失、紛失、毀損ノ事由ヲ記載シ、(乙)樣式ノ「事由」ノ欄ニハ變更ノ事由ヲ記載スルコト

四、毀損ノ場合ニハ(甲)樣式ノ申請書ニ毀損シタル勞務者募集從事證ヲ添附スルコト

樣式第八號

應募者引率旅行屆

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地	
	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名	
就業場所	所在地	
	名稱	
	應募者ヲシテ就業セシムベキ事業	
募集許可ノ年月日及番號		
募集從事者	本籍	
	住所	

年　月　日　節

〔北海勞〕

事者	氏名及生年月日	年　月　日生	職業
委託ノ內容			
出發ノ場所			
出發ノ日時		年　月　日　午　時　分	
旅行經路			
途中宿泊ノ場所及日時		年　月　日　午　時　分	
就業場到著ノ日時		年　月　日　午　時　分	
備考			

右應募者引率旅行可致別紙應募者一覽表及勞務者募集從事委託書添附此段及屆出候也

年　月　日

住所
屆出人氏名

國民職業指導所長　殿

〔北海勞〕

（別紙）

應募者一覽表

氏名	生年月日	住所	保護者ノ氏名及續柄	備考
	年　月　日			
	年　月　日			
	年　月　日			

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列4番(257mm×364mm)、別紙ノ用紙ノ大サハ同B列5番(18?mm×25?mm)又ハB列4番トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

〔北海勞〕

三、「委託ノ內容」ノ欄ニハ某府縣內ニ於ケル應募ノ勸誘、應募者ノ銓衡、應募者ノ引率等ノ如ク記載スルコト

四、「旅行經路」ノ欄ニハ汽車、汽船、自動車其ノ他船車馬ヲ利用スルトキハ其ノ種類、經由路線名、乘下車船地及乘下車船日時、徒歩ニ依ルトキハ其ノ起終點及其ノ出發到着日時ヲ記載スルコト

五、應募者一覽表ハ男女各別紙トスルコト

六、應募者ノ「住所」ノ欄ニハ應募者ノ募集當時ノ住所ヲ、「保護者ノ氏名及續柄」ノ欄ニハ第二十二條ノ規定ニ基キ承諾ヲ與ヘタル者ノ氏名及其ノ者ノ應募者トノ關係ヲ記載スルコト

〔北海勞〕

様式第九號

第　號

年　月　日交付

應募者引率旅行證

住所
募集從事者　氏名
年　月　日生

國民職業指導所名　印

（表面）

〔北海券〕

募集許可ノ年月日及番號	年　月　日第　號
募集主 住所又ハ主タル事務所所在地	
募集主 氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名	
就業場所 所在地	
就業場所 名稱	
就業場所 應募者ヲシテ就業セシムベキ事業	
出發ノ場所及日時	年　月　日午　時　分
旅行經路	
途中宿泊ノ場所及日時	年　月　日午　時　分
就業場到著ノ日時	年　月　日午　時　分
備考	

（裏　面）

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格A列7番(74mm×105mm)トスルコト

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「旅行經路」ノ欄ニハ汽車、汽船、自動車其ノ他船車馬ヲ利用スルトキハ其ノ種類、經由路線名、乗下車船地及乗下車船日時、徒歩ニ依ルトキハ其ノ起終點及出發、到著ノ日時ヲ記載スルコト

四、引率スル應募者ノ員數ヲ男女別ニ備考欄ニ記載スルコト

様式第十號（應募者名簿）

番號	氏名	男女別	生年月日	本籍地	住所	保證者ノ氏名及續柄	應募年月日	出發年月日	應募地	前渡金	旅費 汽車賃	旅費 汽船賃	旅費 車馬賃	旅費 宿泊料	旅費 雑費其ノ他	備考
			年月日				年月日	年月日								
			年月日				年月日	年月日								
			年月日				年月日	年月日								
			年月日				年月日	年月日								
			年月日				年月日	年月日								

		年月日			年月日	年月日					
		年月日			年月日	年月日					

備考

一、本簿ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列5番(182mm×257mm)トスルコト

二、「本籍地」ノ欄ハ道府縣名ニ依リ記載スルコト

三、「住所」ノ欄ニハ應募者ノ應募當時ノ住所ヲ記載スルコト

四、「保護者ノ氏名及續柄」ノ欄ニハ第二十二條ノ規定ニ基キ承諾ヲ與ヘタル者ノ氏名及其ノ者ト應募者トノ關係ヲ記載スルコト

五、「前渡金」ノ欄ニハ就業場到著前ニ於テ應募者又ハ之ヲ保護スル者ニ交付シタル金額ヲ記載スルコト、返還スルコトヲ要スルモノニ付テハ括弧又ハ朱書ヲ以テ記載スルコト

六、「旅費」ノ欄ノ記載ニ付テハ應募者ノ入場ニ要シタル費用ニシテ就業後返還スルコトヲ要スベキモノ(條件附ニテ返還ヲ要セザルモノヲ包含ス)ヲ記載スルコト

七、本樣式ハ横書トナスモ支障ナキコト

八、本樣式各欄ノ位置ヲ多少變更シ又ハ所定以外ノ欄ヲ設クルモ支障ナキコト

〔北海勞〕

〔北海勞〕

九、本簿ニハ募集主ノ住所及氏名(法人ナルトキハ主タル事務所所在地及名稱)、應募者ノ就業場ノ所在地及名稱並ニ募集從事者ノ住所及氏名ヲ記載シタル表紙ヲ附スルコト

樣式第十一號

勞務者募集狀況屆(年　月　分)										住所 募集從事者氏名　　印	
募集許可ノ年月日及番號		年　月　日　第　號			募集從事證交付ノ年月日及番號		年　月　日　第　號				
應募人員	職種別									計	
	男女別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	本月中應募人員										
	同上中未出發人員										
	本月中出發人員										

應募者一覽表

男女別	職種別	氏名	生年月日	住所	保護者氏名及續柄	應募月日	出發月日	備考
			年月日			月日	月日	
			年月日			月日	月日	

年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列4番(257mm×364mm)トスルコト

二、「住所」ノ欄ニハ應募者ノ應募當時ノ住所ヲ記載スルコト

三、「保護者ノ氏名及續柄」ノ欄ニハ第二十二條ノ規定ニ基キ承諾ヲ與ヘタル者ノ氏名及其ノ者ト應募者トノ關係ヲ記載スルコト

〔北海勞〕

四、應募者一覽表ニハ其ノ月中ニ應募シタル者全部ノ外前月迄ニ應募シタル者ニシテ其ノ月中ニ出發シタルモノヲ記載スルコト

〔北海勞〕

様式第十二號

勞務者募集終了届

募集主	住所又ハ主タル事務所所在地	氏名又ハ名稱及理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名
就業場	所在地	
	名稱	應募者ヲシテ就業セシムベキ事業
募集許可ノ年月日及番號		年　月　日第　號

募集從事者	本籍			
	住所			
	氏名及生年月日		年　月　日生	職業

委託ノ内容						
募集着手年月日	年　月　日					
募集終了年月日	年　月　日					
募集人員	職種別					計
	男	人	人	人	人	人
	女	人	人	人	人	人
考慮						

右勞務者募集ヲ終了致候ニ付勞務者募集従事證發出ニ關シ届出候也

年　月　日　　住所

届出人　氏名　㊞

國民徴用指導所長　殿

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列4番(257mm×364mm)トスルコト

〔裏面参〕

〔裏面続〕

二、募集主ノ「住所又ハ主タル事務所所在地」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ住所ヲ、法人ナルトキハ主タル事務所所在地ヲ記載シ、「氏名又ハ名稱及代表者其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名」ノ欄ニハ募集主個人ナルトキハ其ノ氏名ヲ、法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ氏名ヲ記載スルコト、代表者其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員數名アルトキハ其ノ主タル者ノ氏名ヲ記載スルコト

三、「委託ノ内容」ノ欄ニハ某府縣内ニ於ケル鑛業ノ勤勞、鑛業者ノ企業、鑛業者ノ引番者ノ如ク記載スルコト

四、「募集人員」ノ欄ニハ届出人カ鑛業ノ勤勞ヲ爲シ鑛業セシメタル人員ヲ記載スルコト

五、鑛業者中未出發者アルトキハ其ノ人員、届出後ニ於ケル出發ノ豫定ヲ「備考」欄ニ記載スルコト

六、鑛業者ノ企業ヲ爲ス業務從事者ハ其ノ企業ノ狀況ヲ「備考」欄ニ記載スルコト

七、他ノ業務從事者ノ勤勞シタル鑛業者ノ引率旅行ノミヲ爲ス業務從事者ハ本届ヲ提出スルコトヲ要セザルコト

様式第十三號

勞務者募集狀況届（　年　月分）	募集主住所(主タル事務所所在地)及氏名(名稱)　㊞
應募者ノ就業場ノ所在地及名稱	

雇入人員											募集許可年月日及番號
區別＼職種別									計		
募集地道府縣名＼男女別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	

募集ニ依ル雇入人員													年月日	第號
													年月日	第號
													年月日	第號
													年月日	第號
													年月日	第號
													年月日	第號
計														
募集及國民職業指導所ノ紹介ニ依ラザル雇入人員														

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列5番(182mm×257mm)又ハB列4番(257mm×364mm)トスルコト

二、募集ニ依ル雇入人員ハ募集地道府縣別ニ之ヲ記載シ道府縣名、募集ニ依ル雇入人員、募集許可ノ年月日及番號ヲ夫々記載スルコト

三、文書ニ依ル募集ニ付テハ應募者ガ應募スルニ付其ノ文書ヲ見タル地ノ道府縣ヲ募集地道府縣トスルコト

四、出版物(勞務者ノ募集ノミヲ目的トシテ出版スルモノヲ除ク)ニ掲載スル廣告ニ依ル募集ニ付テハ其ノ出版物ノ名稱ヲ募集地道府縣名ノ欄ニ記載スルコト

五、「募集及國民職業指導所ノ紹介ニ依ラザル雇入人員」ノ欄ニハ其ノ月中ノ當該就業場ニ於ケル雇入總人員中募集ニ依リ雇入レタル人員及國民職業指導所ノ紹介ニ依リ雇入レタル人員ヲ除キタル人員ヲ記載スルコト

〔北海勞〕

●勞務供給事業規則

昭和十三年六月二十九日
厚生省令第十八號

改正　昭和一五年厚生省令第四九號、一六年第五號

勞務供給事業規則左ノ通定ム

勞務供給事業規則

第一條　本令ハ職業紹介法(以下法ト稱ス)第八條ノ規定ニ依ル勞務供給事業ニ之ヲ適用ス

第二條　法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ勞務供給事業ハ勞務者ヲ有料ニテ又ハ營利ノ目的ヲ以テ常時十人以上供給スル事業トス

第三條　勞務供給事業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ具シ事業所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ申請スベシ

一　本籍、住所、氏名、年齢及履歴、法人ナルトキハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、定款、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ住所、氏名及履歴

二　事業所ノ所在地及名稱

三　主トシテ勞務者ヲ供給スル區域又ハ勞務者ノ主タル供給先

四　所屬勞務者ノ職種別員數

〔北海勞〕

五　所屬勞務者ニ支給スル賃金其ノ他ノ給與ノ額及支給方法

六　供給ニ依ル收益方法又ハ報償ノ額若ハ率

七　他ノ勞務供給事業ヲ行フ者ニ對シ所屬勞務者ヲ供給スル場合ノ利益ノ配分方法

八　他ノ者ヨリ供給ヲ受ケタル勞務者ヲ供給スル場合ノ利益ノ配分方法

九　所屬勞務者ノ業務上ノ負傷、疾病、死亡等ニ對スル扶助其ノ他ノ措置

十　所屬勞務者ニ對スル金品ノ貸付及回收方法

十一　所屬勞務者ノ宿泊施設ヲ設クルトキハ其ノ所在地、構造(平面圖添附)、宿泊定員及宿泊料金額

十二　所屬勞務者ニ對スル福利施設ヲ設クルトキハ其ノ內容

第四條　勞務供給事業ヲ行フ者(以下供給業者ト稱ス)ハ事業所ノ所在地、前條第三號乃至第十二號ノ事項又ハ法人ノ定款若ハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ變更セントスルトキハ事業所所在地ヲ管轄スル地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第五條　前二條ノ許可ノ申請書ハ事業所(一道府縣內ニ數事

廳所ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ道府縣内ニ於ケル主タル事業所）所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ヲ經由スベシ

第六條　供給業者及其ノ同居ノ戸主、家族ハ藝屋、料理屋、飲食店、貸座敷、待合、藝妓屋、遊戲場、藝妓娼妓酌婦若ハ之ニ類スルモノノ周旋業、質屋、古物商、金錢貸付業其ノ他之ニ類スル營業ヲ爲シ又ハ其ノ營業者ノ從業者トナルコトヲ得ズ但シ地方長官支障ナシト認メテ認可シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ供給業者法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ノ法定代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　供給業者ハ未成年者、禁治產者、準禁治產者又ハ妻ニシテ其ノ法定代理人、後見人、保佐人又ハ夫ノ承諾ナキ者ヲ所屬勞務者ト爲スコトヲ得ズ但シ已ムヲ得ザル事由ニ因リ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハザル場合ニ於テ本人ヲ保護スル者ノ承諾アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條ノ二　供給業者ハ從業者移動防止令第二條ノ指定從業者ヲ所屬勞務者ト爲スコトヲ得ズ

第八條　供給業者ハ左ニ掲ゲル行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　事業ニ關シ詐欺又ハ虛僞ノ廣告又ハ揭示ヲ爲スコト

二　所屬勞務者ノ意思ニ反シテ供給ヲ爲スコト

三　金品ヲ給與シ又ハ貸付ケテ所屬勞務者タルコトヲ勸誘スルコト

四　被傭中ノ者ヲ勸誘シ所屬勞務者トスルコト

五　所屬勞務者ニ對シ其ノ財物ノ保管ヲ求メ又ハ保管シタル財物ノ返還ヲ故ナク拒ムコト

六　所屬勞務者ニ對シ財物ノ賣買又ハ賃入ヲ勸誘スルコト

七　所屬勞務者ノ財物ヲ買受ケテ不當ノ利益ヲ得ルコト

八　所屬勞務者ニ對シ風俗ヲ紊ル虞アル行爲ヲ爲スコト

九　所屬勞務者ニ對シ遊興ヲ勸誘シ又ハ其ノ案内ヲ爲スコト

十　所屬勞務者ノ外出、通信若ハ面接ヲ妨ゲ其ノ他所屬勞務者ノ自由ヲ拘束シ又ハ苛酷ナル取扱ヲ爲スコト

十一　當該官吏又ハ所屬勞務者ヲ保護スル者ニ對シ所屬勞務者ノ所在ヲ隱蔽シ又ハ之ヲ僞ルコト

十二　所屬勞務者ノ宿泊施設ニ定員ヲ超エテ宿泊セシムルコト

十三　前各號ノ外所屬勞務者ノ宿泊施設ニ所屬勞務者ニ非ザル者ヲ宿泊セシムルコト

第九條　供給業者從業者ヲ使用スルトキハ使用開始ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ本籍、住所、氏名、年齡及履歷ヲ事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

第六條第一項、前條第五號乃至第九號及其ノ細則ノ規定ハ從業者ニ之ヲ準用ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ供給業者ハ七日以内ニ事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

一　供給業者ノ本籍、住所、氏名（法人ナルトキハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地、理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ住所又ハ氏名）又ハ事業所ノ名稱ヲ變更シタルトキ

二　供給業者廢業シタルトキ

三　從業者ノ使用ヲ罷メタルトキ

四　從業者ノ住所又ハ氏名ニ變更アリタルトキ

五　從業者死亡シタルトキ

供給業者死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ戸主ヨリ、供給業者タル法人解散シタルトキハ清算人ヨリ前項ニ準ジ届出ヅベシ

第十一條　供給業者ハ事務所ニ左ノ帳簿ヲ備ヘ日日供給ニ關スル事項ヲ記載スベシ

一　所屬勞務者名簿（樣式第一號）

二　勞務者供給簿（樣式第二號）

三　賃金受拂簿（樣式第三號）

前項ノ帳簿ハ最後ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第十二條　供給業者ハ毎月五日迄ニ前月ノ事業狀況ヲ各事業所毎ニ樣式第四號ニ依リ事業所所在地ヲ管轄スル國民職業指導所長ニ届出ヅベシ

第十三條　當該官吏ハ供給業者ニ對シ書類、帳簿ノ提示ヲ命ズルコトヲ得

第十四條　地方長官必要アリト認ムルトキハ第三條第四號乃至第十二號ノ事項ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十五條　地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事業ヲ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトヲ得

一　供給業者本令若ハ本令ニ基ク命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

二　供給業者正當ノ事由ナクシテ六月以上其ノ業務ヲ行ハザルトキ

三　前各號ノ外供給業者事業ヲ行フニ適セズト認ムルトキ

第十六條　國民職業指導所長ハ從業者勞務供給事業ニ從事セシムルニ適セズト認ムルトキハ其ノ使用ヲ禁止スルコトヲ得

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一　第四條、第六條乃至第八條、第九條第一項、第十條乃至第十二條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十一條第一項ノ帳簿ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

三　第十三條、第十四條又ハ第十六條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタル者

四　第十五號ノ規定ニ依リ事業ヲ停止セラレタル者ニシテ其ノ停止期間中事業ヲ行ヒタル者

第十八條　本令ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ其ノ事業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ノ法定代理人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

供給業者ハ從業者、同居ノ戶主、家族又ハ雇人ニシテ其ノ事業ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十九條　地方長官ハ厚生大臣ノ認可ヲ受ケ第二條ノ規定ニ拘ハラズ業務ノ種類ヲ限リ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第二十條　本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

第二十一條　本令中地方長官トアルハ附則第二項ヲ除クノ外東京府ニ在リテハ東京府知事及警視總監トス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五條第二項ノ規定ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條ノ規定ニ依リ職業紹介所長ニ爲スベキ屆出ハ昭和十四年三月三十一日迄ハ事業所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ

法第二十二條ノ勞務供給事業ヲ行フ者又ハ其ノ同居ノ戶主若ハ家族本令施行ノ際現ニ第六條ノ規定ニ依リ禁止セラレタル事項ヲ行フトキハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケテ本令施行ノ日ヨリ一年ヲ限リ其ノ事項ヲ行フコトヲ得

附　則（昭和十五年厚生省令第四十九號）

本令ハ昭和十五年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ行フ勞務供給事業ニシテ從前ノ規定ニ依リ法第八條第一項ノ許可ヲ受クルコトヲ要セザリシモノニ付テハ其ノ事業ヲ行フ者ガ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第三條ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル場合ニ限リ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分アル迄第二條ノ規定ニ拘ラズ法第八條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ事業ニ非ザルモノトス

別記

樣式第一號（所屬勞務者名簿）

登錄番號	所屬勞務者トナリタル年月日	本籍地 道府縣	住所	職種	氏名及生年月日
	年 月 日				年 月 日生
	年 月 日				年 月 日生
	年 月 日				年 月 日生
	年 月 日				年 月 日生
	年 月 日				年 月 日生
	年 月 日				年 月 日生

備考

一、本簿ニハ所屬勞務者ヲ所屬勞務者トナリタル時ノ順ニ連記スルコト

二、記載事項ニ異動アリタルトキハ直ニ整理訂正スルコト

三、所屬勞務者所屬勞務者タラザルニ至リタルトキハ朱線ヲ以テ之ヲ抹消シ其ノ年月日ヲ欄外ニ附記スルコト

四、登錄番號ハ各簿冊每ニ一貫番號トスルコト

五、「職種」ノ欄ニハ職工、大工、人夫、仲仕、家事婦、附添婦、料理人、給仕人等所屬勞務者ノ職種ノ名稱ヲ具

體的ニ記載スルコト

六、本簿ハ横書ト爲スモ支障ナキコト

七、本簿ハ職種別、男女別ニ別冊ト爲スモ支障ナキコト、職種別ニ別冊ト爲シタルトキハ表紙ニ其ノ職種ヲ明記シ「職種」ノ欄ヲ省略スルモ支障ナキコト

八、本簿ノ各欄ノ位置ヲ若干變更シ又ハ所定以外ノ欄ヲ設クルモ支障ナキコト

様式第二號(勞務供給簿)

(甲)

供給年月日	供給先名稱	供給先業種別	供給人員 男	供給人員 女	供給シタル勞務者ノ氏名又ハ登錄番號
月日年					
月日年					
月日年					
月日年					

(乙)

所屬勞務者ノ氏名	供給月日
	月日
	月日
	月日
	月日
	月日

供給先				
				月日
				月日
				月日
				月日
				月日

備考

一、所屬勞務者多數ニシテ且一供給先ニ同時ニ相當數ノ勞務者ヲ供給スル事業ニ在リテハ原則トシテ(甲)様式ニ依リ其ノ他ノ事業ニ在リテハ原則トシテ(乙)様式ニ依ルコト

二、(乙)様式ハ所屬勞務者ノ職種別ニ別冊トシ表紙ニ其ノ職種名ヲ明記スルコト

三、「供給先」ノ欄ニハ何々工場、何々會社、何々商店、何々病院、何町何某等具體的ニ記載スルコト

四、供給シタル勞務者ノ職種別ハ職工、大工、人夫、仲仕、家事婦、附添婦、料理人、給仕人等所屬勞務者ノ職種ノ名稱ヲ具體的ニ記載スルコト

五、「登錄番號」ハ所屬勞務者名簿ノ登錄番號ヲ用フルコト、所屬勞務者名簿數冊アルトキハ其ノ區分ヲ明ニスルコト

六、所屬勞務者ノ職種ガ一ノミナル事業ニ在リテハ「職種別」ノ欄ハ之ヲ設ケザルモ支障ナキコト

七、本簿ハ横書ト爲スモ支障ナキコト

八、本簿ノ各欄ノ位置ヲ若干變更シ又ハ所定以外ノ欄ヲ設クルモ支障ナキコト

様式第三號(賃金受拂簿)

受拂 年月日	供給先ヨリノ收受 供給先	貸金收受總額又ハ勞務供給請負金收受總額	手數料其ノ他ノ報償收受總額	所屬勞務者ヘノ支拂及所屬勞務者ヨリノ收受 職種別	性別	人員	貸金支拂總額	手數料其ノ他ノ報償收受總額	備考
月 年 日									
月 年 日									
月 年 日									
月 年 日									

備考

一、本簿ニハ貸金、請負金、手數料其ノ他勞務ノ供給ニ關シ收受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ其ノ都度必要事項ヲ記載スルコト

二、本簿ハ供給先ヨリノ收受簿ト所屬勞務者ヘノ支拂及所屬勞務者ヨリノ收受簿トノ二ニ區分スルモ支障ナキコト

右ノ場合ニ於テ同一ノ供給先ニ繼續シテ供給スルトキハ收受簿ハ供給先毎ニ口座ヲ別トシ日日ノ供給先ノ記載ヲ省略スルモ支障ナキコト

三、本簿ハ毎月其ノ月中ノ各欄ノ金額ヲ集計シ之ヲ朱記シ置クコト

〔北海勞〕

四、本簿ハ横書ト爲スモ支障ナキコト

五、本簿ノ各欄ノ位置ヲ若干變更シ又ハ所定以外ノ欄ヲ設クルモ支障ナキコト

〔北海勞〕

様式第四號

勞務供給事業狀況（年 月分）

職種別	所屬勞務者員數 男	女	計	勞務供給狀況 供給延人員 男	女	計	貸金 最高	最低	普通	備考
計										

供給業者 住所 氏名 印

備考

一、本書ノ用紙ノ大サハ日本標準規格B列5番(182mm×257mm)トスルコト

二、「所屬勞務者員數」欄ニハ所屬勞務者ノ各月末現在ノ員數ヲ記載スルコト

三、職種別ハ職工、大工、人夫、仲仕、家事婦、附添婦、料理人、給仕人等所屬勞務者ノ職種ノ名稱ヲ具體的ニ

記載スルコト

四、賃金ハ原則トシテ定額賃金(日給)ニ依リ普通賃金ハ供給シタル労務者ノ各職種毎ニ同一賃金ノ最モ多数アリシモノヲ記載シ、月給、出来高払等ノ場合ニハ備考欄ニ註記スルコト

二　認可ヲ受ケントスル営業若ハ業務ノ種類

第三條　労務供給事業ヲ行フ者(以下供給業者ト稱ス)規則第三條第十一號ノ規定ニ依リ所属労務者ノ宿泊施設ヲ設クルトキハ左ノ制限ニ依ルベシ

一　定員ハ寝室ノ面積二・四八平方メートル(押入及床ノ間ヲ除ク)ニ付一人以下ノ割合トナスコト

二　換気、採光及防湿ニ關シ適當ナル施設ヲナスコト

三　宿泊定員二十人ヲ超ユルトキハ適當ノ箇所ニ非常口ヲ設クルコト但シ建物ノ構造及土地ノ狀況ニ依リ避難上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

四　二階以上ノ室ニシテ定員二十人ヲ超ユルトキハ各階適當ノ箇所ニ二以上ノ階段(中一ハ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズルコトヲ要ス)ヲ設クルコト

五　寝室又ハ居室ハ便所ヨリ二メートル以上ノ距離ヲ有スルコト

六　各室ニハ其ノ定員ヲ踏易キ場所ニ揭示スルコト

第四條　規則第三條第十一號ノ規定ニ依ル平面圖ニハ各室ノ用途、坪數及定員並ニ非常口、階段、廊下及窓ノ位置等ヲ表示スベシ

第五條　供給業者ハ規則第八條各號ニ揭グルモノノ外左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　所属労務者又ハ其ノ利害關係人ノ印章又ハ署名捺印若ハ指印シタル白紙ヲ預ルコト

二　所属労務者ニ對シ業務ノ種類、作業ノ場所、賃金其ノ他労務ノ條件等ヲ詐ルコト

三　所属労務者ノ技倆、業務ノ經歷、年齡若ハ心身ノ狀況ヲ詐リ又ハ心身ノ缺陷ヲ隱蔽シ供給スルコト

四　所属労務者ニ對シ衣服、食料品其ノ他ノ物品ノ取次販賣ヲ爲シ利益ヲ得ルコト

第六條　供給業者ハ所属労務者ヲシテスル者ニ者ニ對シ規則第三條各號ノ事項ヲ記載シタル文書ヲ提示シ其ノ主旨ヲ明示スベシ

第七條　供給業者ハ左ノ各號ニ該當スル者ヲ従業者トシテ使用スルコトヲ得ズ但シ所轄職業紹介所長ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

一　禁治産者又ハ準禁治産者

二　家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權ヲ得ザル者

三　文書又ハ印章偽造、猥褻、姦淫、賭博、殺人、傷害、堕胎、逮捕、監禁、脅迫、略取、誘拐、窃盗、強盗、詐欺、强喝、横領又ハ贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル者

四　密貿淫又ハ其ノ媒合若ハ容止ノ罪ヲ犯シタル者

五　紹介、周旋、労務供給等ノ事業ニ關スル法令ニ依リ事業ノ許可ヲ取消サレ又ハ従業者タルコトヲ禁止セラレタル者

六　労働者募集従事者ノ許可ヲ取消サレ又ハ労務者ノ募集ニ従事スルコトヲ禁止セラレタル者

第七條ノ二　職業紹介所長ハ必要アリト認ムルトキハ供給業者ニ對シ其ノ所属労務者ノ供給ノ禁止又ハ解用ヲ命ズルコトアルベシ

第八條　供給業者ハ規則第十一條ノ規定ニ依ル帳簿ノ外第一號様式ニ依ル賃金精算簿ヲ備フベシ

前項ノ帳簿ハ最後ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第九條　規則第十一條及前條ノ規定ニ依リ供給業者ノ備フベキ帳簿ハ其ノ使用ニ先立チ本業所職業紹介所ノ檢印ヲ受クベシ

第十條　供給業者組合ヲ設ケタルトキハ規約ヲ定メ所轄職業

●労務供給事業規則施行細則

昭和十三年九月三十日
北海道訓令第六十七號

改正　昭和一六年一月訓令第三號

労務供給事業規則施行細則左ノ通定ム

労務供給事業規則施行細則

第一條　本令ハ労務供給事業規則(以下規則ト稱ス)第一條ノ規定ニ依ル労務供給事業ニ之ヲ適用ス

第二條　法令ノ規定ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタル者ニ非ザレバ従事スルコト能ハザル業務ニ従事スル労務者ヲ供給スル事業ハ當該業務ニ従事スルコトヲ得ル者ニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

第二條ノ二　規則第六條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスル者ハ左ニ揭グル事項ヲ具シ戸籍抄本及身元證明書ヲ添ヘ(事業所所在地ヲ管轄スル職業紹介所長(以下所轄職業紹介所長ト稱ス)ヲ經由シ長官ニ申請スベシ

一　本籍、住所、氏名、年齡及經歷